



2025年 ビジネス&サステナビリティレポート

アフラック・インコーポレーテッドについて

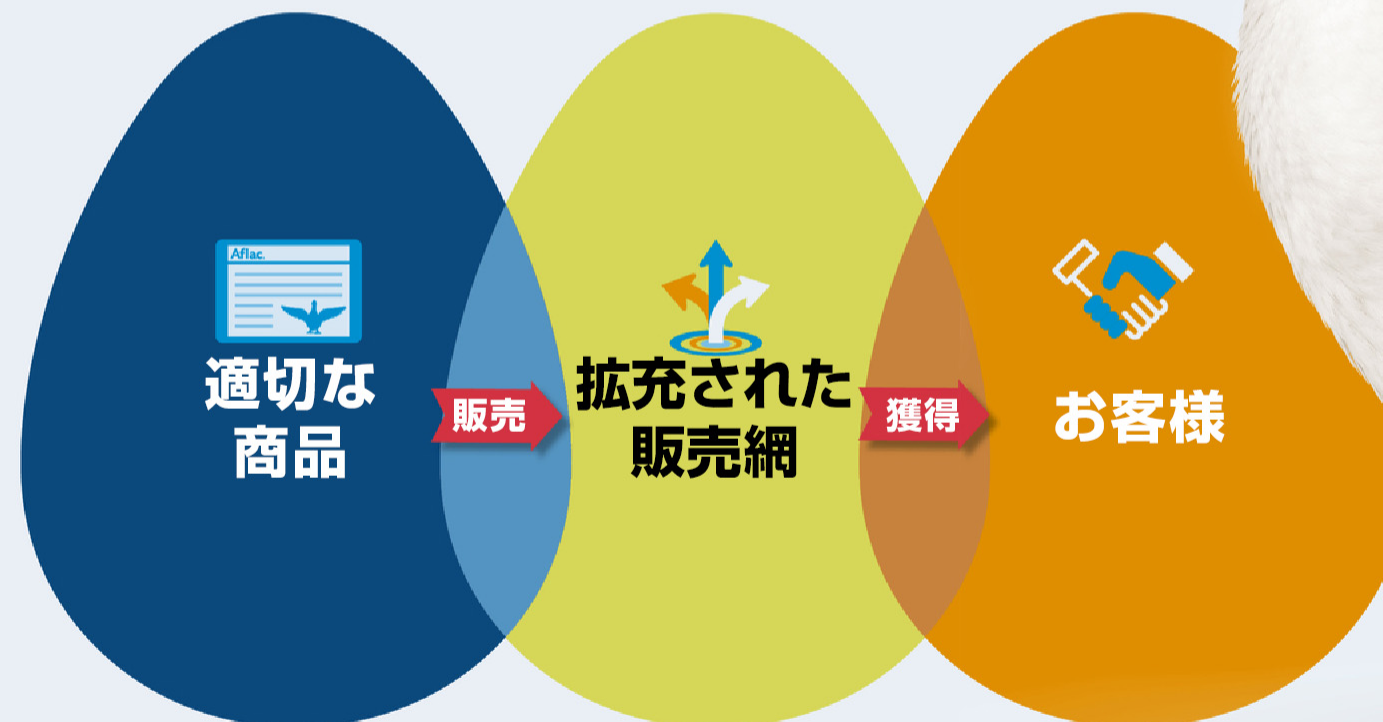
アフラック・インコーポレーテッド（以下「当社」）は、子会社を通じて世界中の数千万人ものご契約者およびお客様に経済的保障を提供しています。当社の主要な事業は補完医療保険および生命保険事業であり、日米においてご契約者に最高の価値の商品を提供することを目標としています。70年以上にわたり、当社子会社の保険契約は、ご契約者の皆様が経済的な負担を抱えずに回復に専念する機会を提供してきました。米国では、アフラックは補完医療保険商品No.1の会社です^{*1}。日本では、アフラック生命保険株式会社は、がん保険・医療保険の保有契約件数における最大手の会社です^{*2}。

当社の長期的な成長戦略

米国と日本における当社の成長戦略は、長年にわたりシンプルかつ一貫したものです。当社は、お客様の主な健康保険ではカバーされない病気や医療の利用によって生じる思わぬ自己負担からお客様をお守りするための補完的医療保険を開発しています。また、お客様のニーズに合わせて、その他の任意保険、雇用主負担の健康保険および生命保険商品も提供しています。さらに、当社は、代理店やブローカー、販売提携先、あるいはお客様への直接販売など、お客様が保険に加入したいと思う場所で販売することにより、より多くのお客様を獲得することを目指しています。

当社のゴール

日米両国のお客様に**補完保険商品の分野で最高の価値**を提供すること。



^{*1} LIMRA 2024年米国補完医療保険総合市場レポート

^{*2} 各社の統合報告書などに基づくアフラック（日本法人）調べ（2025年3月時点）

目次

5 アフラック・インコーポレーテッド会長兼 最高経営責任者ダニエル・P.エイモスからの メッセージ

7 本レポートについて

9 アフラック (米国法人) およびアフラック (日本法人) について

11 アフラック (日本法人)

16 アフラック (日本法人) の保険商品

22 アフラック (米国法人)

33 アフラック・インコーポレーテッドの受賞、表彰、エンゲージメント
およびメンバーシップ

34 アフラック・インコーポレーテッド財務ハイライト

34 アフラック・インコーポレーテッド投資家情報

36 財務諸表からの抜粋

36 主要な業務指標

38 サステナビリティ・ハイライト

41 従業員の構成

41 コミュニティ投資とフィランソロピー

42 ガバナンス

43 取締役会による監督

43 アフラック・インコーポレーテッドの取締役会および委員会体制

45 統合的リスク管理

46 倫理とコンプライアンス

46 報告

47 サイバーセキュリティによるお客様とデータの保護

47 サイバーセキュリティガバナンス

48 サイバーセキュリティリスク管理

48 人工知能 (AI)

48 サイバーセキュリティコンプライアンス

48 セキュリティ運用

49 レジリエンシーと対応

49 セキュリティ意識向上とトレーニング

50 政治活動報告

51 資産運用

53 アフラックのサステナビリティボンド

54 環境

54 アフラック SmartGreen

55 温室効果ガス削減とカーボン・ニュートラルの進捗

57 スコープ1、スコープ2、スコープ3の温室効果ガス排出量

57 未来へのコミットメント

58 廃棄物の削減

59 エンゲージメント

61 人財

62 従業員の健康増進とワーク・ライフ・バランス

65 従業員への感謝

67 従業員のエンゲージメント

69 人財開発

72 アフラックの人財

79 フィランソロピー

79 アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センター

81 My Special Aflac Duck®

85 アフラックペアレンツハウス

86 がん啓発活動

97 付録

98 GRI内容インデックス

103 独立監査人によるレビューレポート

103 アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明

104 オペレーショナル指標 用語集

105 取締役および経営陣

表紙について: Check for Cancer

本レポートを飾るチェック柄は、米国内に積極的ながん検診を呼びかけるためにアフラックが2025年にスタートさせた「Check for Cancer(がん検診を受けよう)」運動の象徴です。早期発見が、がんに備える一番の近道だからです。

米国では3人に1人が人生の中でがんの診断を受けます^{*1}。早期発見によって生存率が90%以上に高まる一方で^{*2}、Aflac Wellness Matters[®]の調査によると、90%もの人が命を守ることになるかもしれない検診や勧められた検査を先送りにしています^{*3}。

皆様もぜひ「Check for Cancer」運動にご参加いただき、SNSでこの言葉を広めてください。アフラックをタグ付けし、#CheckforCancerを加えて投稿していただくと、アフラックが1件につき5ドル、総額で最高100万ドルを、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターに寄付します。アフラックは、人生のすべてのステージのがん対策に取り組めます。

「Check for Cancer」運動は2025年に米国でスタートしましたが、日本でも、およそ2人に1人が人生の中でがんの診断を受けることから、アフラック(日本法人)もまた、がん予防と早期発見の大切さを広く伝えるため、全国47都道府県と連携し、がん検診受診の啓発活動に力を注いでいます^{*4}。

詳しくは86ページをご覧ください。

がんの健診ガイドライン、リスク要因、各種情報など、詳しくは[Aflac.com/CheckforCancer](https://aflac.com/CheckforCancer)をご覧ください。

*1 米国がん協会

*2 米国がん協会、「がんに関する実態と統計2025年版」

*3 Aflac Wellness Matters[®]調査概要

*4 国立がん研究センター「最新がん統計」



ダニエル・P.エイモスからのメッセージ

アフラック・インコーポレーテッド会長兼最高経営責任者



アフラックは、がん保険で知られる補完保険のイノベーターかつパイオニアとして、70 年以上にわたり、ご契約者の皆様が最も必要とするときに寄り添うことをお約束してきました。私たちのゴールは、日米両国のお客様に補完保険商品の分野で最高の価値を提供することです。

2025 年を振り返ると、目標達成に加えて、アフラックは 3 つの記念すべき節目を迎えました。創業 70 周年、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センター開設 30 周年、アフラックダックの誕生 25 周年です。これらの節目はいずれも、アフラックの保険商品が提供してきた経済的な支えの持続的な価値を証明しています。しかし、本当に大切なのは年数ではありません。人生で最も困難なときに経済的な保障と安心をお届けすることで何百万人もの方々の日々の暮らしに寄り添える、そのような役割を果たせることこそが誇りなのです。

ご契約者に価値を提供する一方で、当社の 2025 年の純利益は 36 億ドル、希薄化後 1 株当たり純利益は 29.2%減の 6.82 ドルとなりました。希薄化後 1 株当たり調整後利益*は当社史上最高を更新する 7.49 ドル、為替の影響を除いた希薄化後 1 株当たり調整後利益 1 は前年比 3.5%増の 7.46 ドルです。過去から学ぶことも重要ですが、先を見据えることは未来を生み出すうえで重要です。アフラックは、米国と日本における補完的ながん保険のパイオニアでありリーディングカンパニーですが、日米両国では多くの方ががんの影響を受けており、そのなかでアフラックには、日米両国でがんをサポートするエコシステムの方向性を示し構築する役割が期待されているのだと考えます。

こうした期待に応えるために、アフラックは 2025 年、啓発活動と予防行動への取り組みを幅広く推進しました。米国では、アフラックのご契約者が治療中に受けられる支援についてしっかり知っていただけるよう、米国がん協会との連携関係を強化しました。さらに 2025 年は、アフラック（米国法人）は「Check for Cancer（がん検診を受けよう）」運動を立ち上げました。青のチェック柄をシンボルに、がん検診予約という「大切なチェック」を思い出していただくための運動です。近年では、若年層でがんの診断を受ける方が増えているため、どの年齢においても、早期発見はがんに対する最善の備えであるということをお伝えする重要な取り組みです。日本では、2025 年 3 月から新しいがん保険「ミライト」の提供を開始しました。看護師などの公的資格をもつメンバーにより構成されたサポートチームに何度でも悩みを相談いただける「よりそうがん相談サポート」という付加価値サービスも併せてご提供しています。

2025 年は 43 年連続の増配となりました。私たちは増配の実績を大切にしており、強固な資本力とキャッシュ・フローにより今後も記録の更新を目指します。直近の四半期において、取締役会は 2026 年第 1 四半期の配当を 5.2%増の 0.61 ドルに増額することを決定し、増配継続への道筋をつけました。さらに、当社は自社株買いにおいては戦略的なアプローチを継続し、2025 年に 3,300 万株以上の自社株を 35 億ドルで購入しました。配当と合わせた 2025 年の株主還元総額は 48 億ドルになります。同時に私たちは、業界で最も高い資本収益率と最も低い資本コストを誇る一社としてのポジションを維持しています。



アフラック・インコーポレーテッドおよびアフラック（米国法人）社長のヴァージル・ミラー（右）と、サウスカロライナ大学女子バスケットボールヘッドコーチ、ドーン・ステアリー（中央）。チェック柄を身にまとい、早期発見のためにがん検診を受けて「チェック」する大切さを思い出し、してもらうため、がんと向き合う姿勢を広く呼びかけました。

「アフラックが正しいことを大切にしながら、これほどの成功を収めたのは決して偶然ではないと考えています。条件が同じであれば、多くの方が良き企業市民である企業と取引することを選ぶと信じています。私たちはこれを「The Aflac Way」と呼び、当社の企業文化、日々の業務、そして私たちが根ざし支援するコミュニティとの関わりの基礎となる一連の行動指針としています。

成果を追求するうえでは、そのプロセスもまた重要です。アフラックはこれからも The Aflac Way に沿って事業を行い、株主価値の提供に引き続き注力しながら、事業目標の達成を目指し、また、ご契約者が私たちを一番必要とするときに寄り添えるよう、最善の方法を追求し続けます。」

敬具

ダン・エイモス
会長兼最高経営責任者



* 調整後利益は、調整後収益から保険金給付金および調整後費用を差引いたものです。1株当たり調整後利益（基本あるいは希薄化後）は、当該期間の調整後利益を期中の加重平均発行済株式数（基本あるいは希薄化後）で除したものです。収益および費用に対する調整は、経営のコントロールの及ばない一部の項目から構成されています。これらの項目は、一般的な経済状況や事象に左右される傾向があるか、または保険業と直接関係しない非経常的な活動に関連するものです。調整後収益は、調整後資産運用損益（純額）を除いた米国会計基準（米国GAAP）ベースの収益合計です。調整後費用は、社債等に係るデリバティブからの利息の影響を含み、当社の保険事業の通常の業務に関係せず当社の基礎となる業績を反映しない非経常的損益およびその他の損益を除く、米国GAAPベースの新契約費および事業費の合計です。当社は、当社の連結ベースの保険事業の財務業績を評価するにあたっては、調整後利益および希薄化後1株当たり調整後利益を用いています。また、これらの財務指標を表示することは、当社の保険事業に内在する利益の原動力や傾向を理解するに際して、極めて重要であると当社経営陣は考えています。調整後利益および1株当たり調整後利益（基本あるいは希薄化後）と最も比較可能な米国GAAPの財務指標は、それぞれ当期純利益および1株当たり当期純利益です。当期における為替変動の影響を除く調整後利益は、比較対象の前年同期における平均為替レートを用いて計算されており、これにより、為替レートの変化のみによってもたらされる変動を除いています。当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益は、当該期間の為替変動の影響を除く調整後利益を期中の加重平均発行済株式数（希薄化後）で除したものです。当社は、当期における為替変動の影響を除く調整後利益および当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益は重要であると考えています。なぜなら、当社の事業の重要な部分は日本で行われており、為替レートは経営のコントロールの及ばないものだからです。したがって、当社は米ドルに対する為替換算（主として日本円）の影響について理解することは重要であると考えています。当期における為替変動の影響を除く調整後利益および当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益と最も比較可能な米国GAAPの財務指標は、それぞれ当期純利益および1株当たり当期純利益です。1株当たり調整後利益の7.49ドルには、1株当たり調整後資産運用損（純額）の0.70ドル、その他および非経常損失の0.10ドル、調整後利益への調整項目に係る法人税優遇措置の0.13ドルは含まれていません。また、当期の為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益は0.04ドル減少しました。

本レポートについて

アフラックでは、全社的なサステナビリティに係る戦略と活動について、オープンで透明性の高い報告に努めており、そのために、パーパス（企業存在意義）とパフォーマンス（業績）を両立させる当社の継続的な取り組みをまとめています。「ビジネス&サステナビリティレポート」は、従業員、お客様、投資家、地域社会、そして地球に与える影響を当社がどのように測定し、管理しているかという情報とともに、当社の事業内容と財務業績を統合したものです。

報告範囲と境界

本レポートは、アフラック・インコーポレーテッドとその事業セグメントであるアフラック（米国法人）およびアフラック（日本法人）の環境、社会、ガバナンスに関する戦略、進捗、データ、および成果に係る、財務情報および非財務情報を記載しており、特に記載のない限り、2025 年度（1 月 1 日から 12 月 31 日まで）の情報です。財務情報は、特段の記載がない限り、すべて米ドル建てで表示されています。その他の当社のサステナビリティ活動やその開示情報については、当社ウェブサイトの投資家向け情報セクションの「サステナビリティ」をご覧ください。

本レポートでは、「アフラック」、「私たち」または「当社」という用語は、アフラック・インコーポレーテッドを指します。「アフラック（米国法人）」とは、当社の米国保険子会社であるアメリカン・ファミリー・ライフ・アシュアランス・カンパニー・オブ・コロンバスおよびその完全子会社であるアメリカン・ファミリー・ライフ・アシュアランス・カンパニー・オブ・ニューヨーク（アフラック・ニューヨーク）、アフラック団体保険のブラ

ンド名を用いるコンチネンタル・アメリカン・インシュアランス・カンパニー（CAIC）、ティアワン・インシュアランス・カンパニー（TOIC）、および米国でアフラック・デンタル&ビジョンのプラットフォームを提供するアフラック・ベネフィット・ソリューションズ・インク（ABS）を総称したものです。「アフラック（日本法人）」とは、事業セグメントおよびその主たる保険子会社であるアフラック生命保険株式会社を指します。

基準とフレームワーク

本レポートの内容は、正確性、バランス、明瞭性、比較可能性、信頼性、および適時性の原則に則って定義されています。

本「2025 年ビジネス&サステナビリティレポート」は、全米保険監督官協会が推奨する気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の勧告のほか、国連の持続可能な開発目標、グローバル・レポーティング・イニシアティブ（GRI）などいくつかの主要な報告フレームワークおよび基準に準拠しています。

当社は、事業にとって最も重要な情報の開示に重点を置いています。これらの基準に沿った開示は、指標ごとに本レポート内および付録に注記されています。

アフラック・インコーポレーテッドは、2025年1月1日から2025年12月31日までの期間において本レポートおよびGRI内容インデックスに引用されている情報を、2024年GRI基準を参照して報告しています。環境データは2024年のものです。

本レポートでは、アフラック・インコーポレーテッドとそのステークホルダーにとって最も重要な問題を反映するため、前記の報告フレームワークが「重要トピックス」と呼ぶ用語を含む特定の用語を使用しています。こうした文脈で使用されるこれらの用語は、証券取引法により定義・解釈される、あるいは財務諸表や財務報告の文脈で使用される「重要な」または「重要性」などの用語と混同されるべきではありません。

アフラックは、本レポートについて、第三者による検証を求めておらず、データを内部検証する方法をとっている点にご留意ください。

本レポートに関するご質問やご要望は、AflacIR@aflac.comまでお寄せください。

予測情報について

1995 年の私募証券訴訟改革法は、企業が将来の見通しに関する情報を提供することを奨励する「セーフ・ハーバー（免責条項）」を定めています。ただし、これらの情報提供に関する記述が将来予測に関する記述（forward-looking statement）として特定され、実際の結果が将来予測に関する記述に含まれるものと大きく異なる可能性のある重要な要因を特定する意味のある注意喚起がなされている場合に限り、当社は、この規定を活用したいと考えています。

本書は、将来予測と大きく異なる結果を引き起こす可能性がある重要な要素を記した注意事項を記載しています。こうした将来予測は、本書の中、あるいはアナリストと当社役職員との議論、米国証券取引委員会（SEC）に提出された文書の記述に含まれています。

将来の見通しに関する記述は、過去の情報に基づくものではなく、将来の事業、戦略、財務業績およびその他の進展事項に関するものです。更に、将来予測に関する情報は、さまざまな仮定や、リスク、不確定要素から影響を受けます。特に、「期待する」「予想する」「確信している」「目標」「目的」「可能性がある」「はずである」「推定する」「意図する」「見積もる」「するつもりである」「仮定する」「潜在的」「目標」「見通し」、あるいはその他の類似した言葉を含む記述、また将来の結果についての特定の予測は、一般的に将来予測に関する記述です。当社は、将来予測に関する記述について、最新情報を提供する義務を負いません。将来予測に関する記述に含まれる内容と大きく異なる結果を引き起こす可能性がある、前提、リスク、不確実性およびその他の重要な要素の詳細については、SEC に提出した当社の最新のフォーム 10-K およびフォーム 10-Q をご参照ください。



アフラック（米国法人）および アフラック（日本法人）について

高品質の補完保険商品を提供する リーディング・カンパニー

ご契約者が当社を最も必要とするときに寄り添うという約束を守り、The Aflac Way に沿って事業を運営してきたことで、当社は公正かつ迅速な保険金のお支払いを期待されている世界中の数千万人のご契約者、お客様との信頼を築いてきました。

No.1

日本におけるがん保険・
医療保険の保有契約件数^{*1}

No.1

米国の職域における
補完医療保険分野^{*2}

12,716名

2025年度の従業員数

578億ドル^{*3}

株式時価総額

172億ドル

2025年度の収益

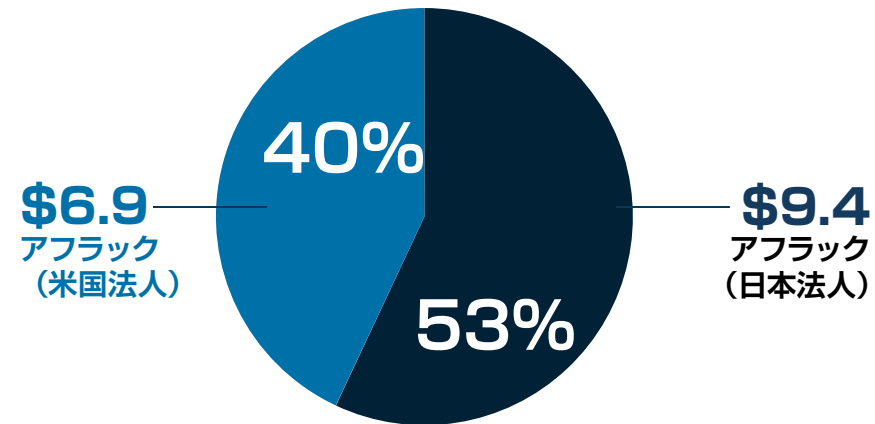
^{*1} 各社の統合報告書などに基づくアフラック（日本法人）調べ（2025年3月時点）

^{*2} LIMRA 2024年米国補完医療保険総合市場レポート

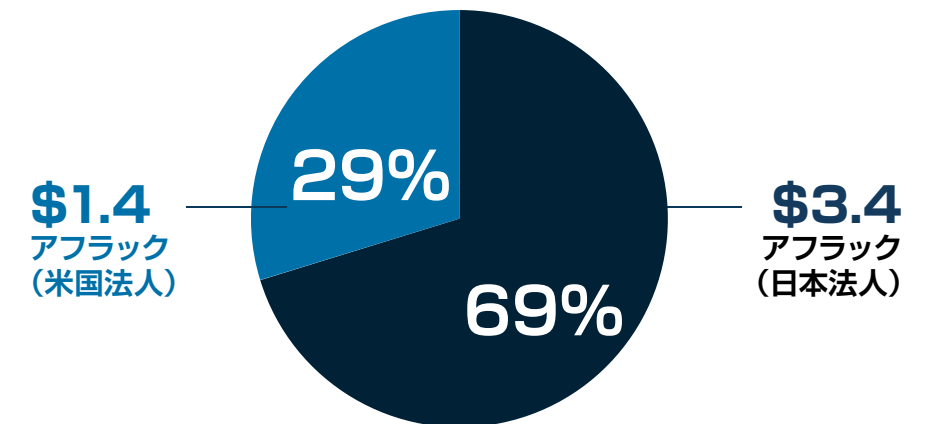
^{*3} 2025年12月31日の終値に基づく



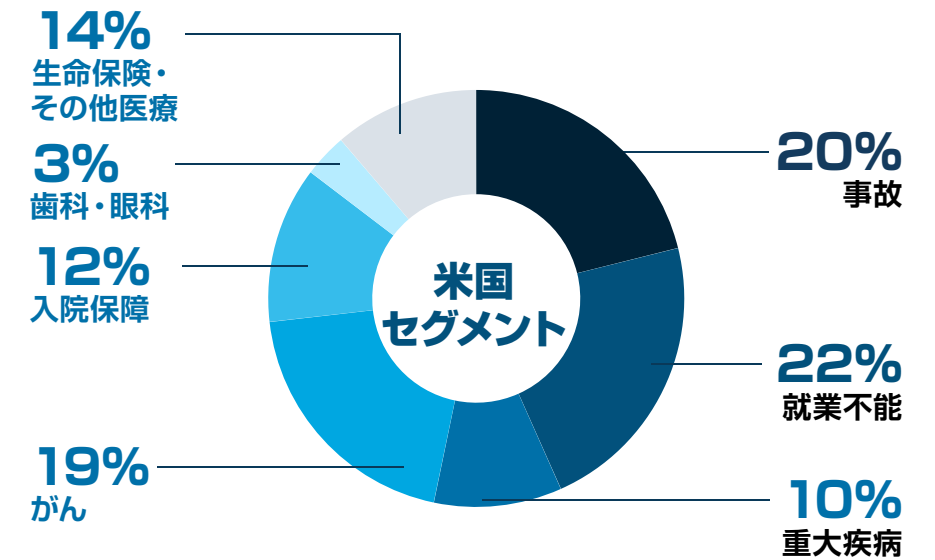
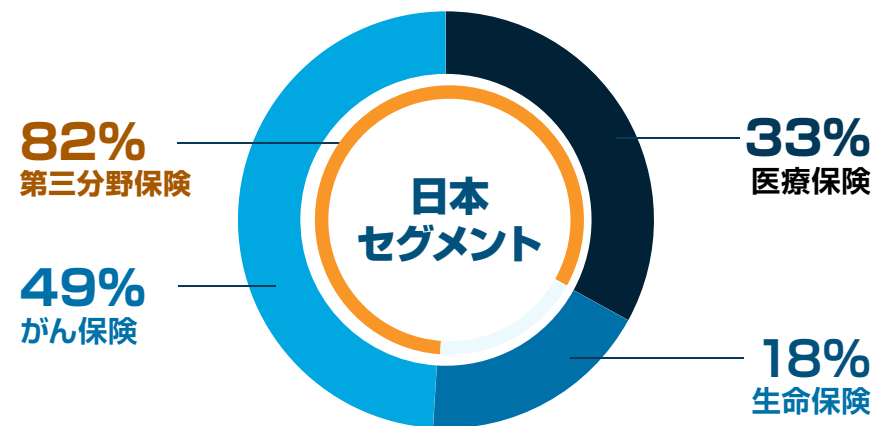
2025年度 調整後収益^{*1} (億ドル)



2025年度 税引前調整後利益^{*2} (億ドル)



2025年度 保険料収入 (純額) の内訳



*1 全社（アフラック（日本法人）およびアフラック（米国法人）を除く）およびその他は、2025年の調整後収益の7%に相当する13億ドル

*2 全社（アフラック（日本法人）およびアフラック（米国法人）を除く）およびその他は、2025年に1億100万ドルの税引前調整後利益を計上

アフラック（日本法人）

アフラック（日本法人）について

アフラック（日本法人）は、「『生きる』を創る”ことで新たな共有価値を創造する”という長期経営ビジョンを掲げています。このビジョンには、当社独自の資源や専門性を活用し、お客様のニーズに応えながら社会的課題の解決に取り組むことで、長期的な経済価値を創出していくというアフラック（日本法人）の決意が込められています。

アフラック（日本法人）は「がんに苦しむ人々を経済的苦難から救いたい」という想いのもと、1974年、日本で初めてがん保険を提供する保険会社として創業し、翌年5月に初めて給付金をお支払いしました。

現在では、がん保険・医療保険の保有契約件数において、日本の最大手の保険会社となっています*。2025年には、がん保険の累計支払証券数が500万件を超え、累計支払金額は9兆円を超えました。

私たちは、お客様本位の業務運営を実行するとともに、「生きるための保険」はもちろんのこと、保険を超えた価値を創造するリーディング・プロバイダーであることを目指しています。このような背景から、アフラック（日本法人）は、がん保険、医療保険、資産形成／介護保険を中心に、保障とあわせて、お客様のニーズに応えるサービスを統合的に提供しています。

* 各社の統合報告書などに基づくアフラック（日本法人）調べ（2025年3月時点）

2025年 アフラック（日本法人）財務ハイライト

税引前調整後利益

5,137億円

税引前利益率

36.7%

ソルベンシー・マージン比率

995%

保険料収入（純額）*

1兆89億円

調整後投資収益（純額）

3,858億円

調整後収益

1兆3,994億円

保険金給付金比率

59.3%

事業費率

20.5%

契約継続率

93.1%

* 保険料収入（純額）は出再保険控除後



日本のお客様との接点となる販売網

アフラック（日本法人）では、お客様が保険のことをお考えになるその時に、そばにすることが重要だと考えています。その点で、アフラックの多面的な販売網は、日本で最も強力なものの一つであり続けていると確信しています。

アフラック（日本法人）は、がん保険・医療保険の保有契約件数において日本の最大手の保険会社です*。当社は、革新的な商品、強力なブランド力、そして幅広い販売網を有しており、今後もさらに多くのお客様との接点を持つことができると考えています。

アフラック（日本法人）の販売チャネル

伝統的な販売チャネル

アフラック（日本法人）の伝統的な販売チャネルである個人代理店、独立法人代理店および企業集団代理店は、2025 年の販売の大きな比重を占めています。2025 年 12 月末現在、約 6,300 店の代理店と提携しており、個人代理店を含めて約 112,000 人の募集人が従事しています。

* 各社の統合報告書などに基づくアフラック（日本法人）調べ（2025年3月時点）

業務提携

アフラック（日本法人）は、日本郵政グループ（日本郵政株式会社、日本郵便株式会社、株式会社かんぽ生命保険）との戦略提携、第一生命保険株式会社、大同生命保険株式会社および金融機関との業務提携を通じて、より多くのお客様に当社保険をご案内できる体制を構築しています。

日本郵政グループ

2025 年現在、アフラック（日本法人）のがん保険を取り扱っている日本郵便の郵便局の数は約 2 万局です。かんぽ生命では法人領域を担当する 76 の支店と、個人領域を担当する 626 のかんぽサービス部を通じて当社のがん保険を取り扱っています。

第一生命保険株式会社

2001 年に、第一生命保険相互会社（現 第一生命保険株式会社）との業務提携を開始し、現在、約 37,000 人にのぼる第一生命の営業員である「生涯設計デザイナー」が、アフラック（日本法人）のがん保険を取り扱っています。

大同生命保険株式会社

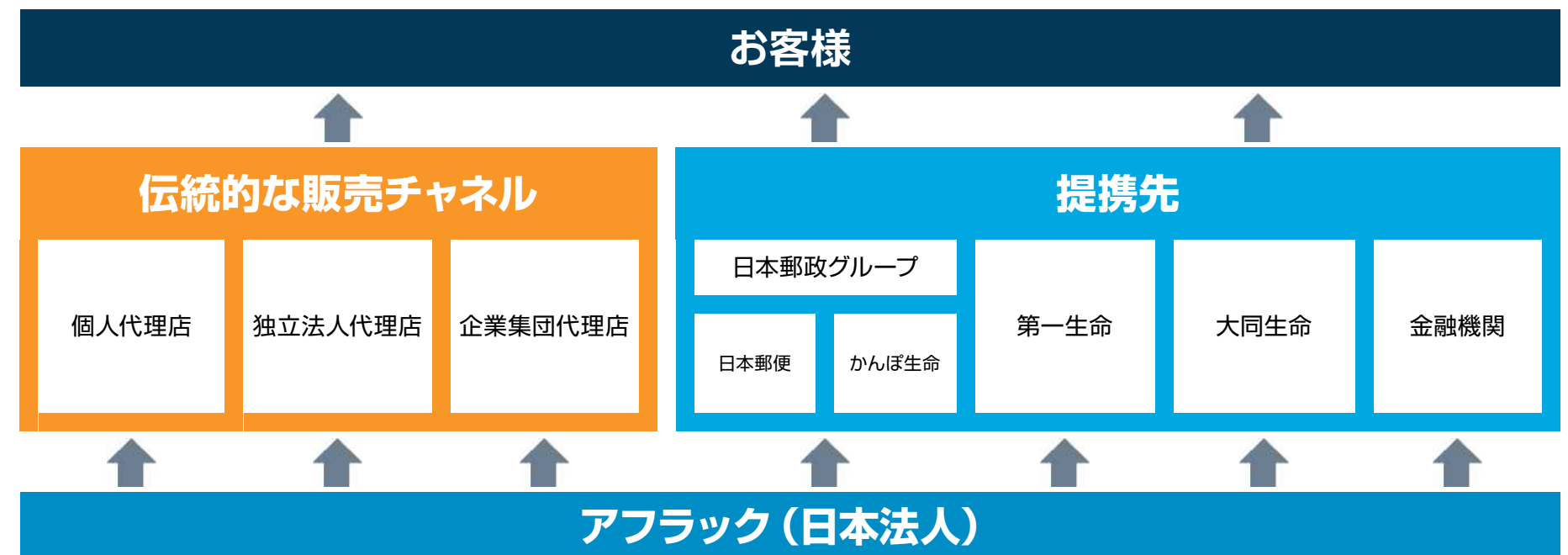
2013 年、大同生命保険株式会社との業務提携を開始し、現在、約 3,700 人の大同生命の営業職員が、主に中小企業の経営者、役員および従業員に対してアフラック（日本法人）のがん保険をご案内しています。

金融機関窓販

2025 年 12 月末現在、国内金融機関の約 9 割にあたる国内 358 の金融機関と提携しています。

アフラックのオンライン相談

お客様の保険相談・申込みに関するニーズの変化に対応するため、アフラック（日本法人）は、お客様が保険相談から申込みまでオンラインで完結できる仕組み「アフラックのオンライン相談」を提供しています。これにより、遠隔地にお住まいのお客様や、介護・育児などさまざまな事情で実際にお会いすることが難しいお客様に対しても、ご要望に合わせた時間・場所で面談が可能となりました。



伊藤育興産株式会社

伊藤育興産株式会社は、1977年4月に個人代理店としてスタートし、5年後の1982年に法人化したアフラック専属の販売代理店です。創業当初から現在に至るまで、がん保険は同社にとって主軸の商品であり、がんという病気がもたらす経済的負担からお客様を守ることに、ひととき強い想いを抱いています。がん保険をきっかけとしてお客様のニーズを的確に把握したうえで、第三分野の保障も選択できる革新的な第一分野商品である「ツミタス」や最新の医療保険「あんしんパレット」などを通じて、総合的な保障ソリューションを提供しています。

伊藤育興産株式会社では、代表取締役社長の真淵 康雄さんと専務取締役の島村 昭好さんのリーダーシップのもと、ご契約者へのきめ細やかなフォローと、お客様本位の思いやりのあるサービスを大切にしています。店舗に併設した来店型ショップおよび社用車でのお客様宅訪問を通じ、高いスキルを持つ48名の社員がお客様に安心をお届けすることに尽力しています。ご自宅を訪問することは、お客様のご希望やご状況をより深く理解する貴重な機会となります。こうした理解を通じて、お客様一人ひとりに合わせたご提案が一つでも多くできるよう努めています。

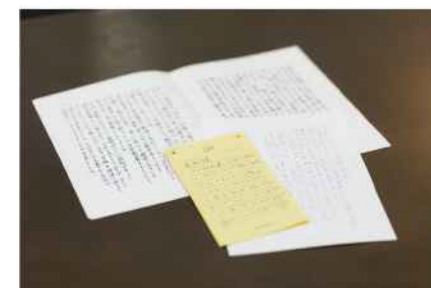
同社の経営理念では、社員に「保険を売るだけが仕事ではない」と伝えています。社員は、保険の専門家としてだけでなく、「お金のプロ」として、お客様に本当の安心をお届けする使命を担っています。そのために、社員は保険商品に詳しいだけでなく、お客様が直面する様々な困難な状況に対して寄り添い理解できるよう、積極的かつ多様なレベル・手法による研修を受けています。例えば2025年3月のがん保険新商品「ミライト」の発売に向けては、全社員が一堂に会し、社員自身や家族ががんと診断された場合に何が起こるか、どのような困難に直面するか、どのような支援が必要になるかについて議論し意見を共有しました。真淵社長は、「全社員が参加したこのような真剣な議論が、「ミライト」の販売成功の重要な要因となった」と述べています。

お客様からいただく感謝のお言葉は、社員にとっても大きなモチベーションとなっています。真淵社長は「お客様から『ありがとう』や『保険に入っていて本当に良かった』というお言葉をいただくと、自分が本当に意義のあることをし、お客様のお役に立てたと実感でき、大きなやりがいを感じます」と述べています。島村専務も「がん保険の真の価値を学ばせてもらったのはお客様からでした。お客様からは、『がん保険はお守りだと思って加入しており、まさか実際に使うことになるとは思っていなかった。いざ使ってみると、これほど役立つとは』という感動、感謝のお言葉を多くいただいています」と述べています。



伊藤育興産株式会社では、代表取締役社長の真淵 康雄さん（右）と専務取締役の島村 昭好さん（左）のリーダーシップのもと、ご契約者へのきめ細やかなフォローと、お客様本位の思いやりのあるサービスを大切にしています。

神戸本店のメンバーと、真淵社長、島村専務（写真中央）。がん等の疾病による経済的負担からお客様をお守りするという強い使命感を持って尽力しています。



真淵社長は、「お客様から感謝のお言葉をいただくと、社員全員にとって大きなやりがいにつながります。お客様からいただいた感謝のお手紙は大切に保管しています」と述べています。



伊藤育興産株式会社の社員は、保険の専門家としてだけでなく、「お金のプロ」として、お客様に真の安心を提供しているという自負を持ち、お客様へのきめ細やかなフォローを行っています。

豊通保険パートナーズ株式会社： 企業集団代理店

豊通保険パートナーズ株式会社は、アフラック（日本法人）の企業集団代理店を代表するアソシエイツ（販売代理店）です。同社は、豊田通商株式会社（トヨタグループの商社）の保険部門として誕生し、70年以上にわたり損害保険および生命保険の保険代理店事業を展開してきました。



豊通保険パートナーズ株式会社は、伴野 剛久社長のもと、企業の従業員が加入する保険を提供しており、トヨタグループを中心に福利厚生制度の一環として従業員・退職者およびそのご家族向けの保険をご提案しています。2025年4月現在、359名（派遣社員を含む）が在籍しており、そのうち約80名がアフラックの保険販売に従事しています。販売活動は、パンフレットの配布や工場での保険説明会・セミナーの開催、WEB面談など、対面とオンラインの両方のアプローチを通じて行われています。

主な取扱商品の一つに、アフラックのがん保険があります。アフラックのがん保険はシンプルでお客様に分かりやすい商品であり、こうしたアフラック商品のシンプルさと、豊通保険パートナーズ株式会社による職域での販売との親和性の高さが、好調な販売実績につながっています。また、同社はアフラックと同様に、若い世代のお客様とのつながりも大切にしており、アフラックの保険が若年層のお客様にもご加入しやすい価格設定である点も、同社がアフラックの保険を提供している理由の一つです。



代表取締役社長
伴野 剛久さん

「お客様満足の向上は、当社にとって非常に重要なテーマです。保険部門の創設以来 75 年にわたり、当社はお客様に対する誠実な対応を一貫して続けてきました。アフラックの保険の販売開始から 50 年の歴史を振り返ると、がん保険の大切さ、必要性、分かりやすさは、従業員だけでなく、お客様の福利厚生を採択する窓口の方々にとっても重要な要素であり、福利厚生に資する保険として導入につながってきました。今のように「日本人の 2 人に 1 人ががんになる」という言葉が広く知られる以前から、がん保険の大切さや必要性は理解しやすく、また、終身保障であること、若年層の保険料が低額であるという現実的なメリットも、福利厚生制度に適した商品としてグループ会社に受け入れられた大きなポイントでした。」



総合保障事業部
兼 自動車保険事業部
部長
上野 永津子さん

「私たちはトヨタグループの企業の従業員のために、福利厚生制度として保険を提案しています。グループの従業員の皆様が健康で、安心して仕事ができるように、そのお手伝いができることが大きなやりがいとなっています。「2 人に 1 人ががんになる」という事実は、お客様にとって非常に印象的なメッセージです。特に若年層は自身のリスクに敏感な傾向があるため、がんのリスクをしっかりと伝えることが大事だと考えています。当社にもがんに罹患し治療を経て職場復帰しているメンバーが増えてきていますが、これは近年ますます一般的になってきている傾向です。アフラックのがん保険は終身保障であり、がんに罹患しても安心して会社生活を続けるための手助けとなっています。アフラックはブランドイメージによる安心感が浸透しているので、私たちの役割は『アフラックの保険はしっかり支えになります』とグループ従業員へ伝えることです。こうした点からもアフラックのがん保険と当社の職域での保険販売は親和性が高いと考えています。」



総合保障事業部
総合保障営業
グループ
チームリーダー
西尾 優一さん

「多くの病気を保障する保険商品がある中でがん保険は特に分かりやすく、『がん保険』というネーミングは日本で広く知られています。がんの再発や長期治療への不安を抱えているお客様が多いですが、無制限の入院・通院保障など、がん保険の保障内容も明確でご理解いただきやすいです。お客様に寄り添うパートナーとして、お客様のニーズとマッチしたご説明を心がけています。また、当社ではトヨタグループ従業員のご家族にも保険商品をご案内しています。アフラックと協力して金融庁から認可を得て、ご家族向けの特定の契約の申込手続きを WEB 上で完結できるシステムを構築しました。これは当時としては画期的な取り組みでした。」



総合保障事業部
総合保障営業
グループ
菱田 美咲さん

「4 月から研修の一環として、店舗でお客様と直接お会いし、契約内容の確認や保険金請求手続きのお手伝いをしています。がん保険のニーズは非常に高く、『がん保険＝アフラック』と考える方が多いことを実感しています。今後も、保険金請求手続き等をお手伝いする際は、お客様の声にしっかりと耳を傾けてお言葉を大切に受けとめたいと考えています。」

京都中央信用金庫

京都中央信用金庫は、京都市および近隣府県で事業を展開する協同組織の金融機関です。日本で最大規模の信用金庫であり、預金量において全254の信用金庫の中で第一位です。1940年に創立し、「常に親切丁寧を旨として正々堂々の営業活動を展開し、顧客の繁栄に奉仕する」を理念のひとつとして掲げ、また、同金庫のキャッチフレーズ「ON YOUR SIDE 〜一緒にうれしい〜」には、常にお客様の側にいて肩を並べ、同じ夢や目標に向かって歩む良きパートナーでありたい、という想いが込められています。2025年9月末現在、135店舗に2,499名の職員が在籍し、いつの時代にあってもお客様本位の変わらぬ姿勢で、最高のお客様満足の実現を目指しています。

京都中央信用金庫では、2008年12月よりアフラックの保険商品を販売しており、がん保険、医療保険、「ツミタス」や「WAYS」などの各種商品を取り扱っています。アフラックの知名度の高さと多様な保険商品は、初めて保険を検討するお客様にも受け入れやすく、また、同金庫がお客様のニーズをさらに満たし、地域の人々の暮らしをより豊かにすることにも貢献しています。お客様から「アフラックの保険なら安心だね」といった声をいただくこともあり、アフラックの知名度が、お客様の安心感につながっていることがうかがえます。

アフラックの保険をご提案し、ご契約やご加入後のアフターフォローを行うことは、お客様との長いお付き合いを築くための大切な機会となっています。お客様のライフプランについてお話を伺うなかで、アフラックの保険をご案内します。そのお話をもとにお客様に合わせた様々な情報やサービスをご提供できるよう努めています。

この取り組みのなかで、「マネーコンサルタント」として活躍しているのが、須磨 美咲さんです。マネーコンサルタントは、資産運用商品に関する専門的な教育を受けており、お客様のご相談やご要望に合わせて、投資信託や保険商品など、一人ひとりに合ったソリューションのご提案を行っています。

それぞれのマネーコンサルタントは複数の支店を担当しており、担当支店では投資信託や保険についてお客様のご相談を伺います。支店の職員がお客様にご来店を案内し、マネーコンサルタントは同席してご説明をさせていただきます。また、お客様のご希望に合わせてご自宅へ伺うこともあります。さらに各支店では、マネーコンサルタントは10～50名ほどの支店の職員を対象に、保険に関する勉強会を実施しています。



2025年に、京都中央信用金庫は創立85周年を迎えました。広範な店舗網を活かして地域に密着した強いネットワークを形成し、お客様のご要望に沿った商品・サービスを提供し、より良い暮らしのためのお手伝いをしています。



須磨さんは、「幅広い年齢やお悩みを持ったお客様が店頭に来られます。もともと保険に加入したいと思われる方より、保険を今まで考えていなかった方も多く、そのようなお客様とお話しているときにアフラックの商品は受け入れていただきやすいと感じます」と述べています。

須磨さんは、「常にお客様のご意向に沿った販売を心掛けています。ご契約がゴールではなく、そこからお客様との長いお付き合いが始まると思っています。一番大切にしているのは、お客様にご満足と安心感をもっていただくことです。お客様のご不安をしっかりと伺いし、丁寧に商品を説明したうえで、お客様のお役に立てることを確認してからご契約いただくことを心掛けています。この考え方は、保険だけではなく、当金庫が提供するすべての商品に対する共通の考え方です」と語ります。



岡崎さんは、「法人の経営者を対象とした法人契約でもアフラックの保険を提案しています。アフラックの保険商品は、法人にも個人にも幅広く提案しやすい商品です」と述べています。

また、岡崎 友香 課長代理は「信用金庫は、地域密着度が強く、昔から地域のお取引先様とつながりが強いのが大きな特長です。毎月開催しているマネーコンサルタント会議では、私たち本部のメンバーがマネーコンサルタントに重要なメッセージや価値観を共有します。こうしたメッセージを、マネーコンサルタントが開催する勉強会を通じて各支店へと伝えることができるのありがたいと感じています。本部からの想いやメッセージが直接マネーコンサルタントへ、そしてマネーコンサルタントから現場の職員へと、それぞれの生の声で伝わり、浸透していくのです」と話します。

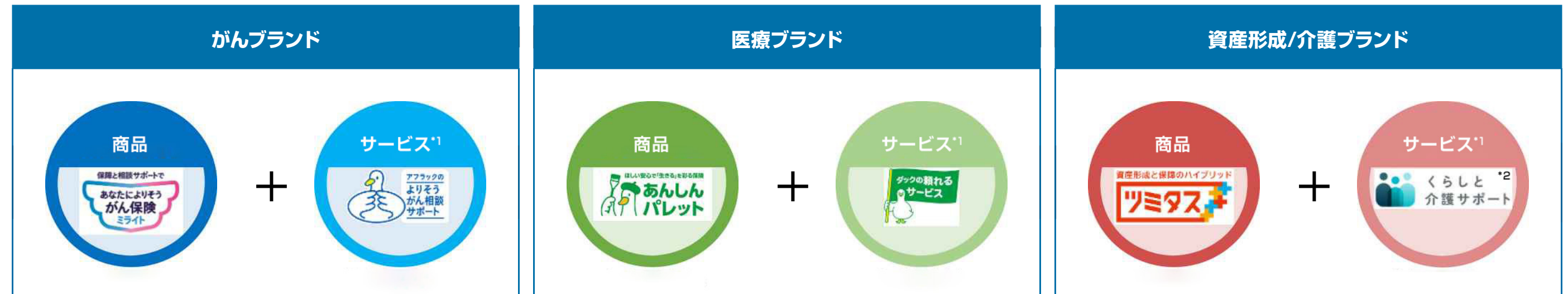
アフラック（日本法人）の保険商品

商品戦略の概要

日本では、国民皆保険制度のもと、国民に標準的な医療保障が提供されています。少子高齢化が急速に進行する中で、この国民皆保険制度による国の財政負担が増加しており、医療費の増加は生活者の経済的な負担の増大につながっています。結果として、生活者は、医療費の自己負担額の増加など、より大きな経済的な負担を余儀なくされており、こうした費用を軽減するため、お客様の第三分野保険へのニーズが高まっています。このような経済的負担を和らげる解決策となっているのが、アフラックという信頼性の高いブランドと、高い評価をいただいている保険商品です。

アフラック（日本法人）の商品ポートフォリオの基盤は、がん保険や医療保険といった第三分野保険です（次ページ以降の商品一覧をご参照ください）。アフラック（日本法人）は、時代とともに変化するお客様のニーズや、医療の進歩、さらには日本の社会保障制度の変化に、時には先手を打って対応しながら、商品の改良を進めています。第三分野保険に重点を置きながらも、お客様の死亡保障に加え、資産形成や介護といった老後保障などのニーズに応える商品・サービスを統合的に提供しています。

2025 年には「マーケティング営業変革」に取り組み、お客様視点での価値提供を行うマーケティング営業体制へ、抜本的に変革しました。「がん」「医療」「資産形成 / 介護」の 3 つの中核ブランドそれぞれについて、「商品・サービス設計」「プロモーション」「販売チャネル」等のマーケティング機能を横断的に統合することで、多様なお客様ニーズに合わせた価値提供をよりの確に実現できるようになりました。



*1 各種サービスは、アフラック（日本法人）がグループ会社または提携会社を通じて提供します。

*2 「くらしと介護サポート」は、アフラック（日本法人）の保険にご加入のすべてのご契約者とそのご家族にご利用いただけます。

がんブランド

1974 年、当社は、日本で初めてがん保険を発売しました。以来、今日に至るまで、当社はがん保険 No.1 の保険会社です*。日本初のがん保険を発売してから継続して医療環境の変化や重い病気による潜在的な経済負担、ヘルスケアと医療技術の進歩に合わせて、がん保険の商品内容を見直してきました。

お客様にとって、革新的で適切な価値ある商品を提供するという当社のコミットメントのもと、2025 年 3 月に<あなたによりそうがん保険 ミライト>を発売しました。この商品は、幅広く保障を強化するとともに、ニーズに合わせて必要な保障を選択いただける柔軟性を備えています。治療が長期間にわたりご家族の負担が大きくなることが多い小児がん到低廉な保険料で備えることができる子ども向けプランも提供しています。

加えて、「アフラックのよりそうがん相談サポート」を通じて、がん患者およびそのご家族の不安や悩みの解消を支援します。がんの治療前・治療中・治療後にわたり一貫してご契約者を支える保障とサービスを統合的に提供することで、アフラック（日本法人）ならではの特長を打ち出しています。「アフラックのよりそうがん相談サポート」では、お客様は看護師など資格を持ったメンバーで構成された専任のチームによる相談を無料で何度でも利用可能で、十分な情報に基づいた意思決定を実現できるようサポートします。これらの取り組みを通じて、アフラック（日本法人）は従来のがん保険の枠を超えて、一人ひとりに最適な安心をお届けしています。

* 各社の統合報告書などに基づくアフラック（日本法人）調べ（2025年3月時点）



<あなたによりそうがん保険 ミライト>の発売を契機に、がん治療の副作用である味覚障害を疑似体験できるイベント<味の変わるレストラン>を展開しました。このイベントでは、抗がん剤治療を受けた方の約7割に発生するといわれている味覚変化を再現したメニューを提供し、あたりまえの生活が、がんによってどのように変わってしまうのかを体験いただくことで、お金以外のさまざまな悩みによりそう「よりそうがん相談サポート」の意義の理解浸透を図りました。社会的課題に着目した点が関心を引き、多くのメディア露出やSNSでの拡散を実現したことに加え、世界最高峰のPRアワードを始め複数の賞を受賞しました。



写真のCMでは、がんに対するさまざまな悩みや不安を抱える方々に対して、保障と相談サポートで、一人ひとりに最適な安心をお届けするという<あなたによりそうがん保険 ミライト>の提供価値を伝えています。

医療ブランド

2002 年初頭、当社は、＜一生いっしょの医療保険 EVER＞を発売しました。この商品は、公的医療保険制度における自己負担額の増加への備えとしてお役立ていただける単品の終身医療保険です。「EVER」の発売から 1 年で、アフラックは当時、日本における医療保険の販売トップとなりました。

2025 年 12 月には、日本の公的医療保険制度における月ごとの自己負担額に備えられる月額保障に加え、柔軟に保障を提供する新しい形の医療保険＜ほしい安心で「生きる」を彩る保険 あんしんパレット＞を発売しました。この商品は、従来の保険商品のようにパッケージ化されたプランだけではなく、手術・放射線治療、入院、三大疾病、介護・障害、通院、傷害、女性特定、死亡など、幅広い保障ラインアップの中からお客様が必要な保障を特約 1 つから選択できる* 柔軟性を備えています。さらに、多くのお客様にとって加入しやすい保険料水準に設定したことにより、お客様一人ひとりにとって最適な保障を提供します。

また、日々の健康づくりから治療・介護・老後までをトータルにサポートするサービスである「ダックの頼れるサービス」も強化しました。医療や介護に関するご相談に加え、長寿社会で人々が健やかに暮らせるよう、食事や運動、検診などのサポートも行っています。サービス統合型医療保険として、保障機能だけではなく付加価値を重視するお客様のニーズにも応えています。

*「あんしんパレット」は、「普通保険約款」に契約全体の共通事項を定め、1つ以上の「特約」を付加することで成立する保険です。



写真のCMでは、登場する家族それぞれに訪れるライフステージの変化を描き、人生のさまざまな節目によりそい、柔軟に備えられる＜ほしい安心で「生きる」を彩る保険 あんしんパレット＞の提供価値を伝えています。

資産形成/介護ブランド

2006 年、当社は、＜未来の自分が決める保険 WAYS＞を発売しました。「WAYS」では、ご契約者があらかじめ定めた年齢に達した時に、保障を年金、医療保障、介護年金に変更することができます。2024 年 12 月に「WAYS」の料率改定を行い、商品力を強化しました。

2009 年には、＜アフラックの夢みるこどもの学資保険＞を発売しました。この商品は、子どもの高校入学時の学資一時金や、大学在籍の 4 年間にわたって、毎年学資年金をお支払いするものです。2022 年 11 月に「学資保険」の料率改定を行い、商品力を強化しました。

また、2021 年 9 月、介護保険の新商品＜アフラックのしっかり頼れる介護保険＞を発売しました。この商品は、公的介護保険制度を踏まえた自己負担相当額をカバーする補完保険です。お客様にとって分かりやすい合理的な保障を、手頃な保険料で提供しています。

そして、2024 年 6 月、介護を含む老後の経済的保障ニーズの高まりに応えるため、＜資産形成と保障のハイブリッド ツミタス＞を発売しました。この商品は、将来のお客様のニーズに合わせて医療や介護、死亡、年金の保障を選択できる商品です。ご契約時に将来受け取れる解約払戻金額が確定するため、安定的な資産形成を希望されるお客様や資産形成の経験がないお客様に支持されていることに加え、資産ポートフォリオにおける分散投資の観点でもお選びいただく方が多く、幅広いニーズに応えています。

また、当社は昨今の金利環境などの変化やお客様のニーズをとらえ、機動的に料率改定を行う体制を整備しています。この機動的な体制のもとで、2025 年 9 月に料率を改定し、より魅力ある商品へと強化しました。

今後も、がん保険・医療保険などの第三分野保険を併せた総合保障提案によって、お客様にライフステージごとのリスクに応じた最適な保障を提供していきます。また、ご高齢者の暮らしや介護にまつわるお悩みやお困りごとに寄り添い、課題の緩和や解決のサポートをワンストップで行う「くらしと介護サポート」のサービスも提供し、お客様がより充実した人生を実現することをサポートしています。このサービスは、資格を持った専門家による無制限の相談をお客様に提供するだけでなく、介護予防や仕事と介護の両立支援など、ご自身やご家族のお悩みについて、幅広くご相談いただけます。

これからも、独自の資源と専門性を活かして当社が向き合うべき社会的課題の解決に最大限努力し、新たな共有価値を創造することで、ステークホルダーの皆様からの期待と信頼に応えていきます。

保障性の第一分野保険商品

定期保険および終身保険

1996 年、当社は、初めて定期保険および終身保険を発売しました。これらの商品は、比較的少額の死亡保障を提供するもので、単品または特約の形で販売しています。2018 年には、低解約返戻金で、非喫煙者には割引保険料を適用する、保険料負担を抑えた＜かしこく備える終身保険＞も発売しました。＜かしこく備える終身保険＞は、2024 年 12 月に料率改定を行い、商品力を強化しました。

GIFT

2009 年、当社は、＜家族に毎月届く生命保険 GIFT＞を発売しました。この商品は、被保険者がお亡くなりになった時に、受取人（一般的にはご家族）に対し毎月給付金をお支払いするもので、給付期間は、被保険者をご存命であった場合に、加入時に定めた年齢に達するときまで続きます。また、2017 年 2 月に＜家族に毎月届く生命保険 GIFT＞を改定しました。



写真のCMでは、多くの人が抱えている見通しのきかない未来への不安を描き、「着実に増やせる資産形成」と「あとから選べる保障」が一つになった「ツミタス」が、その不安を解消する「堅実で柔軟な安心」を提供する革新的な商品であることを伝えています。

テクノロジーで生産性、サービス、価値を高める

アフラック（日本法人）は、コアバリューに基づく AX 推進により、「生きるための保険」のリーダーとして、お客様にとって価値ある商品・サービスの提供をデジタルテクノロジーで実現していきます。以下の事例は、アフラック（日本法人）が AI を、顧客体験の向上、お客様への情報提供、効率性および生産性向上の手段として、どのように活用しているかを示しています。

生成AI利活用の取り組み AIリスク管理態勢

アフラック（日本法人）は、適正な AI 利活用を推進するために、「AI リスク管理規程」「AI リスク管理要領」「AI リスク管理ガイドライン」を策定しています。これらは、アフラックのグローバル・グループガバナンスの枠組みのもと、グローバル AI ポリシー、グローバル AI ガバナンス・プログラム、ならびにグローバル AI スタンドードと整合しています。また、生成 AI を含む AI を積極的に活用するにあたって、AI リスクを適切に管理するためのガバナンス態勢を構築し、「リスクベースアプローチ」と「ライフサイクル管理」の両輪により、統合的な AI リスク管理を実現しています。

社内での活用

2023 年 12 月には、社内の業務効率化を目指し、アフラック（日本法人）独自の生成 AI である「Aflac Assist」を全社員へ導入し、社内研修会を通じて利用率の向上を図っています。2025 年 4 月に、汎用的な業務での利用に加えて、部署特化のマニュアルやナレッジを活用しコア業務での利用が可能な「部署特化型 Aflac Assist」を導入し、社内での活用促進を行うとともに、社員の業務効率化を図っています。

お客様への展開

お客様や当社が抱える課題の解決を実現するため、営業・代理店、社内オペレーションの一部業務を生成 AI で代替することを目指し、2025 年 8 月に、最新のテクノロジー^{*1}とデジタルヒューマンを掛け合わせたお客様向けサービスであるデジタルヒューマンアバター「アフラック AI サポートコンシェルジュ」をお客様向けに公開しました。この「アフラック AI サポートコンシェルジュ」は、24 時間 365 日お客様からの問い合わせに対応するだけでなく、改姓・住所変更・解約手続き書類の請求といった一部の契約保全手続きに対応することも可能です。将来的には、コールセンターのオペレーターに代わり、全ての問い合わせ対応や契約保全手続きを完結できるようにすることや、営業担当に代わり、ニードの喚起・意向確認から申込のクロージングまでを実施することで、お客様の手続きのサポートやご要望に合わせた保険商品のご案内・手続きを可能とすることを目指しています。これにより、お客様ニーズの多様化への対応、社会的課題である人財不足の解決、当社・代理店の安定的な経営基盤の確保を実現していきます。



代理店での活用

2024 年 9 月からは、代理店における業務効率化によるお客様へのさらなる価値提供を目的に、生成 AI を活用した業務支援システム「アフラック AI パートナー」の本格運用を開始しました。また、お客様への保険提案 / 申込手続き、契約保全手続き、および保険金請求等において、募集人の活動をサポートする AI エージェント^{*2}の開発に、2025 年 2 月から継続して取り組んでいます。

^{*1} OpenAI 社の「RealtimeAPI（音声とテキストの両方で入出力を行うことができ、遅延なく自然な会話を実現することができるインターフェース）」

^{*2} AI エージェント：必要なデータを取得・判断し、自律的にタスクを実行する AI ソリューション

アフラック（日本法人）各種受賞

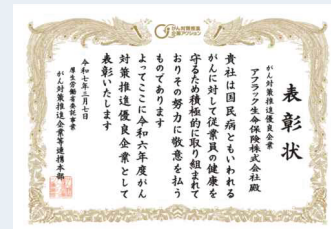
健康経営優良法人 2025

8年連続
「健康経営優良法人～ホワイト500～」に認定



令和6年度 がん対策推進優良企業 表彰制度

がん対策推進優良企業表彰制度にて、
「がん対策推進優良企業」に5年連続
選出



第10回 ACAP消費者 志向活動表彰

「アフラックのよりそうがん相談サポ
ート」が心のケア、多くの相談実績、利用
者から高い評価を受けている点が評価
され、「消費者志向活動章」を受賞



第7回 日本オープンイ ノベーション大賞

IoTデバイスを活用した高齢者の健康支
援モデル構築に向けた取り組みが評価
され、「第7回日本オープンイノベーショ
ン大賞」において「選考委員会特別賞」
を受賞



2025 New Ways of Working Award

アフラック日本法人の社内業務効率化を
目的に開発され生成AIシステム「Aflac
Assist powered by GPT-3.5/4」が
「Qorus Reinvention Awards - Asia
Pacific (APAC)2025」において、
「New Ways of Working Award」の
銀賞を受賞



Innovation in Insurance Awards 2025

「転移学習技術＊を用いたAIベース
のアプローチリストによる効果的な
提案活動」の取り組みが評価され、
「Innovation in Insurance Awards
2025」において銀賞を受賞し、当ア
ワードで4度目の受賞



Insurance Asia Awards 2025

「転移学習技術＊を用いたAIベース
のアプローチリストによる効果的な
提案活動」の取り組みが評価され、
「Insurance Asia Awards 2025」
において「AI Initiative of the Year -
Japan」を当アワードで6年連続受賞

IPRA Golden World Awards 2025

最新のがん保険「ミライト」の発売にあ
わせてオープンした「味が変わるレスト
ラン」が独創的な啓発活動であることな
どが評価され、国際PRアワード「IPRA
Golden World Awards 2025」お
よび「PR Awards Asia - Pacific
2025」を受賞

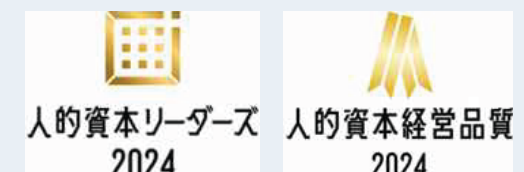


女性が活躍する会社 Best100

日経WOMAN「女性が活躍する会社
Best100」にて、6年連続で総合ランキ
ングBest10入り

人的資本リーダーズ/人的資本 経営品質ゴールド 2024

優れた人的資本経営・情報開示に取
り組む企業として、「人的資本調査
2024」において、「人的資本リーダ
ーズ 2024」および「人的資本経営品質
2024ゴールド」を受賞



* 学習済みの情報等を別のモデルに応用することで、わずかなデータから効率的かつ高精度なモデル構築を実現する技術

アフラック (米国法人)

アフラック (米国法人) について

アフラック (米国法人) のビジョンは、「人々が、想定していた、あるいは想定していなかった医療費に対してより良く備えることのできる世界」の実現です。アフラックは 2025 年に創業 70 周年を迎えましたが、このコミットメントは今なお私たちのすべての活動の根幹となっています。医療費の増加、伸び悩む賃金、米国の家庭にかかる経済的負担の拡大を背景に、当社が提供する商品へのニーズはこれまで同様、あるいはこれまで以上に高まり続けています。

2025 年を通じて生活者の行動や購買の好みは変化し続け、当社もそれに合わせて進化しました。アフラックは、商品ラインナップの多角化、販売網の拡大、ブローカーとの関係強化に加え、従来のチャネルを超えて生活者にアプローチする方法も広げました。こうした取り組みは、各市場でお客様との接点を増やし、加入率および継続率を高める当社の戦略を支えています。

2025 年、アフラックは米国の補完医療保険分野で第 1 位の評価を獲得し、18 年連続でトップを達成しました。2026 年は、販売力のさらなる強化、雇用主や従業員の皆様に提供する価値の向上、デジタルイノベーションの活用による最適な顧客接点の実現を通じ、この地位をさらに確かなものにしたいと考えます。こうした取り組みと併せて、規律ある引受方針を維持し、2025 年の安定した保険料収入の増加につなげました。

* LIMRA 2024 年米国補完医療保険総合市場レポート

米国の労働人口が 1 億 6,300 万人を超える中、アフラックがリーチできているのはその 3 分の 1 未満にとどまり、大きな成長余地が存在します。特に、当社が長年強みをもつ中小企業分野では、さらなる拡大の可能性が期待されます。医療費の自己負担額の増加に対する手立てを雇用主や従業員の皆様が求める動きが強まるなか、確かな経済的安心をもたらす補完医療保険へのニーズは高まり続けています。アフラックは、幅広い保険商品ラインアップと強力な販売力、高品質なサービスを一体化させることで、お客様に実質的な経済的安心を届け、こうしたニーズにしっかりお応えしています。

約 100 億ドル規模の個人保険市場で、アフラックは市場のほぼ半分を握るリーダーであり、この地位は継続的な成長の強い基盤となっています。この市場には、現在補足的医療保険にアクセスできていない人々にも、なお大きな機会が存在しています。当社は、プレゼンスの深化と顧客との関係強化を行い、こうした機会の取り込みを図っていきます。また、1,000 億ドル超の団体保険市場への戦略的拡大により、成長の余地はさらに広がっています。両市場での取り組みを通じ、より多くの雇用主や従業員にリーチし、必要とされる経済的安心をお届けする力を高めていきます。

2025 年 アフラック (米国法人) 財務ハイライト

税引前調整後利益

14 億ドル

保険料収入 (純額) *

60 億ドル

保険金給付金比率 (全商品)

47.3%

税引前利益率

20.6%

調整後投資収益 (純額)

8 億 3,000 万ドル

調整後事業費率

38.3%

統合リスクベース
資本 (RBC) 比率

570%

調整後収益

69 億ドル

契約継続率

79.2%

* 保険料収入 (純額) は出再保険控除後

アフラック（米国法人） 商品ソリューション+効果的な販売+ 優れたサービス=ロイヤルカスタマー

アフラックの補完保険は、病気や医療の利用によって生じる収入や資産の目減りに備え、お客様に直接現金給付金をお支払いする保障を提供しています。ご契約者はこうした給付金を、医薬品代、健康保険適用外の自己負担分、家計費負担など、想定内・想定外の医療費の自己負担の軽減にお役立ていただいています。米国の家庭が受ける経済的負担が強まる中、当社の幅広い保険商品は、ご契約者に価値を提供するとともに、あらゆる規模の企業が、従業員に手ごろな価格で包括的な福利厚生を提供できるよう設計されています。

2025 年を通じて、現在の生活者のニーズと期待に合うよう、商品ラインナップの拡充を進めてきました。ご契約者にアフラックの商品の価値を理解し実感していただくことで、契約継続率は向上します。これはご契約者のメリットにつながると同時に、当社の規律ある事業費管理と長期成長目標を支えることにもつながります。アフラックの主力商品であるがん保険、重大疾病保険、事故保険、就業不能保険、入院保障保険は、当社商品ポートフォリオの礎として、幅広いお客様のニーズにお応えする役割を果たしています。

当社の保険商品の中でも、アフラックといえばがん保険が最もよく知られています。約 70 年前、がん保険のパイオニアとして、当社はがんと診断された際の経済的負担を軽減するための保障内容を設計しました。がんは今なお数多くの人とそのご家族に影響を与え続けています。

調査によれば、生活者にとってがんは、発生のしやすさと経済的影響の両面で、最も懸念する病気であることが明らかになっています。アフラックは長年、予防と積極的なケアに力を注いできましたが、2025 年にはその取り組みを一段と強化するべく、「Check for Cancer」運動をスタートさせました。これは、がんの早期発見を呼びかけ、米国内のがん検診受診率を狙いとしたマルチチャネルの啓発キャンペーンです。

アフラックは、治療期間とその後の人生の中で続く経済的な負担を軽減するため、がん関連のソリューション強化に取り組んでいます。

またアフラックは、がんの予防と早期発見に関する認知向上を目的に、米国がん協会と提携しました。がんの診断を受ける前、受けたとき、受けた後のあらゆる段階で人々を支援するという当社の方針に基づき、ご契約者や雇用主を信頼できる情報源や支援サービスにつなげます。

当社は商品ポートフォリオを拡充し、生命保険や休業・就業不能保険のほかに、現在ではネットワーク歯科・眼科保険なども加わりました。従業員が本当に価値を感じる福利厚生を戦略的にそろえ、包括的に提供することで、雇用主との関係を強化します。従業員にとって歯科保険は 2 番目に、眼科保険は上位 4 番目以内に重要な保険とされており、雇用主はアフラックと連携することで、従業員の幅広いニーズに応える複数のソリューションを一括で提供できる機会が増えました。こうした提供価値の拡大は、企業が保障の選択肢を増やしたいときにアフラックを必要とする理由がまた一つ増えたことを意味します。また、長期的関係を深め、契約継続率を支え、任意保険ポートフォリオ全体の持続的成長を加速させることにもつながります。

団体生命保険および休業管理・就業不能保険は引き続き高い契約継続率を維持し、大企業市場での当社の存在感を高めています。これを支えるのがアフラック「プレミアム生命・休業・就業不能ソリューション(PLADS)」チームが提供する革新的なテクノロジーや質の高いサービスです。PLADS は、手続きの複雑さを軽減し、カスタマーエクスペリエンスを向上させる力を武器に、これまでこの分野を占めていた既存の競合他社を凌駕し、大型保険市場に変革を巻き起こしています。また、アフラックは、2025 年にコネチカット州の有給家族・医療休暇プログラムの管理者に再任されたほか、メイン州においても同州が運営する有給の家族・医療休暇プログラムの保険金請求管理者に選ばれました。休暇管理における当社のリーダーシップと、経験、運営の卓越性、サービスの質に対するこれらの州からの信頼はますます高まっています。



アフラック・インコーポレーテッドおよびアフラック（米国法人）社長のヴァージル・ミラー（上）と、アフラック（米国法人）副社長のフレッド・シマード（左）。アフラック（米国法人）の年次全社会議「State of the Company meeting」において、商品、コラボレーションやご契約者に価値を提供する方法について、全社のリーダーと対話しました。

当社は、販売力強化のためにより良いツールやリソース、テクノロジーを提供し、どのチャネルにおいても募集人の成功を常に支えています。ブローカーやキャリアチャネルでの協力関係を強化しつつ、生活者が望む場所で接点を持てるよう、デジタルケイパビリティを継続的に拡充しています。こうした取り組みがアフラックのソリューションの価値を高め、競争環境においても当社の存在力が強めています。

今後の展望

2026年に向けて、アフラックは引き続き、現在の主導的地位を強化し、ともに活動する募集人の数を増やすことに注力します。また、一番必要なときにより多くの人々を守る、生活者主体の革新的なソリューションを提供すると同時に、規律と持続性のある成長を追求し続けます。



アフラック（米国法人）全社会議「State of the Company meeting」において、シニアバイスプレジデント兼最高事業成長責任者のジョン・エジントンが個人保険および団体保険事業を通じた成長戦略について説明しました。



（左から右）セールス責任者である米国販売チャネル担当シニアバイスプレジデントのケン・マイヤー、全米セールスエグゼクティブのスティーブ・ウェルズ、マーケットディレクターのカイリー・リン、プレミア生命・休業担当バイスプレジデントのダニエレ・クリバノフ、コンシューマーマーケット担当バイスプレジデントのマリオ・ハイファが、全社会議にて販売戦略と、アフラックだけが提供するNo.1補完医療保険を生活者に届ける方法についてあらゆる角度から説明しました。

セールススポットライト: コリー・ボーダーズさん、 アフラック リージョナル・セールス・ コーディネーター

「アフラックというブランドが相手の心を開いてくれるので、補完医療保険とは何かを簡単に理解してもらうことができます」

「私がアフラックに入社した大きな理由の一つは、家族と過ごす時間を増やせることでした。ワークライフバランスだけでなく、家族を経済的に養えることも、ここにいる理由です。アフラックが目指しているものを信じ、それに自分自身の理由を掛け合わせるのです。仕事に対する真摯な姿勢と規律があれば、アフラックでの経済的成功に上限はありません。私がどこかを訪ね、「アフラック」という言葉を口にすると、誰もがこのブランドをすでによく知っています。アフラックブランドが相手の心を開いてくれるので、補完医療保険とは何かを簡単に理解してもらうことができます。アフラックでの成功の秘訣は、できるだけ多くの人を助けることだと考えています。それならどの保険会社も同じでしょうか?いいえ、同じではありません。アフラックはより大きく、より優れており、一人ひとりが早期に成功できるリソースが整っています。」



写真: アフラック (米国法人) リージョナル・セールス・コーディネーターのコリー・ボーダーズさんと、アフラックに入社した「理由」である家族。より長い時間を共に過ごし、また経済的に養うことができます。



アフラック（米国法人）の保険商品

がん保険

アフラック（米国法人）のがん保険は、初めてがんと診断された際の一時金と、その後がん治療を受けた際の給付金をお支払いする商品です。アフラック（米国法人）では、個人保険でがん保険を提供しています。

事故保険

アフラック（米国法人）は、個人・団体を問わず、事故保険を取り扱っています。これらの保険は、保険の対象となる傷害が発生した場合に現金で給付を行うものです。保険契約の事故部分には、事故による死亡、四肢切断および特定の傷害に対する一時金と、入院に対する定額給付金が含まれています。また、住宅の改修やウェルネスへの給付、組織的なスポーツ活動への参加に関連する傷害に対する割増給付も提供されます。

就業不能保険

アフラック（米国法人）は、個人保険・団体保険を問わず、短期就業不能保険を、また、団体保険において長期就業不能保険を取り扱っています。対象となる傷害、疾病、またはメンタルヘルスに対して保障を提供します。さらに、雇用主が従業員の休業を管理し、刻々と変化する州および連邦の休暇法を遵守するために、包括的な休業管理ソリューションを提供しています。

重大疾病保険

アフラック（米国法人）は、個人保険・団体保険を問わず、重大疾病保障プランを提供しています。これらの契約は、心臓発作や脳卒中、がんなどの重大な病気になったときに、現金で給付を行うものです。

歯科・眼科医療保険

アフラック（米国法人）は、団体保険において、ネットワーク歯科・眼科医療保険を提供しています。また、個人保険において、固定給付型の歯科医療保険を提供しています。さらに、「Vision NowSM」という個人向けの保険を提供しており、深刻な目の健康状態や失明に対する給付に加えて、眼科矯正器具や検査に関する保障も提供しています。

入院保障保険

アフラック（米国法人）は、個人保険・団体保険を問わず、入院保障を提供しています。入院保障商品は、事故や病気による入院を支払事由として、ご契約者に定額給付を行うものです。また、入院および外来の手術や各種の診断結果に対する給付も用意されています。さらに、個人保険における事故保険、短期就業不能保険および入院保障保険に付加することができる、一定の重大疾病に関する一時金特約を提供しています。

生命保険（定期および終身）

アフラック（米国法人）は、個人保険・団体保険を問わず、定期保険および終身保険を提供しています。また、団体定期保険には事故による死亡および四肢切断保障の特約を用意し、ご契約者が事故により死亡または重傷を負った場合に追加の保障を提供しています。



従業員スポットライト： TJ・ボエツさん、アフラック ビルディング・エンジニア

「人に伝える機会があるなら、健康診断を受けて、自分の健康を積極的に守ってほしいと言いたい。」

「アフラックに勤めて 10 年になりますが、アフラックの事業所内クリニックのサービスを利用してきました。首の左側のしこりが大きくなっていることに気づいたとき、受診の予約を入れることができました。診察の結果、精密検査のためにすぐに耳鼻咽喉科を紹介されました。そこで首のリンパ節の 2 カ所に広がる咽頭がんが見つかりました。クリニックの皆さんの素早い対応のおかげで、早期に診断を受け、化学療法と放射線療法のためにエイモスがんセンターに入院することができました。スタッフの皆さんの献身的なサポートと毎日の経過観察があったからこそ、ほとんどの治療を乗り越えることができました。この経験を通じて、体の健康については先手が重要だということを学びました。現在は健康で体調万全、仕事に 100% の力を注ぐことができます。もし私が人に伝える機会があるなら、健康診断を受けて、自分の健康を積極的に守ってほしいと言いたいです。私の場合は、対面とオンラインの両方で医療の専門家と相談できる機会がありました。」



アフラック従業員、保険金受給者である TJ・ボエツさん



アフラック(米国法人)のマーケティング戦略

アフラックのマーケティング戦略は、米国の人々がよくメディアに触れる場において、継続的かつ創意工夫を凝らした形で存在感を示し、補完的医療保険は従来の医療保険ではカバーされない費用を補えることを分かりやすく伝えています。アフラックのマーケティングアプローチは効率的かつ効果的であり、生活者の知識、検討の意向、ポジティブな感情といったブランド指標の向上を実現するため、投じた費用の効果が最大限に高まるよう、規律あるハイインパクトな投資戦略を展開しています。実際アフラックは、計測するすべてのブランドヘルスカテゴリにおいて主要な競合他社よりも高い評価を生活者から得ています。

アフラックダックや大きな影響力を持つ著名スポーツ選手の助けも借りながら、アフラックが最も必要とされるときにご契約者に安心をもたらすことを発信しています。アフラックは、当社が商品やサービスを提供する地域社会に責任を持って向き合い、画期的なアプローチと従来のマーケティングチャンネルを組み合わせることで、ブランド認知度を高めたり販売を支援できるような、マーケティングアプローチを推し進めています。

アフラックダック誕生25周年を祝って

アフラックダックはまさに象徴的な存在です。誕生から25年が経ち、今や世代を超えてブランド認知を広げてくれる代表的な存在になりました。アフラックが将来に向けて前進する中で、若い世代の視聴者にアプローチし、販売活動を支えるためのマーケティングイノベーションによって、その勢いは一段と増しています。2000年に今では有名なテレビコマーシャル「公園のベンチ」でデビューを果たして以降、アフラックダックはそのおなじみの鳴き声で大勢の人々のハートをとらえ、アフラックのブランドプロミスを体現する、誰もが知る存在になりました。

アフラックダックは時代を超越した象徴ですが、定評あるブランドアセットとしての文化的意義はこれまで以上に高まっています。これは、当社が業界最高水準のメディア戦略を進化させ続け、チャネルや発信アプローチを絶えず刷新しているためです。アフラックダックの登場させ方にも新しい方法を取り入れ、最先端テクノロジーを駆使することによって、放送でもデジタルプラットフォームでも、このマスコットはいきいきとした姿を披露しています。

今年はアフラックダックの25年の歩みを踏まえ、真のヒーローたちを称えました。小児がんや鎌状赤血球症などの血液疾患に立ち向かう子どもたちとそのご家族です。25周年記念の一環として、当社が同額を上乗せする、最高金額25万ドルのマッチングギフトを実施し、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターへの支援を行いました。



アフラックダック誕生25周年

テレビコマーシャル「公園のベンチ」でデビュー。		広告版「ウォーク・オブ・フェイム」に仲間入り。		PR Newsの「PRの殿堂」入り。メイシーズの感謝祭パレードにデビュー。		アフラックのブランド認知度が11% (2000年) から94%に急上昇。世界で最もよく知られる企業に。		がんと向き合う子どもたちのために作られ、数々の賞に輝いた、ふわふわのソーシャルロボット「My Special Aflac Duck®」が誕生。	
2000	2003	2004	2005	2011	2013	2014	2015	2018	2025
日本で海外デビューを果たし、ここでも人気の広告マスコットに。		アフラックダックを加えた、新しいロゴが誕生。		小児がんの資金集めと認知度向上のために企画したアフラックの新しいダックプリントキャンペーンのシンボルキャラクターに就任。		アフラックの創業60周年記念をサポート。自らも誕生15周年を迎える。ニューヨーク証券取引所に登場し、大きな節目を祝福。		アフラックの創業75周年とアフラックダックの誕生25周年を祝し、ジョージア州コロンバスのアフラック本社に記念のパークベンチを設置。	

女子スポーツファンとともにブランドの認知度アップ

アフラックは、女性が家族のヘルスケアに関する判断の多くを担っていることを踏まえ、さらにこれから女子スポーツが文化的現象となることを見据え、視聴者数や人気が増える以前から女子スポーツに資金提供を行ってきました。今年も、女子スポーツ全体でマーケティング費用を8%増やし、またリーチの大きなチャンネルに対する戦略的な資金配分を前年比10%増やしました。同時に、ナショナル・ウィメンズ・サッカーリーグと米国女子サッカー代表チームに投じる資金を42%増やし、女子スポーツ界におけるアフラックのリーダーシップをさらに固め、リーチや需要を最大限に高めました。

全米女子バスケットボール選手会 (WNBPA) の公式補助パートナーであるアフラックは、WNBPA オールスターウィークエンド開催中に行われるスキルズチャレンジや3ポイントコンテストの優勝者への賞金を11万5,000ドルに増額し、優秀な選手により多くの報賞金を提供しました。また、女子バスケットボールコーチ協会 (WBCA) と協働して、ユースバスケットボールスキルクリニックを開催し、グレード5～8の若き女子選手、計200人に価値ある指導や助言、スキルアップの機会を提供しました。さらに、今年で3年連続となる「WBCA アシスタントコーチ・オブ・ザ・イヤー」アワードのスポンサーとして、受賞したコーチの名前で、ケイ・ヨウがん基金に3万ドルの寄付を行い、アフラックからの累計寄付金額は10万ドル超となりました。

ウィメンズ・ナショナル・バスケットボール・アソシエーション (WNBA)、ニューヨーク・リパティに所属するナターシャ・クラウド、サブリナ・イオネスク両選手。それぞれWNBPAオールスタースキルチャレンジとスリーポイントコンテストで優勝し、アフラックからの小切手を手に。



2025 年、アフラックは戦略的パートナーシップとブランドアクティベーションを活かし、引き続き女子選手への支援とファンとの有意義な関係作りを行いました。その中でも注目すべきは「TOGETHXR」との協力です。TOGETHXR は、世界を代表する 4 人のトップアスリート、アレックス・モーガン、クロエ・キム、シモーネ・マニユエル、スー・バード選手らが設立したメディア・コマース企業で、女子カレッジバスケットボールのハイシーズン中の女子スポーツ観戦視聴者数を伸ばすことを目指しています。「Raise the Bar (レイズ・ザ・バー／ハードルを上げよう)」と題したキャンペーンでは、全米のバーを対象に、3月17日～4月6日の期間、店内に設置しているテレビの半数以上で、全米大学体育協会 (NCAA) 女子バスケットボールトーナメントを放映してくれるよう呼びかけました。女子スポーツファンは、双方向型デジタルマップを使ってトーナメントの試合を観戦できる場所を探すことができます。65 軒のバーがこのキャンペーンに参加を表明しました。この数は 2024 年時の 3 倍超となりました。

全米で65軒のバーが、トーナメント期間中、店内テレビの半数以上で女子の試合を放映するキャンペーンに参加表明。





アフラックは、当社のパートナーでもある、サウスカロライナ大学バスケットボールのドーン・ステイリーヘッドコーチのコート内外での功績を称えるために設置された銅像の除幕式に参列しました。

アフラックは 2023 年から、サウスカロライナ大学女子アスリートの支援者であるサウスカロライナ大学女子バスケットボールのドーン・ステイリーヘッドコーチとパートナーシップを結んでいます。そのご縁で昨年春、同大学の同窓会センターにステイリー・コーチの銅像が設置されるにあたり、台座のスポンサーを務めたことは当社の誇りです。このほか、ステイリー・コーチの功績に敬意を払うもう一つの証として、有名なストリートウェアブランド「Playa Society」とコラボレーションし、「Keep Beating the Odds (逆境に打ち勝ち続ける)」のロゴが入った特別な限定版 T シャツを制作しました。ステイリー・コーチの不屈の精神と自分自身にもチームにも常に高い目標を設定する手腕を称えるものです。

友情を築く：ステイリー・コーチとブレイクリー・トンプソンちゃん

ドーン・ステイリーコーチと小児がん患者のブレイクリー・トンプソンちゃんは 2023 年に母校で開かれた「My Special Aflac Duck®」イベントで出会いました。その時に 2 人で一緒に作ったネックレスは、逆境を乗り越える強さと、新たな視点を象徴するものとして、国内外から注目を集めました。それから 2 年が経ち、ネックレスが 3 つになった後、サウスカロライナ・ゲームコックスのエリート 8 ゲームに先立ち、March Madness トーナメントのテレビ生中継で、ステイリー・コーチはブレイクリーちゃんが自分の幸運を祈ってくれているのを見て驚きました。そして 7 月 9 日、ステイリー・コーチはブレイクリーちゃんと一緒に鐘を鳴らし、がん治療の終わりを祝福しました。



アフラック・インコーポレーテッドおよびアフラック（米国法人）社長のヴァージル・ミラーと、ドーン・ステイリーコーチ。銅像の除幕式にて。

ドーン・ステイリーコーチ、UVAヘルス小児病院での治療を終えた7歳のブレイクリー・トンプソンちゃんを祝福



カレッジフットボールゲームに引き続き参戦

カレッジフットボールは以前からNFLに次ぐ視聴者数を継続的に記録しており、2025年はさらに記録的な年となりました。週末になると、全米がカレッジフットボールのライバル同士の対戦や劇的な勝利に沸きます。国民の関心は、応援するコーチや選手たちの思惑やドラマ、駆け引きに合わせて動き、次の動きを見逃すまいと画面に釘付けです。

他ブランドと比べて広告費が相対的に小規模だとしても、アフラックがカレッジフットボールにおける主要プレーヤーであるのは、そうした背景があります。ファンの記憶に残る、心に響くパートナーシップと投資を通じて、スポーツマーケティングの先頭を走っています。2020年以降、アフラックは「College GameDay」とパートナーシップを組み、コンテンツを消費する場所で全米の生活者をつながる機会を得て、捉え、フィールドからテレビ画面に至るまで、生活者体験を形作る瞬間を作り出しています。

2025年、アフラックと、コロラド大学フットボール部ヘッドコーチのディオン・「プライムタイム」・サンダース、および元アラバマ大学フットボール部ヘッドコーチで現ESPN解説者のニック・セイバンとのタッグが5年連続で実現しました。2本の新しいコマーシャルを皮切りに、アフラックダックを間に挟んで、2人がスポーツ界で今話題のトピック、「カレッジフットボールにコミッショナーは必要か?」について話しました。呼びかけに応じて、アフラックダックが遊び心のある新しい役割、「保障のコミッショナー」として登場。従来の医療保険ではカバーしきれない経済的なギャップに対応できるよう、采配を振るい、ゲームプランを設定する準備は万端です。



プライム・コーチとコロラドでの「Checks for Cancer」

男性の2人に1人、女性の3人に1人は生涯のうちにがんの診断をされると言われ、治療や回復期の費用が家族にとって大きな負担となることも少なくありません。アフラックは、今後10年で全米のがん検診受診率を10%引き上げることを目指す「Check for Cancer」イニシアチブの一環としてプライム・コーチと協力し、フォルサムフィールドで開かれる試合中に早期発見の大切さをファンに強く印象付ける活動を行いました。プライム・コーチ自身が膀胱がんの診断を受けたときの動画の上映や、アフラック・インコーポレーテッドおよびアフラック（米国法人）社長のヴァーシル・ミラーがグラウンドに立ち、がん検診を呼びかける動画が映し出されたときにブランドロゴ入りラリータオルを1万5,000人のファンで振るなど、記憶に残る瞬間となりました。プライム・コーチはSNSでもコンテンツを拡散し、スタジアムをはるかに超えてより多くの人にメッセージを発信し、より多くの人々の心を動かしています。



早期発見の大切さを呼びかける啓発活動、「Check for Cancer」の一環として、フォルサムフィールドでラリータオルを手に立つプライム・コーチ。

アフラック・キックオフゲーム:「Kicking off for a Cause」

ダブルヘッダーの「アフラック・キックオフゲーム」がカレッジフットボールの2025年シーズン開幕を告げると、注目はアトランタに集まりました。テネシー・ボランティアーズがシラキュース・オレンジを、サウスカロライナ・ゲームコックスがバージニアテック・ホークズを下しました。その週末には、アフラックが誇りをもって支援する「全米小児がん・鎌状赤血球症啓発月間」の開始を、「Kickoff for a Cause」イニシアチブを通じて称えました。病氣と闘うジュディさん（シラキュース在住）とハドソンくん（テネシー在住）の2人の若者は、このイニシアチブを通じて大好きなヘッドコーチとの交流会を楽しみ、チーム施設を見学し、My Special Aflac Duck®をプレゼントされました。「Kickoff for a Cause」イニシアチブは開始以来120万ドル超を生み出し、小児がんと向き合う子どもたちとその家族を支援するアフラックの長年のコミットメントを強化するとともに、企業の社会的使命に根差した地域社会への貢献をさらに高めています。



全米小児がん啓発月間を支援する「Kickoff for a Cause」イニシアチブの一環としてプレゼントされたMy Special Aflac Duckを見せるジュディさんとハドソンくん。

ヒスパニック系生活者とのつながり作り

アフラックは従来から全米のヒスパニック系生活者と意味のあるつながりを築き、販売方法や市場での加入率の向上を図ると同時に、2カ国語での募集活動を通じて販売網を広げています。今年は、ヒスパニック系の生活者と企業に対するセグメンテーション分析を行って知見を社内で共有し、より深い理解と提供価値の向上を図りました。その結果、当社商品、メッセージの発信、販売戦略の指針となるインサイトを得ることができました。この取り組みの一環として、ヒスパニック系生活者に対する商品ポジショニングを最適化するとともに、販売活動や広告宣伝、生活者エンゲージメントの接点を支えるスペイン語のリソースを新たに400以上作成しました。

アフラックは、戦略的パートナーシップ、インフルエンサー、地域密着型イニシアチブを通じてヒスパニック系コミュニティとの関わりを拡大しています。例えば、フロリダでは、売上アップの評価、募集活動に関する指標の設定、ヒスパニック系に特化したコンテンツの統合を目的に、主要市場でプログラムのパイロット運用を開始しました。事業開発マネージャーおよび一般生活者における認知度拡大がこの狙いです。また、事業を展開する地域社会を反映し、文化的に整合した人財体制の構築にも引き続き取り組んでいます。アフラックが全米で展開する募集イベント、「Dream Bigger」をマイアミで開催した際は、この考え方を中心にしてラテンアメリカ系管理職の声を取り上げ、世界的スーパースター、ピットブルさんに登場していただくなどしてパイプラインを広げ、その結果、52人の新規募集人を新たに獲得しました。

アフラックは、さらなる人財募集イベントの開催やメキシコ系アメリカ人に焦点を当てたテキサス市場の評価推進を含め、今後もヒスパニック系の成長戦略を進めていきます。また、フロリダ、ジョージア、テネシー、ルイジアナ、テキサス各州でのヒスパニック系生活者への販売を後押しする「Hola Seguros」を戦略的に支援します。



マイアミで開催したアフラック「Dream Bigger」募集イベントに登壇したアフラック販売代理店、ジュリエット・ルーゴ、マーケットディレクター、マリア・オルティス、ブローカー育成コンサルタント、マリア・カルデナル、世界的スーパースター、ピットブル（敬称略）。

アフラック・インコーポレーテッドの受賞、表彰、エンゲージメントおよびメンバーシップ

フォーチュン誌の「世界で最も賞賛すべき企業」のリストに選出
(25年目)

**FORTUNE'S WORLD'S MOST
ADMIRE COMPAIES**

Ethisphere誌の「世界で最も倫理観の高い企業」の1社に選出
(20年連続)



女性が働きたい全米トップ50社が選ばれる、ラティーナ・スタイル 50に選出 (25年目)



責任投資原則 (PRI) に署名

Signatory of:



「ヒスパニック・プロミス」の最初の署名企業の一社

ヒスパニックの雇用、昇進、維持、職場での賞賛を誓う



ビジネス・ラウンドテーブル



アフラック・インコーポレーテッド

財務ハイライト

アフラック・インコーポレーテッド

(ニューヨーク証券取引所のティッカー・シンボル：AFL)

投資家情報 (2025 年 12 月 31 日現在)

2025年は、アフラック・インコーポレーテッドが43年連続で年間配当を増額した年となりました。再投資された配当金を含む株主総利回りは2025年に8.9%となりました。同年の株主総利回りは、S&P生命保険株価指数では6.7%、S&P500種平均株価指数では18.7%、ダウジョーンズ工業株30種平均では13.7%でした。

長年にわたり、当社は長期的な視点で事業を展開してきました。1955年のアフラック創業時に投資家が当社株式を100株購入したとすると、その購入価格は1,110ドルでしたが、29回にわたる株式配当および株式分割の後、この投資家の保有する当社株式は、現在、375,960株と、約4,100万ドル相当になり、これまでに配当金額として、872,227ドルを受け取ったこととなります。

70年

創業からの年数

578億ドル

株式時価総額

51年

ニューヨーク証券取引所
上場年数

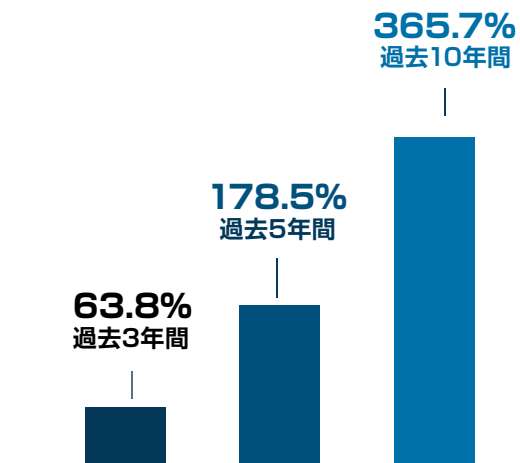
43年

連続増配年数

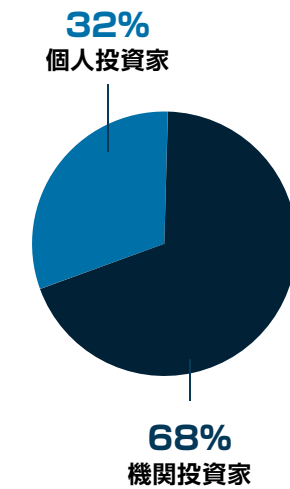


株主総利回り

配当金の再投資を含む

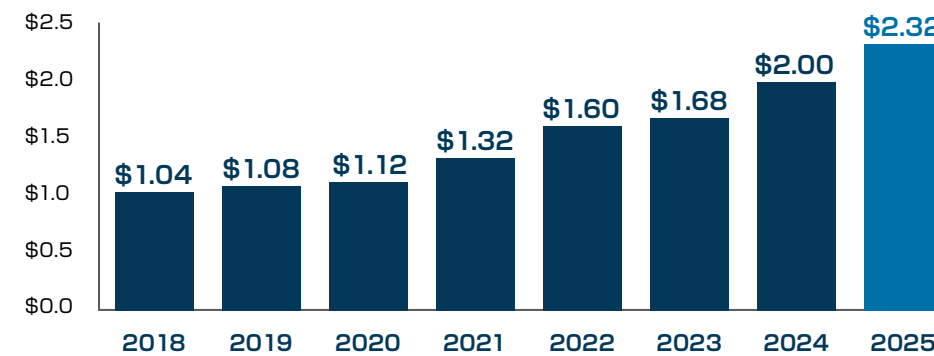


株主構成



1株当たり年間現金配当*

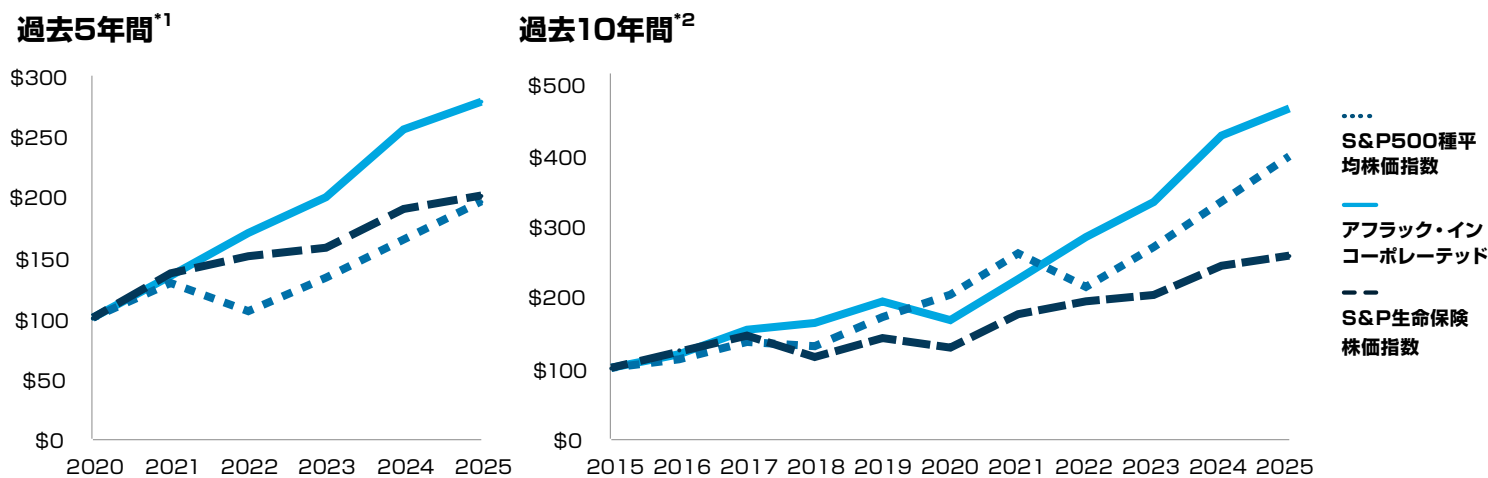
アフラックは過去43年間連続で増配を続け、2025年の現金配当額は、2024年に比べて16%増加しました。



*株式分割調整後

株主の累積投資収益*1

アフラック・インコーポレーテッドとS&P500種平均株価指数およびS&P生命保険株価指数の比較

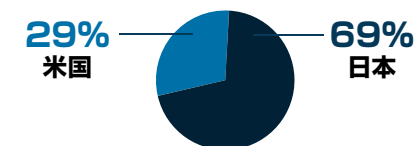


*1 2020年12月31日に100ドルをアフラック株もしくはそれぞれの指数に投資した場合。再投資された配当金を含む。12月31日に終了した事業年度
Copyright© 2026 Standard & Poor's, a division of S&P Global. All rights reserved.

*2 2015年12月31日に100ドルをアフラック株に投資した場合

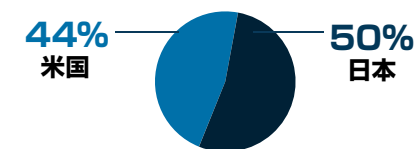
セグメント別の税引前調整後利益*

(2025年12月31日現在、ドルベース)



セグメント毎の新契約年換算保険料*

(2025年12月31日現在、ドルベース)



* 全社（アフラック（日本法人）およびアフラック（米国法人）を除く）およびその他は、2025年に1億100万ドルの調整後税引前利益と8億600万ドルの保険料収入（純額）を計上

当社の約束を支える強固な資本基盤

定期的な評価の一環として、当社は自己資本の充分性に細心の注意を払っており、極端な経済シナリオにおいても、強固な資本の健全性を維持できるよう努めています。アフラック・インコーポレーテッドの子会社は、日米の保険市場で最も高い財務力格付けを得ています。これらの重要な格付けは、当社の保険金支払能力を反映したものであり、格付会社が、引き続き当社のバランスシートの健全性を認識していることを当社は誇りに思っています。

詳細については、investors.aflac.com をご覧ください。

保険財務力格付け*1	A.M. Best*3	S&P*3	Moody's*3	JCR*3	R&I*3
アフラック生命保険株式会社*2	A+	A+	Aa3	AA+	AA
アフラック（コロンバス）*2	A+	A+	Aa3	AA+	AA
アフラック（ニューヨーク）	A+	A+	-	-	-
コンチネンタル・アメリカン・インシュアランス・カンパニー	A+	-	-	-	-
アフラック・リー・バミューダ	-	-	-	AA+	-

*1 2026年2月4日現在

*2 主たる保険子会社

*3 A.M. Best: A.M. Bestレーティング・サービシーズ・インク、S&P: S&P グローバル・レーティングス、Moody's: ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク、JCR: 株式会社日本格付研究所、R&I: 株式会社格付投資情報センター

財務諸表からの抜粋

12月31日に終了した事業年度 (単位: 百万ドル、ただし株式数および1株当たり金額を除く)	2025	2024	2023	2022	2021
収益:					
保険料収入 (主として補完保険)	\$13,548	\$13,440	\$14,123	\$14,901	\$17,095
投資収益 (純額)	4,076	4,116	3,811	3,656	3,818
資産運用 (損) 益 (純額)	(572)	1,271	590	363	468
その他の収益	112	100	177	220	173
収益合計	17,164	18,927	18,701	19,140	21,554
保険金給付金および事業費					
保険金給付金 (純額)	7,293	7,450	8,211	8,887	10,476
事業費	5,338	5,060	5,228	5,384	5,870
保険金給付金および事業費合計	12,631	12,510	13,439	14,271	16,346
税引前当期純利益	4,533	6,417	5,262	4,869	5,208
法人税等	887	974	603	451	977
当期純利益	\$3,646	\$5,443	\$4,659	\$4,418	\$4,231
1株当たり金額および株式数					
当期純利益 (基本)	\$6.84	\$9.68	\$7.81	\$6.96	\$6.28
当期純利益 (希薄化後)	6.82	9.63	7.78	6.93	6.25
調整後利益への調整項目					
資産運用損 (益) (純額)	\$0.70	(\$2.65)	(\$1.53)	(\$0.70)	(\$0.68)
その他および非経常的損 (益)	0.10	0.04	(0.07)	—	0.11
調整後利益への調整項目に係る法人税 (軽減額) 費用	(0.13)	0.18	0.04	(0.56)	0.12
税務に係る評価性引当金の取崩し	—	—	—	—	—
現金配当支払額	2.32	2.00	1.68	1.60	1.32
基本1株当たり当期純利益計算に用いた加重平均普通株式数 (単位: 千株)	532,885	562,492	596,173	634,816	673,617
希薄化後1株当たり当期純利益計算に用いた加重平均普通株式数 (単位: 千株)	534,878	565,015	598,745	637,655	676,629

主要な業務指標

	2025	2024	2023
アフラック (日本法人)			
保有契約件数 ^{*1}	22,024	22,354	22,878
保有契約年換算保険料 ^{*2}	¥1,179,112	¥1,208,991	¥1,246,373
新契約年換算保険料 ^{*2}	¥74,351	¥64,111	¥60,730
アフラック (米国法人)			
保有契約件数 ^{*1}	14,868	13,870	13,546
保有契約年換算保険料 ^{*2}	\$6,694	\$6,383	\$6,161
新契約年換算保険料 ^{*2}	\$1,589	\$1,543	\$1,558



*1 単位: 千件

*2 単位: 百万

財務諸表からの抜粋（続き）

12月31日に終了した事業年度 (単位: 百万ドル、ただし株式数および1株当たり金額を除く)		2025	2024	2023	2022	2021
年度末現在						
資産:						
運用資産および現金・預金		\$103,760	\$105,087	\$113,560	\$117,397	\$142,978
その他		12,710	12,479	13,164	14,341	15,172
資産合計		\$116,470	\$117,566	\$126,724	\$131,738	\$158,150
負債および株主持分						
保険契約準備金		\$69,583	\$77,508	\$91,599	\$96,910	\$126,331
法人税等負債		887	573	154	451	30
社債等およびリース負債		8,409	7,498	7,364	7,442	7,956
その他の負債		7,620	5,889	5,622	6,548	6,802
株主持分		29,490	26,098	21,985	20,140	17,031
負債および株主持分合計		\$116,470	\$117,566	\$126,724	\$131,738	\$158,150
補足データ						
株価:	高値	\$115.84	\$115.50	\$84.64	\$72.70	\$53.46
	安値	96.95	75.08	60.20	52.07	23.07
	終値	110.27	103.44	82.50	71.94	44.47
年末現在 円／ドル為替レート (円)		¥156.56	¥158.18	¥141.83	¥132.70	¥115.02
加重平均 円／ドル為替レート (円)		149.32	150.97	140.57	130.17	109.79



サステナビリティ・ ハイライト



サステナビリティ・ハイライト

トピック	ハイライト	2025年の進捗状況
環境	2040年までに、スコープ1、2、3（カテゴリ15を除く）のカーボン・ニュートラルを達成します。 2050年までに、スコープ1、2、3（カテゴリ15を含む）のネット・ゼロ・エミッションを達成、維持します。	2020年以来、アフラックは排出量の削減と再生可能エネルギー・クレジット（REC）やカーボン・オフセットの購入を合わせて、スコープ1および2におけるカーボン・ニュートラルを達成しています。 - アフラックは誠実な努力と経済的に成立する選択肢によって、2025年も引き続き温室効果ガスの削減を前進させました。（当社は2023年を、その後のスコープ1、2、および3のカテゴリ1から8の排出量を比較するための適切なベンチマークとして考えています。）
責任投資	責任投資原則へのコミットメントを維持します。	9億5,000万ドルを超える資金を、環境（65%）と社会（35%）へのインパクト投資にコミットし、提供しました。 - サステナブル運用資産（AUM）は60億ドルを超えています。
報告	サステナビリティ会計基準審議会（SASB）および気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の基準に準拠し、報告・開示のフレームワークを引き続き強化します。	2025年版TCFDレポートを発行しました。 - スコープ1と2、およびスコープ3のカテゴリ1、2、3、4、5、6、7、8のGHG排出量について保証を取得しました。
人財の多様性と差別禁止へのコミットメント	- アフラック生命保険株式会社は、日本政府が女性活躍を推進していることを踏まえ、さらなる女性パイプライン強化を目指しています。 - アフラック（米国法人）は、米国の上級管理職の多様性を維持することにコミットしています。	- アフラック生命保険株式会社では、ライン長ポストに占める女性割合は30.1%になりました。* - アフラック（米国法人）の上級管理職のダイバーシティは47%になりました。

* アフラック生命保険株式会社におけるライン長ポストに占める女性の割合を対象としています。

トピック	ハイライト	2025年の進捗状況
フィランソロピー	がんや血液疾患との闘いは並大抵のことではありません。私たちは、がん保険のリーディングカンパニーとして、ご契約者が当社を最も必要とされるときに寄り添うように、がんと診断された子どもたちにも寄り添いたいと考えています。アフラック・インコーポレーテッドは、米国、日本および北アイルランドでがんや血液疾患と診断された3歳以上のすべての子どもたちの手にMy Special Aflac Duck®を届けることを目標に掲げ、子どもたちが治療に立ち向かうことを支援しています。2022年以降、鎌状赤血球症と闘う子どもたちにもこのプログラムを拡大しました。	✓ アフラックは、2025年までの間に、米国、日本および北アイルランドで、累計42,000人以上の子どもたちにMy Special Aflac Duck®を贈呈しました。 ✓ アフラックとその従業員、募集人は、がんや重い病気の治療期間中、アフラックペアレンツハウスを自宅のようにくつろいで宿泊できる場所としてご利用いただいた16万人以上の小児がんや難病と闘う子どもとそのご家族をサポートしています。
地域社会への投資	がん保険のリーディングカンパニーとして、アフラックは、がんの克服には研究が必要であると理解しています。	✓ アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターの支援のために1億9,500万ドル以上の寄付を集め、同センターを全米トップクラスの小児がんプログラム（出典：U.S. News and World Report誌）を提供する医療機関となることに貢献しました。
責任ある行動を促すためのポリシー	アフラックで働く者は、強い倫理観をもった企業文化を守るために、一人ひとりが重要な役割を担っています。このため当社では、各人がその役割を全うするための知識とツールを身につけられるよう、万全を期しています。	✓ 社員の入社時には必ず行動倫理憲章の研修を実施しています。また、契約社員やアフラック・インコーポレーテッドの取締役会を含め、世界のすべての社員に対し、同研修を毎年実施しています。適時にオンライン研修を受講しない場合、懲戒処分または解雇につながる可能性があります。2025年には、対象となる全社員が研修を受講しました。
データガバナンス	データ・セキュリティとプライバシーを確保します。	2025年のアフラック・グローバル・セキュリティの状況 ✓ グローバル危機管理計画を検証するために、サイバーインシデント対応のグローバルでの机上演習を完了しました。 ✓ 全社でプライバシー・セキュリティイベントを開催し、1万700人以上が参加しました。 ✓ より安全で強靱なコミュニティの育成を目指し、アフラックのオフィス周辺の地域社会を対象に実施しているサイバーセキュリティ意識向上プログラム「CyberInspire」を拡大させました。 ✓ さらに、アフラック（米国法人）ではSSAE 18 SOC 2 タイプ2レポート（米国アテステーション業務基準書第18号委託会社の内部統制報告書）の独立した外部ファームによる審査を年次で実施しています。

従業員の構成

- 2025年12月31日現在、アフラック（日本法人）の従業員の55%が女性であり、指導的立場にある人の34%を女性が占めています。アフラック生命保険株式会社では、ライン長ポストの30%を女性が占めました。
- 2025年12月31日現在、アフラック（米国法人）および米国で勤務する当社の従業員のうち、有色人種は47%、女性は65%を占めています。また、米国内では指導的立場にある人の51%、上級管理職の35%が、女性となっています。2025年の米国における新規採用者のうち、有色人種は55%、女性は68%を占めました。



アフラックの文化は、他者を思いやり、全従業員の帰属意識を育むことに根ざしています。

アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターは、全米最大規模の小児がん・小児血液疾患の研究・治療機関の一つです。

コミュニティ投資とフィランソロピー

- My Special Aflac Duck[®]は、子どもたちががんや鎌状赤血球症の治療に立ち向かうのを支援するために設計された、「スマートな」友だちロボットです。アフラックでは、米国、日本、北アイルランドでがんまたは血液疾患と診断された3歳以上のすべての子どもたちの手に、My Special Aflac Duckを届けることを目標としています。アフラックは2025年に4万2,000人を超える子どもたちにMy Special Aflac Duckを贈呈しました。
- アフラックとその従業員、募集人は以下に対する責任を担っています。
 - がんや重い病気の治療のために、自宅を離れ、アフラックペアレンツハウスを自宅のようにくつろいで宿泊できる場所としてご利用いただいた16万人以上の小児がんや難病と闘う子どもとそのご家族
 - アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターが、全米トップクラスの小児がんプログラムを提供（出典：U.S. News and World Report誌）する医療機関となるために役立てられた1億9,500万ドルの寄付による支援



4万2,000人以上
My Special Aflac Duckを受け取った子どもの数

16万人以上
アフラックペアレンツハウスを利用した小児患者の数

1億9,500万ドル以上
アフラックがん・血液病センターへの寄付金



ガバナンス

アフラック・インコーポレーテッドでは、誠実、透明性、信頼の原則に基づき、強力なガバナンス戦略を実行しています。このことは、お客様、株主、ビジネス・パートナーやサプライヤー、政府規制当局、そして従業員に対して、最高水準の倫理的行動で自らを律する責任を含んでいます。また、このコミットメントは、透明かつ責任あるコーポレートガバナンスのための堅固な枠組みを提供するもので、その枠組みは、企業組織のトップを起点にしています。

コーポレートガバナンスの枠組みを形成するのに役立つ規範、手順、方針、声明：

- [アフラックの行動倫理憲章](#)
- [アフラックの政治活動報告・政治行動委員会](#)
- [アフラックの方針・声明](#)

この文書には以下の内容が含まれています。

- 職場における労働安全衛生方針
- 責任投資方針
- 責任投資スチュワードシップおよびエンゲージメント方針
- 税に関する方針
- サイバーセキュリティに関する情報開示
- ダイバーシティと差別禁止に関する声明
- 人的資本管理に関する声明
- 人権に関する声明
- ネット・ゼロに関する声明
- サプライチェーンアプローチ

「アフラックのコーポレートガバナンスプログラムは、強固かつリスクに整合したものであり、また、当社のコアバリューに根差しています。その効果は、取締役会による強力な監督、実効性のある内部統制、プロアクティブなコンプライアンスの枠組み、そして正しいことを行うという考えが理解され、支持される企業文化に反映されています。」



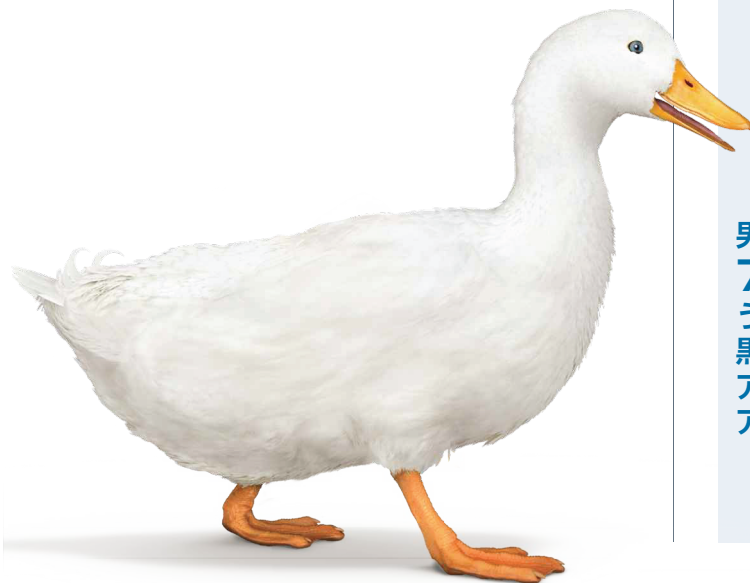
オードリー・ブーン・ティルマン

アフラック・インコーポレーテッド
シニア・エグゼクティブ・バイス・
プレジデント
最高法律顧問

取締役会による監督

アフラック・インコーポレーテッドの取締役会（以下「取締役会」）は、スキル、経験などにおいて多様なバックグラウンドを持つ11名のメンバーで構成されており、右表の委員会への参加を通じて、当社の戦略および意思決定を主導しています。これらの委員会は、従業員、お客様、投資家、地域社会にとって利益の最大化を図ることができるよう、中核的な価値創造経営の枠組みを提供しています。

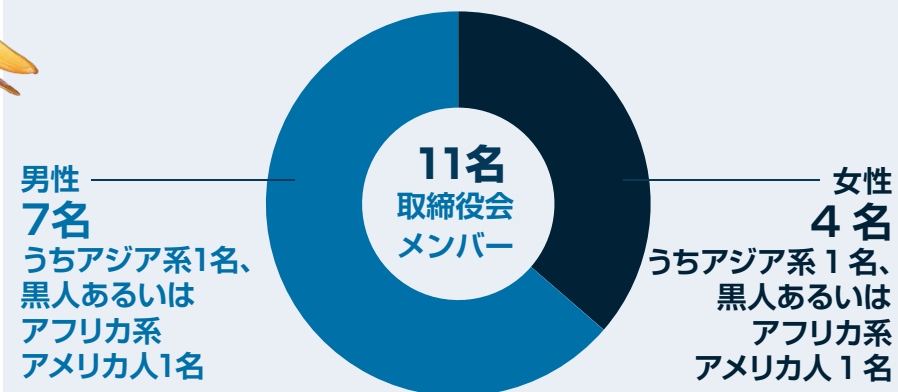
アフラック・インコーポレーテッドは、持株会社のシステムの中で、業務執行を適切に監督することを通じて、ステークホルダーの期待に応える強固なコーポレートガバナンス態勢を構築・維持しています。この枠組みを、アフラックの「グローバル・グループガバナンス」と呼んでいます。アフラック・インコーポレーテッドの各国の直接・間接子会社は、グローバル・グループガバナンスに基づき、お客様にとって価値ある商品・サービスの提供を続け、またその信頼を得るために、経営の健全性を維持しながら事業を運営しています。アフラックのグローバル・グループガバナンスの枠組みのもとで、適用される法域（米国および日本を含むが、これらに限定されない）の法令に基づき、アフラック・インコーポレーテッドの直接・間接子会社に対する適切な監督と、子会社間の有機的な協力が確実に遂行されています。



アフラック・インコーポレーテッドの取締役会および委員会体制



取締役会の構成



平均年齢
66歳

平均在職年数
全取締役
10年

独立取締役の割合
91%

独立取締役
7年

当社取締役会と各委員会は、サステナビリティを含む、当社が直面するさまざまなリスクと機会の監督という点で重要な役割を担っています。特にサステナビリティに関しては、責任ある倫理的行動やコーポレートガバナンス態勢、CSRとサステナビリティに関する目的やリスク管理方針を特定、推進、モニタリングする役割を果たしています。当社取締役会のCSR・サステナビリティ委員会は、独立取締役で構成され、少なくとも年2回開催されています。CSR・サステナビリティ委員会のメンバーは、CSRとサステナビリティに関して、当社の方針、手続き、およびその実践を監督しており、具体的には、以下の活動を行っています。

- CSRとサステナビリティの取り組み、環境への影響（エネルギー使用、リサイクル、CO₂の排出を含む）、安全衛生に関する事項、職場のダイバーシティと機会均等の取り組み、ならびに慈善活動のモニタリングとレビュー
- 目標達成に向けた活動と成果に対するモニタリング
- 当社の環境スチュワードシップ方針の目標・目的の見直し
- 年次のビジネス&サステナビリティレポートの作成の監督と内容のレビュー
- 組織戦略、行動計画、経営方針と気候関連リスクの統合に対する監督
- 環境やコミュニティに対する当社の影響を特定し、管理するプロセスの監督

CSR・サステナビリティ委員会は、以下の委員会と連携して取り組みを推進しています。(a) 財務・投資委員会とは、サステナビリティボンドやその他の社会・サステナビリティ志向の債券発行と資金用途に関するCSR・サステナビリティ要因の指針ならびに投資プロセスの監督について連携しています。(b) 報酬委員会とは、CSR・サステナビリティ要因を役員報酬プログラムに組み入れることに関して連携しています。(c) コーポレートガバナンス委員会とは、後継者計画および経営人財の育成に関する当社の方針と原則に関して連携しています。

また、監査・リスク委員会は、サステナビリティに関するリスクと機会の両面を含む、企業リスクへの取り組みと管理に関する当社の方針、プロセスおよび態勢を監督しています。CSR・サステナビリティ委員会を通じて、サステナビリティ関連リスクは、その目標やゴールに対する進捗のモニタリング方法を含めて、組織戦略、行動計画、経営方針および業績目標と統合されています。CSR・サステナビリティ委員会では、経営陣と定期的に会合を持ち、当社が環境に与える直接的な影響を検討するとともに、廃棄物削減や省エネルギーなどの分野で、当社がCO₂削減努力を継続することを確認しています。



統合的リスク管理

アフラックは、グローバル・リスク・マネジメント（GRM）の枠組みのもと、当社固有の目的に基づいてリスクを測定・管理するための体系的なアプローチを実践しています。アフラックは「3つのライン」による内部統制モデルを採用しており、役割と責任、およびさまざまな事業と検証機能の関係を定義することによって、リスク管理と内部統制のさらなる強化を図っています。アフラックの経営陣は、情報の共有や各役割間の活動の連携に関する期待事項を周知しています。3つの防衛線モデルにおいては、まず事業部門が第一ラインとしてリスクオーナーとなり、その管理を行います。第二ラインはガバナンス、リスクおよびコントロール機能からなり、リスク方針の策定とリスク管理プロセスの監督を担います。第三ラインは内部監査部門であり、リスク管理の枠組みの有効性を検証し、評価します。3つのラインはすべて相互に連携して、組織全体のリスクを管理します。

リスク管理プロセス

ERM 部門は、第二、第三ライン（各地域のリスク管理部門やコンプライアンス部門、内部監査部門など）と連携して、年次のグローバルリスク評価を実施しています。経営陣や主なリスクオーナーと協力しながら、重要リスクやエマージング・リスクの新規発生および変化を特定し、それらが当社に与え得る影響を把握しています。サステナビリティリスクを含む当社のトップリスクは、適宜、経営レベルの委員会および取締役会に報告されます。アフラックのグローバル ERM 機能は、トレッドウェイ委員会支援組織委員会（COSO）の ERM フレームワークに則って構築されています。

当社は、この年次リスク評価を通じて、リスク評価手法を用いて特定されたリスクの影響度と発生可能性を考慮し、すべてのリスクの重要性を評価しています。アフラック・インコーポレーテッドの利益、ソルベンシーおよびブランドを確実に守るために、非常に重要なリスクはこのプロセスを通じて取締役会に報告され、適切な助言と指示を受けます。

このプロセスでは、事業部門の責任者へのインタビューが行われ、事業部門内外におけるリスクの検証が求められます。その目的は、特定されたリスクが、組織目標に影響を与えるかどうかを理解することにあります。リスクを特定した後、リスク管理の適切性を評価し、残余リスクを判断します。

年次および四半期ごとのリスク評価や株主その他のステークホルダーとの対話から得られた情報は、当社のリスク・統制環境に活用されます。さらに、業界動向、サステナビリティフレームワーク、および法令・規則・規制を踏まえ、全社的なリスク管理アプローチを構築しています。

取締役会による気候関連のリスクと機会の監督に関する詳細については、最新の [TCFD レポート](#) をご覧ください。



倫理とコンプライアンス

アフラックは、尊敬に値する倫理的な企業として高い評価を得ており、このことは、当社の事業目標や中核的な使命に不可欠なものです。私たちは、当社と共に働くすべての人に対して倫理的な行動を期待しており、それがお客様やステークホルダーとの信頼関係の基盤を成すと考えています。こうした期待は、アフラックの共同創業者が 70 年前に当社を築き上げた価値観である「The Aflac Way」の「チームワーク、敬意、公正、正直、誠実、責任」に根ざしています。

当社の「**行動倫理憲章**」は、これらの価値観をどのように受け止め、日々の業務に活かしていくかを示しています。当社の「行動倫理憲章」は、当社が事業を展開している主要国である日本および米国の公用語に翻訳されており、以下の内容が含まれています。

- 秘密厳守の倫理ヘルプライン
- 報復禁止ポリシー
- 差別とハラスメントに関するポリシー
- 利益相反に関するポリシー
- ヘッジ禁止ポリシー
- 独占禁止法（および競争法）に係るポリシー
- 連邦海外腐敗行為防止法、ボイコット禁止法、およびその他の適用される規制を含むがこれらに限定されない腐敗防止法の遵守

アフラックは The Aflac Way に基づき、従業員に対して尊敬と配慮をもって接するとともに、オープンなコミュニケーションラインと「声を上げる」文化を推奨しています。米国では、「セーフ・トゥ・セイ」プログラムを導入し、従業員に対し、さまざまな懸念事項を報告する方法を提供しています。例えば、包括的で機密性を担保した通報システムの EthicsPoint は、24 時間 365 日、フリーダイヤルとオンラインで内部告発やその他の倫理上の懸念に対応しています。私たちは当社の強固な倫理基盤の重要性について日頃から話し合い、従業員の誰もが声を上げ、その声が聞き入れられることを促す「セーフ・トゥ・セイ」の理念の理解・浸透を深めています。

報告方法には、電話によるアフラックヘルプライン (844.246.4371)、ウェブ受付 (www.aflac.ethicspoint.com)、手紙（住所：1932 Wynnton Road, Columbus, Georgia 31999-0001）があります。従業員は、上司または部門長、人事部、法務部を通じて報告することもできます。

当社は、報告が迅速に検討され、必要に応じて是正措置を講じることを保証するプロセスを維持しており、これには解雇（適切な場合）が含まれます。2025 年、当社の違反審査プロセスにおいて、腐敗防止法違反は確認されませんでした。

アフラックのグローバル・チーフ・エシックス・コンプライアンス・オフィサーを務める法律顧問は、問題が公正、一貫性、透明性をもって処理されるよう、調査を監督しています。さらに、取締役会の監査・リスク委員会は、必要に応じて、調査プロセス、コンプライアンスの動向や案件を監督します。

当社は、誠意をもって報告を行った者、法律、当社の行動倫理憲章、またはその他の会社方針や手順に対する違反の疑いの特定を支援した者、または内部調査に参加した者に対する報復を容認しません。私たちは報復を防ぐために積極的な措置を講じています。

倫理・コンプライアンス研修は、職場での適切な行動を促し、従業員への具体的な期待を設定し、当社のコミットメントを示す機会であるほか、一般的にはあまり知られていない諸原則を従業員に伝える上で不可欠だと認識しています。リーダーや従業員に適切なトレーニングを提供することは、当社の倫理・コンプライアンス・プログラムの有効性を長期にわたって高めていくためには重要な要素です。アフラックの全従業員は、会社としての強い倫理観を維持する重要な役割を担っており、その役割を果たせるよう、一人ひとりが必要な知識とツールを確実に身につけられるようサポートしています。行動倫理憲章に関する研修は、世界中のすべての新入社員および従業員に加え、契約社員や取締役会にも毎年受講が義務付けられています。適時にオンライン研修を完了しない場合、懲戒処分や解雇の対象となる可能性があります。行動倫理憲章は、当社に雇用されるすべての者に適用され、最高経営責任者と上級財務役員には、特別なセクションも設けられています。啓発と研修を通じて強固な倫理基盤の確立を図ると同時に、

倫理・コンプライアンス・プログラムが実際に効果的に運用されるよう努めなければなりません。当社は、倫理・文化に関する定期的な調査を実施するなど、プログラムの健全性を評価するためのツールを多数使用しています。当社の倫理・コンプライアンス原則に対する従業員の意識に関する無記名アンケートからは、貴重な情報が収集されています。この調査を通じて、アフラックの上層部が見せる非常に強い倫理的姿勢は組織全体にまで波及していることが確認されています。また、従業員は、正しい行いが奨励されていることを感じつつ、情報入手の場や、また報復の恐れなく懸念事項を告発できる場についても知っている、ということが報告されています。

当社では、サプライヤーに対しても、当社の高いレベルの倫理基準を遵守するよう求めています。当社は、最大限の誠実さ、公正さ、そして敬意をもった行動に専心しているサプライヤーと取引を行っています。さらに、アフラックは、当社のリスク評価に基づき、規制要件に沿って継続的なデューデリジェンスを実施しています。アフラックは、必要に応じてサプライヤーの遵守状況を監査する権利を留保します。これには、施設の視察、従業員との面談、文書の要求などが含まれます。サプライヤー行動憲章では、アフラックのサプライヤーが労働法規を遵守し、公正な賃金を支払い、強制労働、児童労働、差別を行わないことを期待することで、サプライベースにおける労働者の権利を促進しています。アフラックのサプライヤーは従業員が報復や処罰の脅威なしに違反を報告できるようにしなければなりません。サプライヤーに関するその他の情報については、当社の[方針・声明](#)のサプライチェーンアプローチをご覧ください。

報告

証券取引委員会の規制に従い、アフラックは事業に伴う通常の訴訟以外のすべての重要な法的手続きの内容を、[年次報告書\(フォーム 10-K\)](#) および [四半期報告書\(フォーム 10-Q\)](#) において開示しています。

サイバーセキュリティによる お客様とデータの保護

サイバーセキュリティガバナンス

情報保護の取り組みに関してはアフラックの上層部がコミットしています。当社の取締役会は、アフラックのグローバル情報セキュリティプログラムを監督し、プログラムおよびグローバル情報セキュリティポリシーを毎年見直し、承認します。このプログラムの責任は、グローバル・チーフ・エシックス・アンド・コンプライアンス・オフィサーに対して説明責任を負うグローバル・チーフ・インフォメーション・セキュリティ・オフィサー (CISO) にあります。グローバルCISOは、取締役会の監査・リスク委員会において四半期ごとに、また取締役会には年3回、プログラムの進捗状況について報告します。これには、適用法規制の遵守、既存の脅威と進化を続ける脅威の動向、セキュリティプログラムの継続的な強化状況、プログラム戦略の最新の状況が含まれますが、これらに限定されません。さらに、取締役会メンバーには、情報セキュリティに関する意識向上のための研修を毎年実施します。

グローバル CISO は、本プログラムを監督するために、グローバルセキュリティの代表としてガバナンス委員会へ参加し、また自身で委員会を持つこともあります。

これらの委員会は、情報と資産の機密性、完全性、可用性、説明責任、レジリエンシーの保護に対処する情報セキュリティプログラムに必要な機能を代表する役員で構成されます。

グローバル CISO はリスク管理とセキュリティ、プライバシーの熟練した専門家チームによってサポートされ、グローバル情報セキュリティプログラムの開発や実装、運用、保守、継続的な改善を担当します。熟練したサイバーセキュリティ要員を維持するために期待されるトレーニングは、グローバルレベルで文書化され、年次トレーニングの要件が記載されています。アフラックには、米国国立標準技術研究所のサイバーセキュリティフレームワーク (NIST CSF) などの主要な枠組みを参考に構築された、情報やサイバーセキュリティに関する強固なポリシーや基準があります。ポリシーや基準は、毎年、または改定を要する大きな環境変化があった場合に、組織全体がサイバーセキュリティやプライバシーに関する各種規制変更への対応や、技術や業界のリーディングプラクティスの大きな変化を踏まえた対応を実施しているかどうかを確認するレビューを行った上で承認されます。



サイバーセキュリティ リスク管理

アフラックでは強固なサイバーセキュリティリスク管理プログラムを導入しており、データ使用や第三者との情報の共有、重要なアプリケーションやインフラのシステム設定を対象に、それらに伴う情報セキュリティとプライバシーリスクの初期評価と継続的なモニタリングを行っています。初期評価と、リスクを低減するコントロールの評価を通じて、最終的なリスクレーティングが決定されます。特定されたリスクをエスカレーションするコンプライアンスプロセスが整備され、リスク対応の透明性と適切な説明責任の確保が図られています。再評価の頻度は、リスク評価プロセスに沿って決定されます。

また、ビジネスリスクの特定を直接事業部門が行うために、レジリエンスプロセスも確立されています。また、運用上のレジリエンシーをサポートするために、ビジネスプロセスの優先順位を影響評価という形で把握し、BCP（事業継続計画）を策定することで、業務に支障をきたすような事態に適切な対応を行います。影響評価と BCP は、少なくとも毎年更新されます。

人工知能（AI）

アフラックは、生産性の向上、イノベーションの加速、およびお客様体験の改善のために AI の力を活用することに取り組んでおり、これは当社のグローバル AI ガバナンスポリシーに整合し、安全で責任ある利用を優先しています。AI に関するリスクとガバナンスの監督は、全社的な AI リスク管理の実践を監督する、グローバル・セキュリティ・アンド・レジリエンシー委員会（GSRC）が主導しています。法務、コンプライアンス、情報セキュリティ、IT、アクチュアリー、統合的リスク管理（ERM）、人事、戦略的調達を担う各部署と事業部門のリーダーで構成される、現地の AI リスク委員会が、実装に先立つ AI ユースケースのレビューと承認の責任を負っています。アフラックの AI ガバナンスプログラムは、AI システムのライフサイクルの各段階に対応する基本理念、リスク管理手法、および標準化された統制を定めています。

サイバーセキュリティ コンプライアンス

アフラックには、セキュリティおよびプライバシーのポリシーと基準に照らしてビジネス慣行とテクノロジーを評価するためのプロセスがあります。[アフラック・プライバシー・センター](#)では、当社の個人情報の収集、利用、共有方法について公開しており、該当に応じて、個人が個人情報を保護し、プライバシー権を行使する方法を知ることができます。当社のサイバー保証プログラムは、コントロールオーナーによる、コントロールの有効性への誓約を定期的に監督しています。それらのコントロールは、NIST CSF に対応するライブラリで構成・維持されています。さらに、アフラック（米国法人）では、個人任意保険、団体任意保険、生命・休業・就業不能保険について、SSAE 18 SOC 2 タイプ 2 レポート（米国アテステーション業務基準書第 18 号委託会社の内部統制報告書）の独立した外部ファームによる審査を年次で実施しています。審査には、加入、契約管理、保険金支払に際してのセキュリティと機密性に関する管理プロセスも含まれます。

サイバーセキュリティとプライバシーの領域では、法・規制活動の焦点が常に進化し続けています。

セキュリティ 運用

アフラックには、規制要件や業界のリーディングプラクティスとの整合性を確保するためのシステムとコントロールが存在していますが、ビジネスの変化に対応した、より成熟したセキュリティ体制の構築に向けて継続的に取り組んでいます。当社が実装している階層化された防御システムには、ID およびアクセス管理システム、役割に基づくアクセス管理、多要素認証、暗号鍵や証明書を管理する仕組み、ファイアウォール、クラウド、ネットワーク、エンドポイントのセキュリティツール、ゼロトラストアーキテクチャ原則などが含まれており、情報の保護と可用性の確保に努めています。また、定期的にアクセスレビューを実施し、その記録は維持され、検査されます。アフラックはまた、侵入検知、防止、およびデータ保護ツールを活用して、機密性の高い情報と資産を保護します。プログラム全体で、内部・外部の異常を検知して対応する能力をサポートするために、継続的なモニタリングを実施しています。脆弱性スキャンおよびパッチ管理プロセスがあり、主要リスク指標を隔月で各国のマネジメントに提供しています。また、四半期ごとに対応状況に関する詳細なダッシュボードがビジネスリードに提示されています。

私たちのチームは、金融サービスや保険業界の他社、ならびに地方、連邦の法執行機関との協力を含む複数の脅威に関する機密情報を共有するコンソーシアムに積極的に参加しています。また、チームは重要な環境の変化を捉えるため、オープンソース・インテリジェンスのフォーラムやグループの一員として活動しています。

レジリエンシーと対応

アフラックのオールハザードビジネスレジリエンスプログラムは、先進的な事例と ISO22301 などの業界標準を踏まえています。このプログラムでは、組織における重大な事態を管理するために、コントロールと対策を実施します。これは、アフラックの従業員やお客様、株主、ビジネスパートナー、情報、資産、事業が、想定外の事業中断の際にも適切に保護されることを目的とした全社的なプログラムです。統合的な事業継続や災害復旧、生命の安全確保、インシデント管理、危機管理を通じて、レジリエンスが達成されます。さらに、アフラックはグローバル・サイバー保険に加入しています。

2025 年、アフラックは、外部機関が進行役を務め、グローバルな役員を含め部門横断的な参加者が参加した、年次のサイバーインシデントの机上演習を成功裏に実施しました。この演習では、グローバルなサイバー事案への対応をテストすることに成功しました。

当社のインシデント対応チームには、包括的なインシデント対応フレームワークを実行する、技術力のあるセキュリティやフォレンジックの専門家を揃えています。このインシデント対応フレームワークは整合的な手順、タスクから構成されており、セキュリティやプライバシーのインシデントをタイムリーかつ正確な解決に導きます。アフラックは、法的要求にしたがい、万が一個人情報漏洩した場合には調査の上、本人と当局に通知するプロセスを整備しています。

2025 年 6 月、アフラックの米国事業において、一部システムに影響が及ぶセキュリティインシデントが発生しました。当社は直ちに第三者のサイバーセキュリティエキスパートを起用し、数時間以内にインシデントを収束させるとともに、影響を受けた可能性のあるファイルについて包括的なレビューを実施しました。可能な限り迅速なデータ調査の完了に向け尽力する一方で、お客様へのサポートを最優先し、調査結果を待たずに専用コールセンターを設置するとともに、お問い合わせいただいたすべての方を対象に、クレジットモニタリングや ID 監視サービスを提供するなど、サポート支援体制を迅速に構築しました。レビュー完了後、適用法に従って影響を受けた可能性のある個人および関係する規制当局に通知を行いました。当社は引き続きプライバシー

と情報セキュリティを重要視し、変化するサイバーセキュリティ脅威環境への対応に注力しています。

セキュリティ意識向上とトレーニング

アフラックのサイバーセキュリティ意識向上トレーニングプログラムは、従業員や委託先、募集人が情報やサイバーセキュリティ、プライバシーの重要性を認識し、適切に対応できるように設計されています。このプログラムでは、サイバーセキュリティリスクの防止、特定、報告、上部組織への報告に必要な知識とスキルを全員に提供しています。毎年、当社のシステムやデータにアクセスできる従業員や委託先、募集人には、セキュリティやプライバシーに関して、特権ユーザーおよび開発者の役割に応じた追加トレーニングを含む、必須トレーニングの受講を義務付けています。これに加え、累計 170,000 時間以上の必須および補足的なセキュリティとプライバシーに関するトレーニングを、組織の全員が完了しました。

アフラックのセキュリティ運用チームと脅威インテリジェンスチームは、セキュリティ意識向上プログラムにおいて緊密に連携しながら、実際に見られる脅威に対応したフィッシング訓練メールを年間を通してユーザーに対して送信しています。訓練結果は指標によりモニタリングされており、フィッシングの感染しやすさに関するリスクがリアルタイムで可視化されています。訓練で不合格となった者には追加のトレーニングが義務付けられています。

2025 年、アフラックのフィッシングメール演習の成績は同業他社の水準をはるかに上回り、従業員と委託先の合格率は 99%を超えました。

アフラックのセキュリティ意識向上のアプローチでは、セキュリティとプライバシーを、トレーニングにとどまらず、企業文化および地域社会の中核として根付かせるよう努めています。アフラックでは、経営陣の強力なサポートのもと、83 人のサイバーセキュリティアンバサダーと 85 人のプライバシーリエゾンを配置し、セキュリティおよびプライバシーの意識向上やエンゲージメント強化を推進しています。

2025 年には、サイバーセキュリティとプライバシーに関する無数のトピックを網羅した 150 以上のダイレクトコミュニケーション、ポータルストーリー、コンテスト、パネル、教育イベントを開催しました。イベントはプライバシー意識向上週間と全米サイバーセキュリティ意識向上週間に焦点を当て、年間を通じて 10,700 人超の参加者を集めました。

アフラック・グローバル・セキュリティは、アフラックの事業所周辺の地域社会に焦点を当てた、受賞歴のあるサイバーセキュリティ意識向上支援プログラム「CyberInspire」を立ち上げました。「CyberInspire」の使命は、すべてのメンバーがサイバーの脅威から自分自身と他者を守るための知識と理解を備えた、より安全で強靱なコミュニティを育むことです。そこでは、若いメンバーが次世代の「サイバーディフェンダー」としてインスピレーションを受けることが促進されます。2025 年、「CyberInspire」は 20 を超えるイベントを開催し、5,900 人以上の参加者を集めました。



アフラックのサイバーセキュリティ意識向上トレーニングプログラムは、従業員や委託先、募集人が情報セキュリティやサイバーセキュリティ、およびプライバシーの重要性を認識し、適切に対応できるよう設計されています。

政治活動報告

アフラックは、長きにわたり民主化のプロセスに参加してきました。連邦政府および州政府の規制を受ける企業として、ご契約者へのアフラックの約束を守るために、選挙で選ばれた議員との関わりは重要です。

[政治活動報告について、詳しくはこちらをご覧ください。](#)

「当社は活動およびその実施方法において透明性の確保を意識しています。アフラックは倫理的で透明性の高いプロセスを採用し、そうしたプロセスを非常に重視しており、ガバナンスはそのための重要なフレームワークです。」



ブラッド・ノックス
アフラック・インコーポレーテッド
シニア・バイス・プレジデント
フェデラル・コーポレート・アフェアーズ・
アンド・パブリック・ポリシー



資産運用

アフラック・グローバル・インベストメンツ（以下、「グローバル・インベストメンツ」または「GI」）は、ニューヨークおよび東京を拠点とし、アフラック・インコーポレーテッドの資産運用子会社で構成され、日本、米国、バミューダのアフラックの保険子会社が保有する総額950億ドルの資産運用を担当しています。このチームは、戦略的アセット・アロケーションという投資基盤に基づき、資本の保全と調和した長期的リターンの最大化を追求することで、当社の長期的な成功に貢献しています。これにより、質の高い分散されたポートフォリオの構築に重点を置いた資産、負債、資本の管理アプローチを実行しています。

投資チームは、資産クラスごとに編成され、ソブリン債、社債、地方債、インフラストラクチャー債、ミドルマーケットローン、プライベート・クレジット、プライベート・エクイティ、不動産投資などの専門知識を持つポートフォリオマネージャーが率いています。また、社外の資産運用会社のプラットフォーム機能を活用して、当社のリターンの目標とポートフォリオ管理基準を満たす専門的な戦略特化の第三者の運用マネージャーの発掘を行っています。当社のチームはグローバルな資本市場で存在感を示しており、当社のステークホルダーに対する義務を果たすために、日本円と米ドルの両方の通貨で投資を行っています。

デリバティブの専門家を擁する当社のグローバルチームは、世界の金利および外貨に対するエクスポージャーを管理するための戦略を策定し、実行しています。

グローバル・インベストメンツは、魅力的なリスク調整後収益をもたらすと同時に、環境の持続可能性向上に貢献し、社会的利益を生み出すことを目指しています。アフラック・インコーポレーテッドの事業に責任投資の要素を取り入れることは、30年以上にわたって当社の事業において重要なことであり、グローバル・インベストメンツの中核的な投資哲学にも及んでいます。これは、アフラックのステークホルダーに経済的・社会的にプラスの影響を与えながら、投資案件のサステナビリティやリスク・リターンプロファイルに関してより良い意思決定につながると考えています。

2021年、アフラック・インコーポレーテッドは、環境、社会、ガバナンスへの配慮を投資および保有の意思決定に取り入れるための枠組みである責任投資原則（PRI）に署名しました。PRI署名企業としては、投資プロセスにこれらの配慮を取り入れるというコミットメントを強化しています。

「私たちは、アフラックのご契約者をはじめとするステークホルダーと、ステークホルダーが重要視する持続可能な利益を守りながら、競争力のあるリスク調整後収益を生み出すために、フィデューシャリー・デューティーを優先し、変わることなくこれを重要視しています。そのために、2025年は9億5,000万ドルを超える資金をサステナブル投資とコミットメントに配分しました。これは、財務上の利益とともにサステナビリティに関する要素を継続的に考慮する姿勢を明らかにするものです。」



ブラッド・ディスリン
アフラック・インコーポレーテッド
エグゼクティブ・バイス・プレジデント
グローバル最高投資責任者
アフラック・グローバル・
インベストメンツ社長

自社運用資産については、投資の持続可能性を評価するプロセスを従来のファンダメンタルズ信用分析と統合しています。外部運用資産については、責任投資への配慮が投資プロセスにどのように組み込まれているかのレビューを含む年次モニタリングを実施しています。

私たちの 2025 年の取り組みは、社会と環境に直接的なプラスの影響を与える一助となっていると確信しています。2025 年 12 月 31 日現在、環境および社会に影響を与えるサステナブル投資およびコミットメントは、2025 年に追加された 9 億 5,000 万ドル超を含め、総額 60 億ドルを超えています。

環境および社会に影響を与えるサステナブル投資やコミットメントの例としては、次のようなカテゴリが含まれます。

- 再生可能エネルギー：アフラック（日本法人）による日本の太陽光発電の普及を目的とした投資など、再生可能エネルギーへの取り組みの拡大を支援する公募債および私募債、インフラストラクチャー債、グリーン・ビルディングへの投資
- 手頃な価格の住宅：低所得者層、十分な支援を受けられない、または経済的に困難な地域における不動産への融資に重点を置いた商業用不動産投資
- 手頃な価格の住宅、教育、病院、交通機関、水道施設への資金提供および同様の投資を通じて、米国、日本およびその他の市場で地域コミュニティを支援する地方債およびその他の債券
- グリーンボンド、サステナブルボンド、またはソーシャルボンドに該当する公募および私募市場で発行された債券
- 低炭素経済への移行、経済的エンパワーメントを直接もしくは間接的に支援する投資目的を有するプライベート・エクイティおよび不動産エクイティ・ファンドへの投資

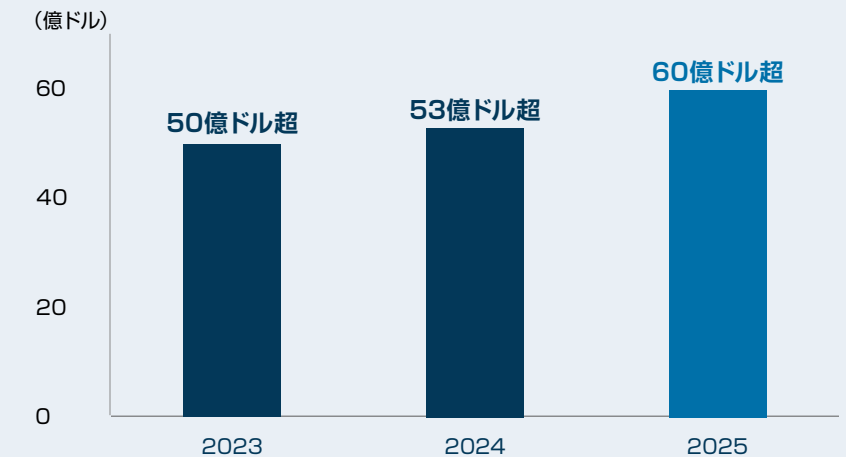


■ アフラック・インコーポレーテッドおよびアフラック（米国法人）社長のヴァージル・ミラーとともにニューヨーク証券取引所の前に並んだグローバル投資チーム。

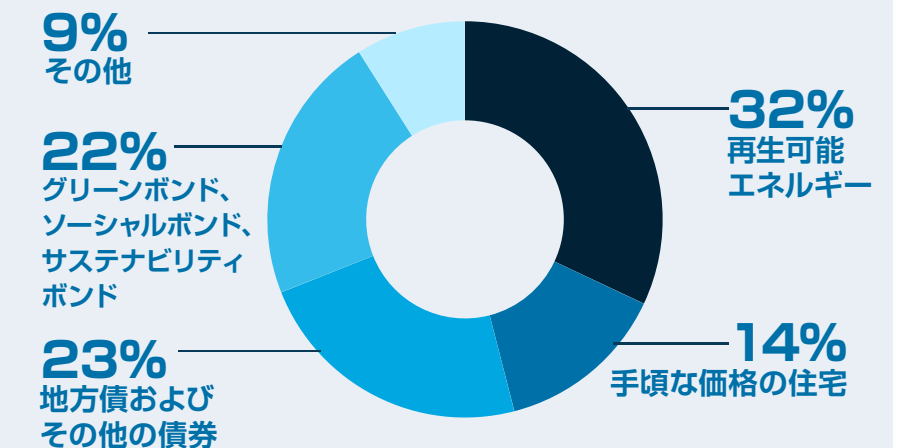
60億ドル超

をサステナブル投資およびコミットメントに配分
(2025年12月31日時点)

サステナブル投資およびコミットメントの年次推移



サステナブル投資およびコミットメントのカテゴリ



サステナブル投資ポートフォリオは、サステナブル投資チームが監督しています。CSR・サステナビリティ委員会およびグローバルファイナンス委員会が、企業の社会的責任、サステナビリティの目標および実行を監督・管理しています。

気候変動が当社のステークホルダーに影響を及ぼす可能性があることから、グローバル・インベストメンツは気候変動に伴うリスクと機会の評価およびモニタリングに力を注いでいます。投資に係る温室効果ガス排出量の算出方法は、PCAF (Partnership for Carbon Accounting Financials) 基準に準拠しており、サステナビリティの慣行、基準、資産クラスのカバレッジおよびデータ品質の向上に応じて、継続的に改善を行っています。

2025 年を通じて、当社の投資ポートフォリオは、固定および変動金利ポートフォリオの利回り改善により投資収益（純額）が増加し、好調なパフォーマンスを示しました。戦術的アセット・アロケーションの決定に加え、当社のオルタナティブ投資ポートフォリオからの変動投資収益（純額）も大きく寄与しました。



お揃いの黒のアフラック（日本法人）創業記念ダウンジャケットを着た、東京オフィスのグローバル・インベストメンツチーム。

アフラックのサステナビリティボンド

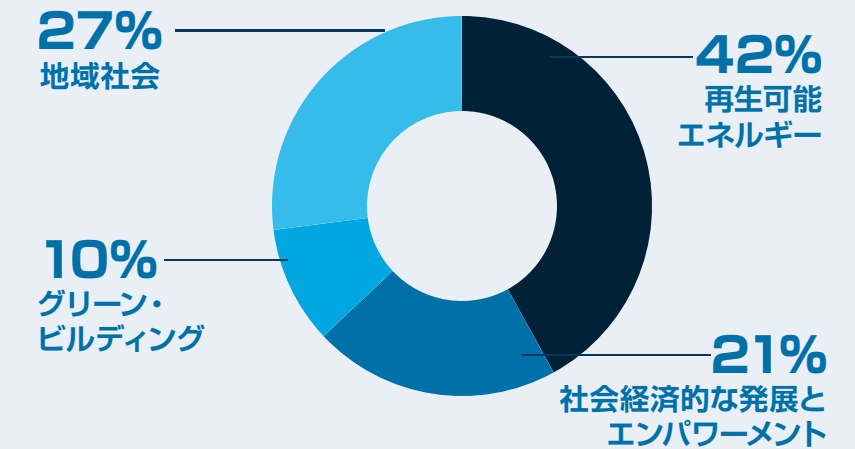
アフラックは 2021 年 3 月にサステナビリティボンドを発行しました。3 億 9,700 万ドルの調達資金（純額）は、再生可能エネルギー、グリーン・ビルディング、社会経済的発展・エンパワメント、および地域社会といった 4 つの適格カテゴリに全額が配分されました。

調達資金は 2022 年に全額配分され、以下の持続可能な開発目標（SDGs）に沿って投資されています。サステナビリティボンドの満期は 2026 年 3 月 15 日です。

資金配分された持続可能な開発目標



調達資金（純額）^{*1}の適格カテゴリ別の使途（累積ベース）



適格資産カテゴリ別の配分

対象カテゴリ	配分された金額 ^{*2} (百万ドル)
再生可能エネルギー	167
グリーン・ビルディング	41
社会経済的な発展とエンパワメント	83
地域社会	106
配分額合計	397

^{*1} 調達資金（純額）は、**アフラックサステナビリティボンドの枠組み**に基づき、サステナビリティボンドによる資金調達額から債券発行費用を差し引いた金額です。

^{*2} 2025年12月31日現在の配分額。「配分」は、現金による投資の実行、または投資対象先に対する法的拘束力のあるコミットメントの供与と定義されています。

環境

アフラック・インコーポレーテッドは、環境のため、そして私たちが必要としている人々の健康と幸福のために力を尽くしています。そのため、効果的かつ効率的な事業運営と責任ある環境保全のバランスを取るよう努めています。当社は、気候変動の緩和、天然資源の保護、温室効果ガスの排出量削減のために、自らの役割を果たし、当社の事業と投資の長期的な価値を確保し、私たちが住む世界を保護することに努めています。

アフラック SmartGreen

当社の経営陣と取締役会の CSR・サステナビリティ委員会は、すべての気候変動問題の取り組みを監督し、当社の SmartGreen[®] 理念を支援しています。その取り組みは、温室効果ガスの排出量を削減し、資源の効率的な利用方法を確保し、従業員が自然環境の良き管理者となるための革新的な手法を全社的に導入することに重点を置いています。

アフラック SmartGreen 理念：当社は、日々利用する資源を適切に選択、使用、処分し、これらの取り組みを以下の 5 つのカテゴリにおいて徹底して実践します。

- 事業活動
- ファシリティマネジメント
- 従業員のエンゲージメント
- 廃棄物の管理
- 戦略的な調達・購買

アフラック（日本法人）は、「アフラック SmartGreen」の考え方に基づき、2019年に「環境経営宣言」を制定しました。

また、企業活動を通じて戦略的かつ体系的な「環境経営」をさらに推進するため、「気候変動への対応」、「持続可能な資源利用」、「ステークホルダーエンゲージメント」の 3 つの重点テーマのもとで目標を設定しています。

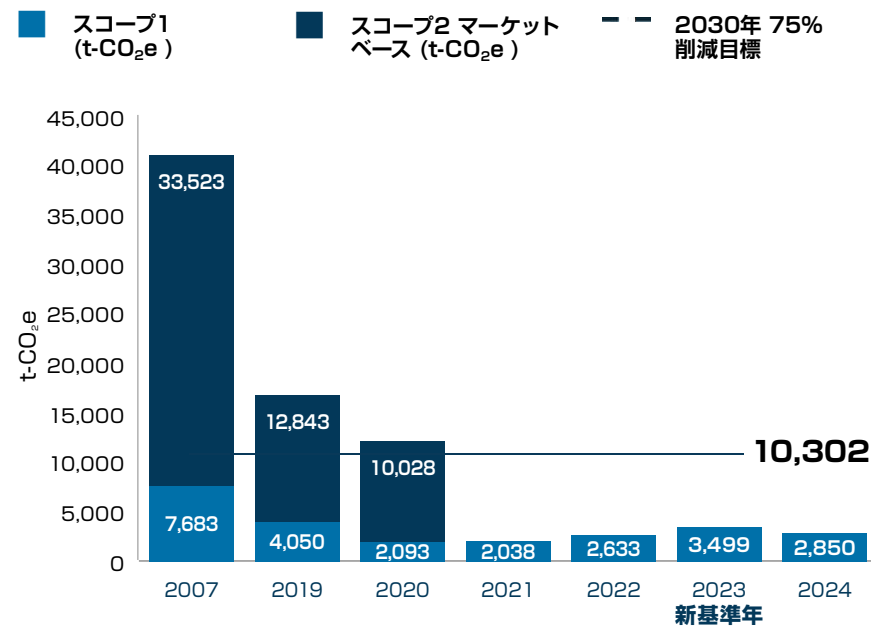
環境経営宣言

- 事業活動における環境配慮行動
- 環境関連法規の遵守
- 環境啓発活動の推進と社会に対する貢献
- 継続的な環境改善の推進

温室効果ガス削減と カーボン・ニュートラルの進捗

アフラック・インコーポレーテッドは、2023 年から 2024 年にかけてスコープ 1 および 2 のマーケットベースの温室効果ガス排出量を 18% 以上削減しました。2024 年は、ジェット機の運用効率の改善によりスコープ 1 の排出量を削減しました。当社は、温室効果ガス排出量の削減と経済性が両立する選択肢を採りながら、取り組みを推進しています。当社は、スコープ 1、2、およびスコープ 3 (カテゴリ 1 から 8) の後の排出量比較において、2023 年が適切なベンチマークであると考えています。

アフラック・インコーポレーテッド排出量



2030 年の目標には、アフラック（米国法人）およびアフラック（日本法人）のスコープ 1 排出量の 100%、アフラック（米国法人）およびアフラック（日本法人）のスコープ 2 排出量（マーケットベース）の 100%が含まれます。2007 年のスコープ 1 およびスコープ 2 の総排出量（マーケットベース）は 41,206 t-CO₂e、2022 年のスコープ 1 およびスコープ 2 の総排出量（マーケットベース）は 2,633t-CO₂eでした。これは基準年の排出量から 93.1%の削減となります。

省エネルギーの取り組みとして、エネルギー効率の高い照明、暖房、換気、空調の導入や、その他の排出量削減の取り組みへの投資を継続しています。当社は、再生可能エネルギー使用へのコミットメントを継続しています。再生可能エネルギー・クレジット(REC)の購入により、スコープ 2(マーケットベース) の排出量を削減しました^{*1}。また、カーボン・オフセットを購入し、スコープ 1 の排出量を相殺しました。これらの取り組みの結果、当社は 2024 年 12 月 31 日終了の会計年度において、適用されたカーボン・オフセットと REC を含め、スコープ 1 およびスコープ 2 (マーケットベース) の温室効果ガス排出量に関してカーボン・ニュートラルを達成しました。アフラックは 2020 年以降、スコープ 1・2 の排出量についてカーボン・ニュートラルを維持しており、経済性と両立する選択肢を採りながら、温室効果ガス排出量削減を推進しています。

再生可能エネルギー

当社は、持続可能な未来に貢献するスマートな環境ソリューションに投資しています。アフラックは、自社が所有・管理する施設で使用する電力の 100% を再生可能エネルギー源から調達しています。

- アフラック（米国法人）がポール・S.エイモスのキャンパスに設置した3メガワットの太陽光発電設備の2025年の発電量は270万 kWhを超え、同キャンパスの電力需要の46%を賄いました。
- アフラック（日本法人）は2021年より自社所有のアフラックスクエアにおいて再生可能エネルギーを使用しています。さらに、賃借オフィスの建物所有者とも連携し、再生可能エネルギーの優先的な活用に取り組んでいます。

当社は、持続可能な未来に貢献するスマートな環境ソリューションに投資しています。写真は、2022年に設置され、2023年に50%拡張されたポール・S. エイモス・キャンパス (PSA) の太陽光発電設備です。拡張された設備では、2025年に270万 kWh 以上発電しました。これは250世帯以上の電力に相当し、コロンバスの施設で使用される電力の16%以上に相当します。^{*2}



^{*1} 再生可能エネルギー・クレジット (REC) は、再生可能エネルギー発電の環境、社会、その他の非電力的属性に対する財産権を表す市場ベースの商品です。1REC は、再生可能エネルギー資源から発電された 1 MWh の電力を表します。

^{*2} アフラック PSA の太陽光発電設備は、年間 300 万 kWh 以上の発電を見込んでいます。[米国エネルギー情報局](#)によると、平均的な家庭用電力の年間使用量は 10,791kWh です (3,000,000/10,791=278.01)。

省エネルギーへの取り組み

アフラックは、再生可能エネルギーの利用を増やすことに加えて、エネルギーの節約とエネルギー効率の向上にも取り組んでいます。

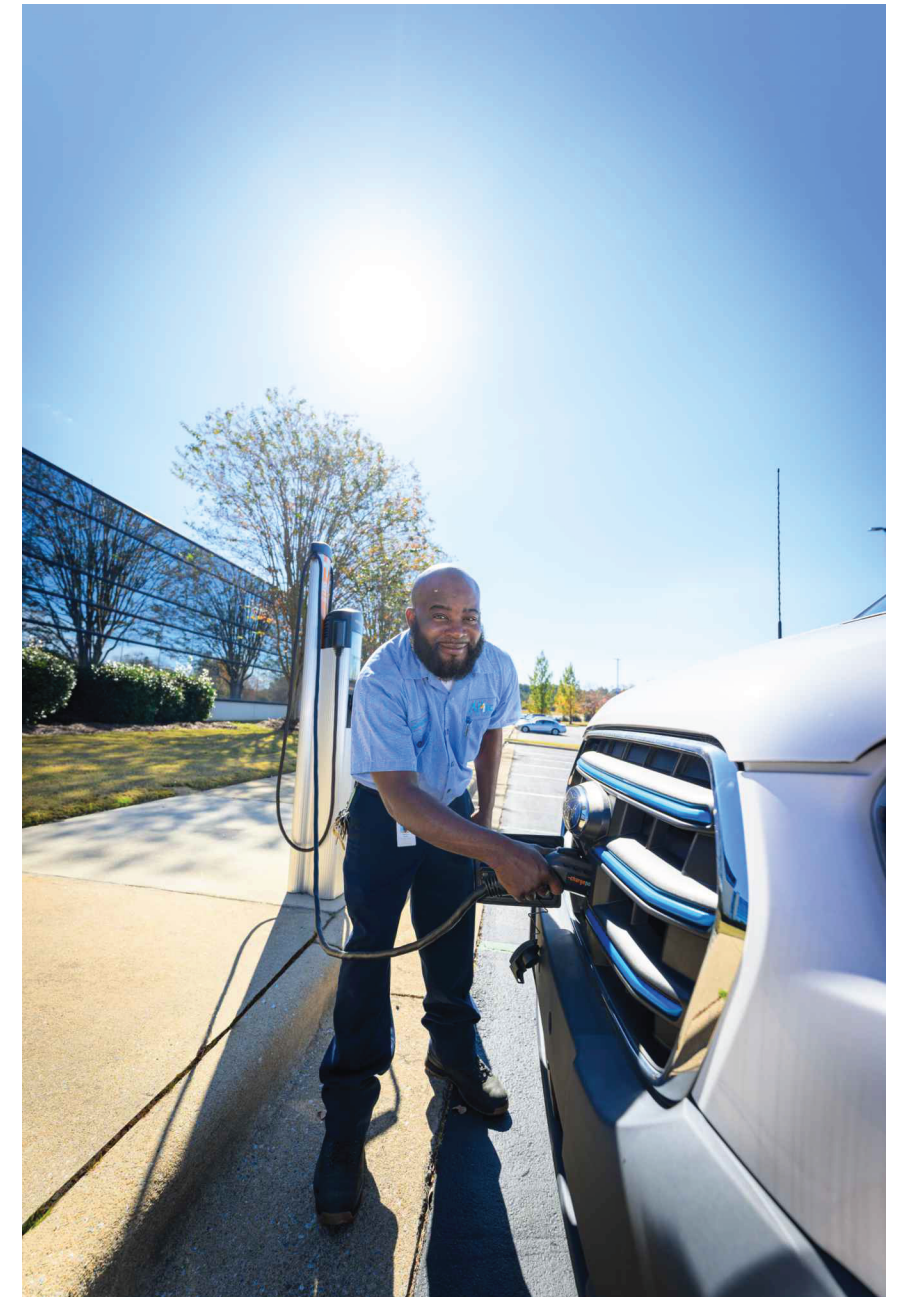
- 2023年、アフラック（日本法人）は、日本の金融業界で初めて、既存建物の運用保守を対象とする**LEED**の最高位であるプラチナ認証を取得しました。また、当該認証を2025年まで維持しました。

加えて、アフラック（日本法人）は、日本政策投資銀行（DBJ）が環境および社会への配慮がなされた不動産の普及を目的として創設した「**DBJ Green Building認証**」において、5段階中2番目に高い4つ星の評価を取得しており、この認証を2025年まで維持しました。



- アフラック（米国法人）では、10年以上前から、所有する不動産の電力消費量の削減に取り組んできました。アフラック（米国法人）は、米国で初めてISO 50001:2018エネルギーマネジメントシステムの認証を取得した保険会社であり、ISO 50001:2018エネルギーマネジメントシステムとISO 14001:2015環境マネジメントの認証の両方を取得した最初の保険会社でもあります。2022年にISO 50001:2018の再認証を取得し、不適合事項はありませんでした。アフラックは、可能な限り環境に配慮した建物を所有または賃貸することに取り組んでいます。

- アフラック（日本法人）は、アフラックスクエアでのエネルギー使用量を削減するために、高効率エネルギーシステムへの転換を進めてきました。また、当社が入居する賃貸借ビルについても、低消費電力・長寿命のLED照明の導入や、環境省が推奨する設定温度に合わせた空調制御に取り組んでいます。さらに、従業員に対して照明、コンピュータ、ディスプレイ、空調設備等における節電を促し、環境意識の醸成を図っています。
- アフラック（米国法人）の各キャンパスには、環境に優しい車両の使用を促進するために、電気自動車（EV）充電ステーションを設置しています。従業員は勤務中にEVを充電することができます。アフラック（米国法人）の社用車にはEVやハイブリッド車も使用しており、社用車を購入する際には燃費効率を重視しています。アフラック（日本法人）においても、ハイブリッド車を多く使用しています。
- 当社はITインフラをクラウド・ソリューションに移行することによりCO₂排出量を削減しています。一部のクラウド・プロバイダーは再生可能エネルギーも使用しており、当社のCO₂排出量の削減に貢献しています。また、デスクトップ・インフラの一部をクラウドに移行することも検討しています。



アフラック（米国法人）の従業員は、EV車用の充電ステーションを利用できます。写真は、社用車に充電中の従業員、デメトリウス・リビエール。

スコープ1、スコープ2、スコープ3の温室効果ガス排出量

当社の温室効果ガス排出量には、財務管理方法に基づいて定義された、米国と日本において当社が所有・管理する施設から発生するすべての直接（スコープ 1） および間接（スコープ 2） の温室効果ガス排出量が含まれます。本報告書には、スコープ 3 に関連し報告された温室効果ガス排出量も含まれています。当社は、2024 年のスコープ 1、スコープ 2、およびスコープ 3 の 8 つのカテゴリの排出量（算出・開示されたスコープ 3 排出量の 100%に相当）について、第三者機関による検証と限定的保証を取得しました。右の表は、スコープ 1 および 2 の温室効果ガス排出量を示しています。独立監査人によるレビューレポートおよびアフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明は、当社ウェブサイト（[こちら](#)）をご覧ください。

未来へのコミットメント

私たちは大きな進歩を遂げましたが、環境への影響を軽減するためにやるべきことは山積しています。アフラックは、エネルギー消費、水使用、廃棄物の削減に引き続き注力し、温室効果ガス排出量の削減に役立つ新しい技術や方法に投資し、より多くの再生可能エネルギーを採用することを通じて、当社の施設をより持続可能なものにしていきます。

アフラック・インコーポレーテッドのTCFDレポートと最新の気候変動に関するCDPへの提出資料の詳細については、[こちら](#)をご覧ください。

以下の表は、2024年スコープ1および2の温室効果ガス排出量に関する情報です。

スコープ1および2の排出量 (t-CO ₂ e)	
スコープ1*	2,850
スコープ2（マーケットベース）	0
スコープ2（ロケーションベース）	7,370
スコープ1とスコープ2（マーケットベース）の合計	2,850
償却済みカーボン・オフセット	2,850

* サステナブルな航空燃料の燃焼によるCO₂ 194トン相当の生物由来の排出量は含みません。

以下の表は、スコープ3のうち関連性を考慮した各カテゴリおよび第三者保証の有無を示しています。

カテゴリ	カテゴリとの関連性	第三者保証	CO ₂ 排出量(t-CO ₂ e)
1. 購入した製品・サービス	購入した製品やサービスに関連する排出量	はい	170,963
2. 資本財	購入した資本財に関連する排出量	はい	15,172
3. スコープ1または2に含まれない燃料 およびエネルギー活動	購入した電力の生産と配電に関連する排出量	はい	4,107
4. 輸送・配送（上流）	輸送・配送に伴う排出量	はい	6,880
5. 事業から出る廃棄物	事業所内で発生する廃棄物の処理・処分に伴う排出量	はい	120
6. 出張	業務に関連する活動のための移動から生じる排出量	はい	11,181
7. 従業員の通勤	従業員の通勤やリモートワークによって生じる排出量	はい	4,742
8. リース資産（上流）	資産のリースに伴い生じる排出量	はい	4,546
15. 投資	温室効果ガス排出を伴う金融投資による排出量	いいえ	ファイナンスド・ エミッション手法を 試験運用中
合計			217,711

カテゴリ 9 から 14 のカテゴリである、輸送・配送（下流）（カテゴリ 9）、販売した製品の加工（カテゴリ 10）、販売した製品の使用（カテゴリ 11）、販売した製品の廃棄（カテゴリ 12）、リース資産（下流）（カテゴリ 13）、フランチャイズ（カテゴリ 14）は、アフラックでは該当は無く、CO₂ の排出はありません。カテゴリ 15 は該当しますが、現時点では報告していません。当社は、サステナビリティの実践、関連する基準、資産クラスのカバレッジ、およびデータ品質の向上に伴い、ファイナンスド・エミッションの手法を試験的に運用しています。

廃棄物の削減

リサイクルは私たちの文化の一部となっています。アフラック米国法人と日本法人では、2024年に736トンを超える紙、金属、プラスチック、電子機器をリサイクルしました。これは、廃棄物全体の75%にあたります。アフラック(米国法人)では、従業員向けのリサイクルボックスをほとんどのオフィスに設置しています。

リサイクル

アフラックは、自社の廃棄物を埋立地や焼却場にするのではなくリサイクルすることで、環境汚染や排気ガスによる有害な影響を軽減し、持続可能な地球環境の保全に努めています。

シェッド&シュレッドイベント

アフラック(米国法人)の従業員は個人所有の電子機器や書類を自宅から持ち寄り、年2回の回収を通じて安全に、かつ責任を持ってリサイクルしました。2025年の回収では、15箱分(1箱65ガロン=約246リットル)の紙と、4,271ポンド(約1,937キログラム)の電子機器をリサイクルしました。



不要な衣類の回収、リユース、リサイクル

アフラック(日本法人)では、役員および社員に対して持続可能な環境づくりの重要性を理解いただき、環境保全への主体的な取り組みを促進するため、再使用およびリサイクルの取り組みを実施しています。本年度は、従来の不要衣類の回収に加え、雑貨類の回収も開始しました。その結果、半期ごとの2回の回収において、合計7,904ポンド(約3,585キログラム)の衣類および雑貨が集まりました。本取り組みは、アフラック・ハートフル・サービス株式会社*との協働で実施しており、障がいのある方々の雇用および就労支援にもつながっています。

* 障がい者雇用を目的としたアフラック生命グループの特例子会社

地域社会への支援

アフラック(米国法人)は地域の公立学校に多くの備品を寄贈し、本来は余剰在庫だった備品を、チャタフーチー・バレーの生徒や教職員にとって価値ある資源として活用しました。この寄贈は、学校における機能性、整備性、創造性あふれる学習空間の創出を後押しするとともに、廃棄物削減と社会貢献に対するアフラックの強いコミットメントを改めて示すものでもあります。計400点を超える椅子や机、キャビネット、本棚、テーブル、講壇、額装されたアート作品に加え、社内託児施設で使わなくなった多くのゲームやブロック、その他学用品を提供しました。3日間にわたるイベントでは、従業員ボランティアとファシリティサポートチームが主導し、ジョージア州の3郡およびアラバマ州の1郡の学区代表者が、学校生活を支える品々を選定しました。



2025年、アフラック(北アイルランド法人)は、使用済みノートパソコンを整備し、Business in the Communityとのパートナーシップを通じて地域の小学校に寄贈しました。

これらはいずれも、環境への責任と、次世代を担う子どもたちの教育を支援する当社の姿勢を反映した取り組みです。

エンゲージメント

従業員エンゲージメント

アフラックは、環境への意識を高め、従業員と地域社会の健康と幸福に貢献する持続可能な職場環境を維持することに力を尽くしています。従業員一人ひとりが、地球環境問題や事業活動が環境に与える影響を理解し、省エネルギー化の取り組みや資源のリサイクル・再利用の推進など、環境経営に向けて具体的に取り組んでいます。当社は、特別なイベントやオンライン学習セッションを通じて、従業員にさまざまな環境教育の機会を提供しています。私たちは職場に限らず家庭でも環境に配慮するよう従業員に呼びかけています。

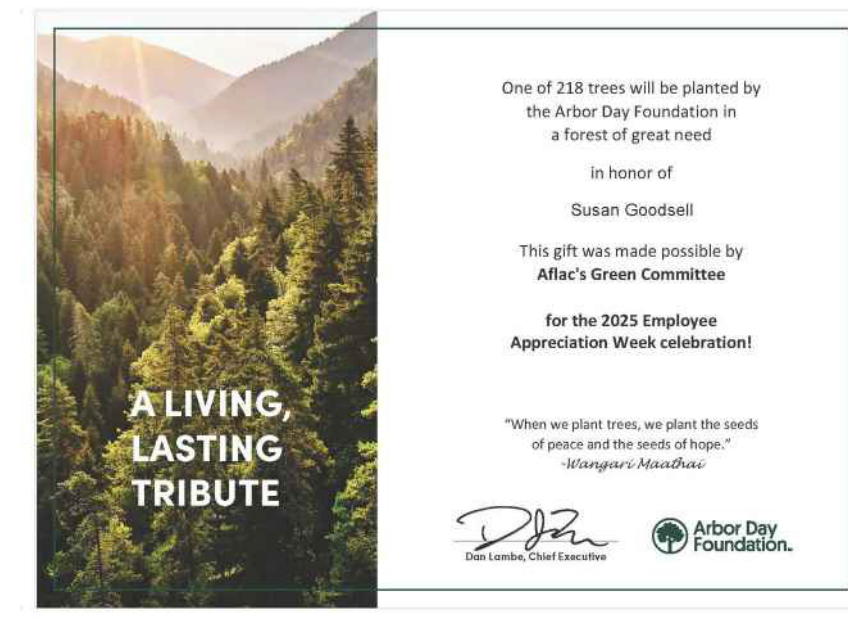


生物多様性と自然

国連によると、生物多様性の促進は気候変動による悪影響を軽減することに繋がります。生息地の保全または復元を通じて、大気中のCO₂を除去し炭素を貯蔵することで気候変動に対処することができます。生物多様性を促進するため、アフラックは年間を通じて植林活動をはじめとした従業員の環境意識の醸成に取り組んでいます。

植樹祭

米国では、アフラック・グリーン・コミッティーが人事部の従業員エンゲージメント・チームと協力し、会社のCO₂排出量削減目標に貢献しました。Employee Appreciation Week(全従業員に感謝する週)の期間中に記念品を受け取らないことを選択した従業員一人につき1本の樹木を [Arbor Day Foundation](#) が国有林に植樹しました。アフラックは記念品を受け取らずに、CO₂排出量の削減に貢献した従業員に敬意を表して、合計218本の樹木を寄贈しました。



植林

アフラック（日本法人）は、紙の消費量を削減するペーパーレス推進の一環として、保険証券を紙ではなく電子的に発行する取り組みを推進しています。お客様が電子証券を選択された場合に当社が植林を行うキャンペーンを実施したところ、2025年7月から9月までの3ヶ月間で28,316件の契約で電子証券が選択されました。結果として、858本分の植林と幼木サポートを実施し、このうち一部の植林は、アフラック日本法人の社員および販売アソシエイツが共同で行いました。

アフラック（北アイルランド法人）は、2020年から従業員の誕生日を記念した植樹を行っています。環境へのインパクトを最大化するため、2025年9月、[Treeapp](#)との新たなパートナーシップを通じてこの取り組みを拡大させました。Treeappとの連携によって、誕生日記念の植樹数は10倍に増え（現在では従業員1名の誕生日につき10本を植樹）、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に整合したグローバルプロジェクトを支えるとともに、森林破壊や洪水、土壌侵食の被害を受けている地域の支援につなげています。



地域清掃

私たちは、当社が事業展開している地域社会を大切にしています。地域社会への恩返しとして、従業員がボランティアで清掃やゴミ拾いを行いました。

ジョージア州コロンバス

2025 年 10 月、米国の従業員はコロンバス地域の住民とともに「Help the Hooch (チャタフーチー川を守ろう)」という清掃活動に参加しました。地元の非営利団体「キープ・コロンバス・ビューティフル (Keep Columbus Beautiful)」が主催するこの活動では、地域住民が川や水路のゴミ拾いを行い、チャタフーチー川の汚染防止に貢献しています。

東京都調布市

2025 年 5 月、アフラック（日本法人）およびその子会社の従業員約 60 名が、同社ビルの近隣である調布駅周辺の清掃活動を実施し、環境意識の向上と地域社会への貢献を図りました。



教育セッション

- グリーン・コミッティーは2025年に17回目となる年次の「Earth Day Expo」を開催しました。この催しでは、コロンバスキャンパス

でのライブイベントも実施され、地域社会でサステナビリティに取り組むパートナー企業・団体が集まるベンダーフェアが行われました。これにより、従業員がサステナビリティに関するトピックについて、パートナーから直接情報を得られる機会を提供しました。グリーン・コミッティーはまた、米国の従業員を対象に、日常生活に密接に関連するさまざまなトピックに焦点を当てた3つの教育セッションを開催しました。セッションのテーマは、[Oxbow Meadows](#) による「湿地」、[コロンバス植物園](#) による「コンポストイング（堆肥化）」、コミッティーリーダーたちによる「Get to Know the Green Committee (グリーン・コミッティーを知ろう)」でした。

- アフラック（日本法人）は、「環境問題を考える」をテーマに気象学の専門家による講演会を開催しました。日本法人の役員および従業員が参加し、将来の環境問題について一人ひとりが考える機会となりました。



グリーン・コミッティーは、コロンバス・シビック・センターで開催された恒例の従業員親睦イベントに合わせ、チャタフーチー・リバーウォーク沿いを走るサイクリング・ツアーを主催しました。

サプライヤーとのエンゲージメント

当社は、環境保全にはサプライヤーを含むすべてのステークホルダーとのパートナーシップが必要であると考えています。サプライヤーは当社のバリューチェーンの一部として重要な役割を担っており、アフラックはネット・ゼロ・エミッションの目標達成に向けて、サプライヤーと

の協働を続けています。当社は、社会、経済、地球環境の長期的な健全性と活力を高めることを目的とした非営利団体「[Sustainable Purchase Leadership Council](#)」の創設メンバーであることを誇りに思います。

温室効果ガスの削減

サプライ・チェーンにおける温室効果ガス排出量削減の取り組みは、意識向上が基盤となります。アフラックは以下のような方法でこれを実現しています。(1) アフラックのサプライヤー行動規範で、環境に関するベストプラクティスを取り上げること、(2) 主要なサプライヤーに環境に関するアンケートを通じて働きかけること。

アフラックのサプライヤー行動規範では、当社のサプライヤーに以下を求めています。

- 環境に関して適用される法律や規制を遵守すること
- 環境に関するベストプラクティスを実践し、温室効果ガス排出量の削減目標を設定すること

当社の取り組みはこれだけにとどまりません。アフラックのサプライヤー行動規範を通して、また、主要なサプライヤーとの追加的な関わりを通じて、当社は意識を高め、サプライヤーが自らの事業や上流のサプライ・チェーン、顧客基盤における温室効果ガス排出量を削減するよう働きかけています。

オフィス家具および備品

当社のオフィス家具は、商業用家具のライフサイクル全体にわたる持続可能性を促進する [BIFMA's LEVEL certification system](#) を満たしています。米国では、持続可能性を意識して設計されたオフィスチェアを使用しています。米国の標準的なオフィスチェアは、海洋に浮遊するプラスチックを再生し、オフィスチェアの一部に転用する取り組みの一環です。これらのオフィスチェアは、特定のリサイクル施設で最大 91% のリサイクルが可能で、[ANSI/BIFMA e3 Furniture Sustainability Standard](#) の要件を満たしています。

アフラック（日本法人）では、再生可能エネルギーの使用を優先し、環境に優しいオフィス家具や事務用品を使用しています。例えば、環境に配慮した事務用品の導入をサプライヤーに求めたり、新しいオフィス家具を導入する際にはカーボン・オフセット製品*の購入を進めています。

* サプライヤーが製品の製造・輸送・廃棄等の製品ライフサイクルを通じてCO₂排出量を計算し、算出されたCO₂排出量に相当するカーボン・オフセットクレジットとともに販売する商品のこと

人財

私たちは、正しい行いはビジネスのためになると理解しています。そしてまず、アフラック・ファミリーに投資をすることで、日々それを実践しています。当社では、日米ともに、従業員が高い帰属意識を持つ企業文化の醸成に努めています。具体的には、従業員のキャリア開発を支援し、ワーク・ライフ・バランスを重視しながら従業員の声や考えに耳を傾け、その懸命な働きに心から感謝することを心掛けています。当社の包括的な人財理念は、「人財を大切にすれば、人財が効果的に業務を成し遂げる」というものです。

「人財を大切にすれば、人財が効果的に業務を成し遂げる」

— ダン・エイモス
アフラック・インコーポレーテッド会長兼最高経営責任者



ジョージア州コロンバスのキャンパスにあるウォーキング・トレイルでは、ウェルネス休憩の時間に従業員が散歩を楽しみ、リフレッシュしています。

従業員の健康増進とワーク・ライフ・バランス

米国法人における従業員の健康増進

アフラック（米国法人）では、健康増進を身体、感情、社会、精神、経済の5つの次元からとらえ、包括的にアプローチすることを信条としています。これらの次元はそれぞれ異なる性質のものですが、これら5つのすべてが、従業員の幸福全体の鍵を握っています。当社の目標は、従業員の健康増進に関する5つの次元をすべてカバーするリソース、サービス、ツールを従業員に提供することです。これには、以下のものが含まれています。（ただし、これらに限定されません）

身体 — 従業員が最適な健康状態と機能性を保つために、適切なケアを行うことを奨励しています。

- 急性期、慢性期、予防、理学療法に対応する、対面またはオンラインで相談できるケアセンター
- 施設内のジム
- ウェルハブ（Wellhub）を通じて提供されるジム施設のエントリーレベルの無料会員資格
- ヘルス・コーチング
- 家庭用の理学療法エクササイズと器具
- オンライン・ヘルスケア
- 医療、歯科、眼科、処方薬サービス
- 不妊治療、有給休暇制度、チャイルドシートの無料配布を含む家族計画
- 予約サポートを行うヘルス・アドバイザー
- レクリエーションのためのスポーツチーム
- 従業員が自身の健康状態を把握し、改善が必要な分野を把握するための、年2回の健康診断の実施
- 従業員が新鮮な空気を吸ってリフレッシュできるように、複数の当

社施設（キャンパス）で利用できるウォーキング・トレイル

- 最も効果的で快適な職場環境づくりを支援する、スタンディング・デスクやチェアなど、人間工学に基づいた備品の提供
- 健康の重要性を強調するため、経営陣も参加する全社的なウェルネス・チャレンジやコンペを年間を通じて実施

感情 — 従業員が、自分の感情に気づき、人生における課題に対処することを促し、浮き沈みを乗り越えるためのツールとサポートを提供します。

- 対面およびオンラインによる行動保健学的ヘルスケア
- バーチャル・メンタル・ヘルスケア・アプリ
- 家族に不幸があった際の各種事務手続き（葬儀の計画、遺産相続の支援、金融機関やソーシャルメディアのアカウント閉鎖等）を含む精神的サポート・アプリ
- 薬物乱用、家庭問題、夫婦間の問題、さらには経済的・法的問題など生活におけるさまざまな問題に対処するための従業員支援プログラム

社会 — 私たちの健康と幸福に欠かせない重要な側面を形成します。

- 当社施設内に設置された託児所
- 家族計画 - 親のサポート
- チャイルドシートの提供と安全講習会

精神 — 個人が人生の目的や価値、意義を見出すことを促します。

- 対面またはオンラインで相談できる企業内牧師



アフラックでは、従業員の健康増進に関わる5つの要素（身体、感情、社会、精神、経済）すべてをカバーしたリソース、サービス、ツールを従業員に提供しています。



米国の従業員に対し、ウェルハブ（Wellhub）を通じて、ジム施設のエントリーレベルの無料会員資格を提供するほか、施設内にジムも設置しています。



従業員の経済的な豊かさ確保するための包括的な金融リソースを提供しています。



社員がワーク・ライフ・バランスを実現するため、育児に関して利用しやすいオプションを提供しています。

経済 — 経済的に「良好」であるとは、家計のやりくり、経済的な目標の達成、リスクへの備え、不測の事態や将来のニーズに向けた貯蓄、そして経済的な打撃への対処などができる能力を持つことを意味します。アフラックは、社員の経済的な幸福を確保するための包括的な金融リソースを提供しています。

- 確定拠出年金
- 学生ローン返済積立金マッチプラン - 教育ローン（自身または子どもの学費融資）の返済額を従業員拠出額にプラスして会社によるマッチングの対象とし、老後のための備えを支援
- 家計のやりくり、経済的な目標の達成、リスクへの備え、不測の事態や将来のニーズに向けた貯蓄、そして経済的打撃への対処などを支援する、ファイナンシャル・コーチング
- 個人情報保護
- 信用組合
- 医療費、育児・介護費用のためのフレキシブル支出口座（非課税拠出積立口座）
- シンプリカレッジ (SimpliCollege) ・プランニング・アシスタンス
- 遺産承継計画支援
- 従業員に無償提供される4つの補完保険商品
- 従業員の株式購入プラン
- ペット保険
- 扶養家族のケア支援補助



愛犬のスカウトと一緒にリラックスした様子のアフラック（米国法人）のシニア・バイス・プレジデント兼チーフ・マーケティングオフィサーのガス・クヌートソン。米国では、健康増進に対する包括的な取り組みの一環として、人との時間だけでなく、私たちに喜びをもたらしてくれるペットとの充実した時間を大切にしています。

日本法人における従業員の健康増進

アフラックでは、健康な従業員が成功に不可欠な要素であることを誰もが理解しています。従業員の幸福に焦点を当てることは、事業価値の創造、生産性の向上、人財の確保など、良い結果をもたらします。極めて効率的で士気の高い職場づくりを目指している当社にとっては、健康増進に向けたコミットメントは、多くの取り組みの一つに過ぎません。アフラック（日本法人）では、従業員の健康増進に積極的に取り組んでおり、社内外に公表する「健康経営宣言 2.0」に明文化しています。この宣言は、社員の未来を見据えた健康増進と、治療と仕事の両立を支援する取り組みを含め、従業員の健康増進への姿勢を示すものです。2025 年から 2027 年の 3 年間、「健康経営 2025 ～ 2027 年」として、健康ビッグデータを分析して従業員の健康上の支援の課題や強化領域を特定し、従業員の健康増進につながる施策として、以下を含む多くのツールとリソースを提供しています。

身体 の健康

- 運動の推進：運動不足解消やチームのコミュニケーション活性化のためにスマートフォンアプリを活用した「ウォーキングキャンペーン」を実施し、従業員の70%が参加しました。
- 女性の健康：社内相談窓口の設置、女性の健康支援のオンラインサービスの導入、職場での女性の健康課題に関する理解促進のためのセミナーの開催などにも取り組んでいます。
- 禁煙の推進：2023年に従業員の健康増進を目的とする「アフラックの喫煙率ゼロ宣言」を公表しました。2028年までに喫煙率0%を目指して社員の禁煙をサポートするプログラムを提供しています。

こころの健康

- 毎年、メンタルヘルスのチェックを全従業員に実施し、セルフケアの情報提供を行っています。2025年は、従業員のメンタルヘルスの強化のために、レジリエンスに関するセミナーを開催しました。
- 管理職を対象に、職場環境の改善やスタッフのメンタルヘルスのサポートをテーマにした研修を実施しています。

治療と仕事の両立支援

- 病気やけがをした従業員が、治療に専念・両立しながら安心して働くことを支援するための「がん・傷病 就労支援プログラム」を、すべての従業員に提供しています。

アフラック（日本法人）の従業員の健康増進への取り組みは外部からも高く評価されています。2025 年には日本の経済産業省から「健康経営優良法人」に 8 年連続で認定されました。この認定は、従業員の健康管理・働き方改革への戦略的な取り組み、そして職場環境の整備において優れた取り組みを行っている企業に与えられるものです。



また、アフラック（日本法人）は、職場内で保育園を運営するとともに、産前、産後休暇・育児休職中、復職後の仕事と子育ての両立など、子育てのステージごとに必要なサポートを提供しています。



All Ribbonsは、がんを罹患中または経験した日本法人の社員によって構成されるピアサポート・コミュニティです。がんに関連する情報や経験、想いを分かち合っています。

アフラック（日本法人）All Ribbons

アフラック（日本法人）は、2017 年、がんを罹患中または経験した有志の従業員による社内のピアサポート・コミュニティ「All Ribbons」を設立しました。この名前には、さまざまながんの経験を持つ仲間を支えたいという社員の想いが込められています。All Ribbons のメンバーは、互いに支えあい、がん治療と仕事の両立に悩む社員の支えになっています。All Ribbons のメンバーは、メンバー同士でそれぞれの経験を共有しています。また、従業員向けの相談サービスを提供しているほか、がんに関する情報を提供するパネルディスカッションや社員対話型イベント「All Ribbons Cafe」を開催しています。

従業員への感謝

アフラックでは、従業員を大切にすることは企業文化や長期的なサステナビリティの礎です。個人の貢献を認め、協力的でインクルーシブな職場環境を築くことによって、エンゲージメントやパフォーマンス、組織全体のレジリエンスが強化されます。年間を通して、成果を称え、共有価値を高めるために考えられた幅広いプログラムやイベント、表彰の機会を設け、こうした従業員への感謝にリソースを提供しています。

代表的な取り組みの一つが「The Aflac Way 従業員表彰プログラム」です。従業員がアフラックの7つの大切な約束を守った同僚やリーダーたちを表彰することができます。同僚同士でノミネートするこのプログラムを通じて、従業員が特別な賞品と交換可能なポイントを獲得でき、感謝、説明責任、卓越性といった文化の強化につながります。

またアフラックは、従業員を企業の最も重要な資産のひとつとして称える長年の伝統である Employee Appreciation Week（全従業員に感謝する週、通称 EAW）を開催しています。毎日行われる賞品抽選会や、永年勤続表彰、チームビルディングアクティビティ、エンターテインメント、食事の提供、地域貢献活動のほか、互いのつながりを深め、幸福感を高める体験など、さまざまな催しが行われます。EAW は、米国では Founders Week に続いて毎年5月に、日本ではアフラック(日本法人)の創業記念日に合わせて毎年11月に開催されています。EAW では、従業員への感謝と、組織にもたらす価値を伝える趣向が凝らされています。

2025年、アフラックは3つの大切な節目を迎えました。

- アフラックの創業70周年（プラチナアニバーサリー）
- アフラックがん・血液病センター設立30周年
- アフラックダック誕生25周年

これらの節目を祝い、アフラックは、当社の伝統を築き支えてきた従業員一人ひとりの尽力に感謝し、特別な記念品を贈呈しました。



アフラック（日本法人）における家族職場見学会と永年勤続表彰会。様々な社内イベントを通して、楽しみながら日本のEAWを祝っています。



アフラック（米国法人）では、従業員を尊重する長年の伝統として、EAWを通じて従業員を称えています。例年5月に開催されるEAWでは、毎日行われる賞品抽選会や、永年勤続表彰、チームビルディング活動、エンターテインメント、食事の提供、地域貢献の機会のほか、互いのつながりを深め、ウェルビーイングを促進する体験など、さまざまな催しが行われます。



従業員のエンゲージメント

アフラックにおいて従業員のエンゲージメントは、表彰だけにとどまりません。採用から入社後のオンボーディング、専門的な成長、さらには長期的なキャリア開発に至るまで、従業員が大切にされ、支援され、声が届いていると感じられる環境づくりに努めています。従業員のウェルビーイング、能力開発、そして意義のある称賛に投資することで、従業員が最大限のパフォーマンスを発揮し、当社の長期的な成功に貢献できる職場環境を醸成しています。

アフラック（米国法人）では 2025 年春に実施したアンケートからのフィードバックを活用して、従業員の要望やニーズに基づいて組織の変更・強化を行ってきました。

アフラック（日本法人）は全社で従業員エンゲージメントの向上に取り組んでおり、2025 年に実施した調査では、人財エンゲージメントスコアは68%となり、日本平均（サーベイに参加した日本企業の平均値）58%を大きく上回る結果になりました。アフラック（日本法人）は、従業員のエンゲージメントを高めるためにさまざまな取り組みを実施しています。

アフラックの包括的な福利厚生制度や付加価値サービスは、身体、感情、社会、精神、経済の観点から従業員を総合的に支援できるよう設計されています。従業員ケアの取り組みを通じて、従業員が支援されていること、そしてエンゲージメントを感じられるよう、前向きでインクルーシブな職場環境を醸成するための幅広いプログラムやリソースを集約しています。

当社は「The Aflac Way」という理念を指針に、ご契約者が私たちを最も必要としているときに寄り添うという約束を果たしています。上記のような支援によって、従業員は自らの健康やウェルビーイング、レジリエンスを優先し、毎日の業務でベストを尽くすことができます。その結果、健康で手厚く支援され、エンゲージメントの高い人財が、当社の企業文化を強固にし、世界中のお客様や地域社会に貢献する力を高めます。

主要ハイライト:2025年アフラック（米国法人）従業員エンゲージメントサーベイ

87%

2025年の
総合エンゲージメントスコア
外部ベンチマークを
13ポイント上回る

84%

サーベイ参加率

90%

アフラックの
一員であることを
誇りに思う従業員

82%

アフラックは仕事を全うする上で
必要なトレーニング、環境、
ツール等を整えてくれていると
考える従業員

76%

他社への転職を
ほとんど考えていない従業員

92%

アフラックが
雇用主であることに
満足している従業員

88%

アフラックのマネジメント
は効果的であるとする
従業員

90%

アフラックが倫理的な事業活動
への経営判断と行動を示して
いると考える従業員



アフラック・インコーポレーテッドおよびアフラック（米国法人）社長のヴァージル・ミラー（一番左と下）、シニア・エグゼクティブ・バイス・プレジデント兼チーフ・フィナンシャル・オフィサーのマックス・ブローデン（左中央）、アフラック（日本法人）取締役専務執行役員兼チーフ・フィナンシャル・オフィサーのステイブン・ビーバーは、年次の全社会議である「State of the Company meeting」でパネルディスカッションを行いました。





アフラック（米国法人）の「Focus meeting」において、シニア・エグゼクティブ・バイス・プレジデントのオードリー・ブーン・ティルマンと会長兼最高経営責任者のダン・エイモスが、現在の保険業界の状況や、業界で優位性を保つために必要なことなど、さまざまなテーマについて知見と経験を共有しました。



タウンホールミーティングや、ランチタイム勉強会、全社会議に至るまで、定期的な集まりや、交流・お祝いのイベントを、学びの機会であり企業文化を共有する場として位置づけ、従業員との継続的なエンゲージメントを重視しています。



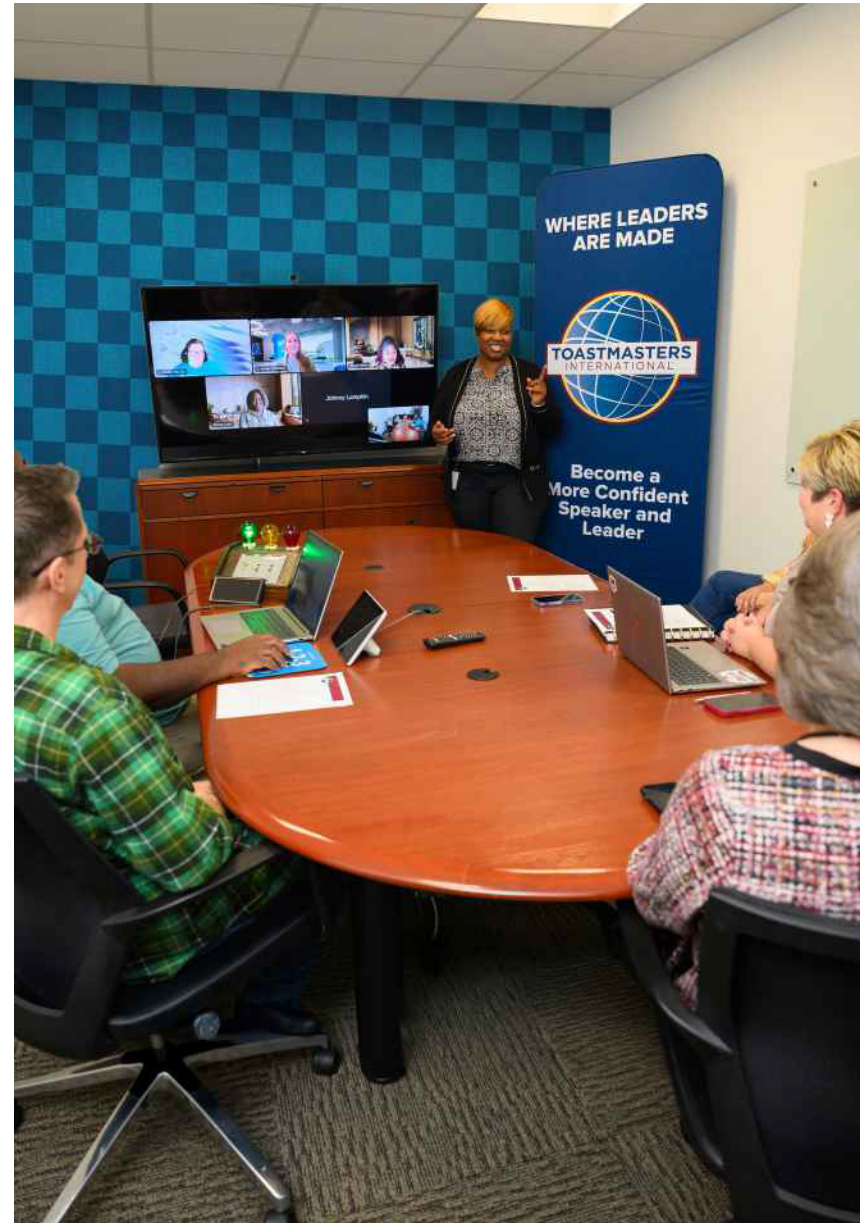
アフラック（日本法人）取締役専務執行役員兼チーフ・フィナンシャル・オフィサーのスティーブ・ビーバー（左）、アフラック・リー・バミューダ社長のサナ・ノーブルズ（中央）、エグゼクティブ・バイス・プレジデント兼グローバル・チーフ・インベストメント・オフィサーのブラッド・ディスリン（右）が、さまざまな財務戦略が当社の商品や業績とどのように結び付くのかについての見識を解説しました。



アフラック・インコーポレーテッドおよびアフラック（米国法人）社長のヴァージル・ミラー（写真中央）は、米国のカスタマー・サービス・ウィークに合わせてアフラック（日本法人）の仙台コールセンターを訪問し、社員と交流しました。The Aflac Wayを実践し、ご契約者が私たちを最も必要としているときに寄り添うという当社の約束を果たすことの重要性などについて話し合いました。

人財開発

アフラックにとって、人財こそが最大の競争力です。全従業員のスキルアップと能力開発を推進するための豊富なプログラムや支援が提供されています。2025 年、アフラック（米国法人）は引き続き人財の未来に焦点を当てることに注力しました。具体的には、人財をテーマに 50 回を超えるセッションを実施し、育成計画の文書化を行いました。エモーショナル・インテリジェンス（EQ）ワークショップを導入し、リーダー育成の機会も充実させています。これらのワークショップは、従業員やリーダーにとって、同僚やチームと関わる際の自己認識や EQ を養う手段になっています。従業員向けには、業務の性質上研修を受ける機会がそれほど多くない部門に、15 分のマイクロラーニングセッションを導入しました。マイクロラーニングセッションによって、エンゲージメントや士気が高まっています。リーダー向けには、新任リーダー研修やパフォーマンス管理研修、重要な話し合いに関するワークショップなど、チームを効果的に率いるコーチング支援とツールの提供を継続しています。



トーストマスターズ（スピーチ力の向上、リーダーシップの育成、自信の獲得に役立つ優れたプログラム）をはじめ、従業員の専門的な成長と成功を後押しする機会を提供しています。

アフラック（日本法人）では、「多様な人財が自律的に働き、最大限に力を発揮する」を理念とした人財マネジメント制度を導入しています。社員の自律的なキャリア形成を支援するために、社員は能力開発計画書をもとに上司と対話（1on1）し、社員一人ひとりが目指すキャリアや能力のギャップを明確化し、具体的な能力開発のための取り組みを進めています。例えば、チャレンジングなアサインメントなどのやりがいのある仕事の提供、職種を問わず、全社員に共通して求められるスキル・能力を学ぶことができるプログラムやマイクロラーニングなど、さまざまな仕組みやトレーニングを提供しています。



アフラック（米国法人）では、全従業員がキャリア・コンサルタントと面談し、メンタリングやキャリア成長の機会を活用できるキャリア支援・能力開発サービスを提供しています。

また、当社の持続的な成長を支えるために、計画的に次世代を育て、将来に向けたリーダーシップ・パイプラインを強化することに努めています。



その取り組みの一つとして、アフラック（日本法人）は、リーダーシップ開発に特化した企業内大学「アフラック・リーダーシップ・アカデミー（ALA）」を開校しました。ALAは、「持続的な企業価値向上に向けて、圧倒的な覚悟と確かな実行力をもち、変革を実現していくことができるリーダーを輩出すること」をミッションとし、国立大学法人一橋大学大学院経営管理研究科国際企業戦略専攻（ICS）と共同開発した全29の統合的かつ体系的なオリジナルプログラムを運営しています。

具体的には、経営に関する最新知識の習得に加え、当社のコアバリューの伝承や、リーダーに求められる『徳』の涵養を目的としたプログラムも提供しています。また、経営トップ層が登壇するエグゼクティブセッションなど、多様なリーダーシップ開発機会を通じて、幅広い層のリーダー育成を進めています。



さらに2025年11月には、人財の活躍こそが企業の持続的な成長と中期的な企業価値向上に不可欠であるという考えのもと、人財育成に特化した学習拠点「アフラックラーニングセンター（ALC）」を自社ビル内に開設しました。当社は、“自分を創る。未来を創る。”というタグラインのもと、当社の持続的な成長と、変化するステークホルダーのニーズに応えるため、人財育成をより一層強化していきます。

キャリア・サクセス・センター

アフラック（米国法人）では、キャリア・サクセス・センターを通じて、米国内の従業員に向けたキャリア支援・能力開発サービスを提供しています。キャリア・コンサルタントと面談し、メンタリングやコーチング、履歴書作成や模擬面接の支援、キャリア相談に加え、試験監督の実施や人財評価といった各種プログラムを利用できます。さらに、キャリア・サクセス・センターは、ネットワーキングやジョブシャドウイング（職場体験）に加え、教育機会に関する議論を促進し、従業員のキャリアの成長と能力開発を支援しています。



メンタリング

アフラック（米国法人）のメンタリング・プログラム「TEACH」は、従業員が自己成長に取り組めるようエンゲージメントを高め、意欲を喚起し、エンパワーすることに重点を置くとともに、他者の貴重なスキルや経験に触れる機会も提供します。これにより、従業員は「知っていることを教え、知らないことを学ぶ」ことができます。TEACHのメンターは、組織全体からリーダーがボランティアとして参加し、6か月間の従業員メンタリングに取り組みます。プログラムでは、キャリアの方向性と育成の重点に基づいて、メンターとメンティーがマッチングされます。多様な組織的活動を提供し、正式なプログラム期間を超えても継続する、強固な協働関係の構築を促します。



日本のWork SMART

アフラック（日本法人）は、「アフラック Work SMART」という働き方改革を推進しています。この取り組みは、社員一人ひとりが仕事の進め方を見直すとともに、「時間」と「場所」とらわれず、家庭と仕事を両立できる働き方の実現に向けた制度・インフラの整備を通して、社員のワーク・ライフ・マネジメントを支援し、組織としてのパフォーマンスを最大化させることを目指しています。

「時間」とらわれない働き方

アフラック（日本法人）では、シフト勤務、フレックスタイム制度、時間単位で取得可能な年次有給休暇を活用することにより、すべての従業員が柔軟に働くことができます。育児や介護をしている従業員は、短時間勤務制度とシフト勤務を組み合わせることで、最大 10 通りの勤務時間を選択することができます。

「場所」とらわれない働き方

アフラック（日本法人）は、すべての従業員が在宅勤務を行えるよう、システムや環境を整備しています。例えば、全社員にノート PC に加えタブレット端末やスマートフォンを配布することで、社外から社内システムへのアクセスを容易にし、Web 会議システムを活用しながらオフィスにいるのと同じように働くことができる環境を整えています。

アフラック（日本法人）はリモートとオフィス、それぞれの価値を踏まえ、組織成果を最大化するため『「部門型人財マネジメントにおける戦略的ハイブリッドワーク」のプリンシプル』を定め、オフィスとリモートワークを最適に組み合わせるハイブリッドな働き方を実現しています。

アフラック（日本法人）は、社員がワーク・ライフ・マネジメントを実現できる環境づくりに努めています。2025 年のハイライトは、以下のようなものです。

- 対象となる従業員の100%が育児休職を取得しました。
- より柔軟な働き方の推進により、従業員はプライベートと仕事の時間をより効果的に両立できるようになりました。例えば、育児のために時短勤務を選択する社員数は、2015年以降26.3%減少しました。

2022 年以降、「アフラック Work SMART」は、効率性から、効率性を維持しながら新しい価値を創造すること（「Work SMART2.0」）に重点を移し、人財エンゲージメントのさらなる強化を図っています。



性別にかかわらず育児参画をすることで、育児と仕事の両立を目指しています。

アフラック Work SMARTの頭文字は、以下の内容を表しています

S

視野を
広く持つ

M

目的を
考える

A

自分から
動く

R

対話を
重ねる

T

時間を
意識する

アフラックの人財

アフラックの企業文化は、他者への思いやりと、すべての従業員が当社の一員である実感できる帰属意識の醸成に根ざしています。2001年、アフラック・インコーポレーテッドの会長兼最高経営責任者ダン・エイモスは、アフラックで初となるダイバーシティ・カウンスル設立を主導しました。当社のダイバーシティへの決意は脈々と続いており、現在、世界各地で従業員主導のダイバーシティ・カウンスルが7つ活動しています。これらのダイバーシティ・カウンスルには、さまざまな職位の従業員が参加し、アフラック・ファミリーを強化するための活動や取り組みについて定期的に話し合っています。このカウンスルは、従業員同士がコミュニケーションを取り、互いの違いを尊重し合える仕組みづくりを目的としています。従業員は当社の根幹であり、当社は従業員の多様なバックグラウンド、経験、そして考えから、大きな恩恵を受けています。当社は、すべての従業員に帰属意識を醸成し、組織のあらゆる層で多様性と非差別を体現し、働きがいのある職場を提供するとともに、最終的には従業員、地域社会、お客様を支えるアフラックの企業文化の維持に取り組んでいます。アフラックでは、尊重し合い、インクルーシブで多様性に富む人財基盤の醸成を継続的に促すダイバーシティ・プログラムの構築に努めています。アフラック・ダイバーシティ・カウンスルは、当社のダイバーシティ推進を支える対話や教育の機会を提供し、このビジョンを社外のコミュニティやお客様へも広げる重要な役割を担っています。2025年には、これらのカウンスルは、ダイバーシティ&インクルージョンに焦点を当てた9つを超えるワークショップやイベントを主催・共催し、ハイブリッド形式で3,000名以上の参加者を集めました。



ダイバーシティ・デーでは、アフラック（米国法人）の従業員がそれぞれの習慣や食文化、価値感を共有し、ユニークなバックグラウンドや経験を称えます。



アフラックは、従業員とその子ども、孫のために、奨学金や授業料支援プログラム、大学との提携による割引など、高等教育に伴う経済的負担を軽減するためのさまざまな教育支援を提供しています。従業員の経済的ウェルビーイングを重視し、2025年には遺産承継計画に関するセッションやワークショップを開催しました。



従業員の学びと成長を後押しするという精神に基づき、シニア・エグゼクティブ・バイス・プレジデント兼最高法律顧問のオードリー・ブーン・ティルマン（左）、会長兼最高経営責任者のダン・エイモス（右）が、従業員のボビー・ジョー・ヘイウッド（中央）を祝福しました。彼女は、特定の学校で学位取得を目指すアフラックの従業員およびその子ども・孫を対象としたポール・S. & ジーン・R.奨学金の一つを授与されました。

アフラックは、従業員とその子ども、および孫を対象に、幅広い教育支援を提供しています。奨学金、授業料支援制度、大学との提携による割引制度などを通じて、高等教育に伴う経済的負担の軽減に努めています。当社は、従業員が学びを深めることを後押しすることは、本人の成長を促し、当社の基盤を強化するとともに、将来のリーダー育成にもつながると確信しています。こうした取り組みはアフラックの企業文化に深く根付いており、長年にわたり多くの従業員とその家族がこのような機会の恩恵を受けてきました。

当社の教育へのコミットメントは、幼稚園から高校に通う子どもたちにも広がっています。地域の学校を支援するため、資金や専門的リソースの提供に加え、若者のメンタリングにも取り組んでいます。小・中・高等学校のキャリアフェアへ参加し、アフラックのキャリアの可能性を

早い段階から気づいてもらい、自分の将来の選択肢をじっくりと探索することを子どもたちに促したいと考えています。この取り組みには、地域の若者のメンターとして時間を割き、地域社会に貢献する従業員の献身にも支えられています。また、当社と共通の使命を持つ団体や非営利組織とも協力しています。コロンバス工科大学や、若手リーダーの支援を行うジョージア州の非営利団体「21st Century Leaders」との協力のもと、地域の学校での専門プログラムやクラブの導入、ならびにサウスウェスト・ジョージア・リーダーシップ・サミットへの支援も継続しています。アフラックでは、年間を通じて、多様なバックグラウンドを持つ人財への機会拡大と人財パイプラインの強化につながるパートナーシップの育成を継続しています。

2025年、アフラックは、5年間で1,000人の黒人プロフェッショナルに対してテクノロジー分野のキャリア進出を後押しするジョージア州テクノロジー協会の取り組み「Bridge Builders」への支援を継続しました。さらに、歴史的黒人大学（Historically Black Colleges and Universities: HBCU）を含め、アカデミックパートナーとの連携も深化しています。インターンシップや産学協同教育プログラム、実習といったプログラムを通じて、適格な初期キャリア人財を計画的に採用し、有意義な実習を通じて当社の事業全体への理解を深めてもらっています。また、ヒスパニック・パブリック・リレーションズ・アソシエーション（HPRA）などの団体とのパートナーシップや、グランプリング州立大学、アラバマ州立大学などの歴史的黒人大学との接点を通じて、多様性に富む人財パイプラインの維持に努めています。数十年前からそうしてきたように、アフラックでは、組織のあらゆる階層において多様でインクルーシブな人財基盤の構築に努めています。多様性を受け入れることは、正しい行いであるだけでなく、健全なビジネス戦略でもあります。当社が目標を達成し、事業を展開する地域社会に貢献していくためには、多様な視点を持つ人財が不可欠です。

2025年、アフラック・グローバル・インベストメンツは、手頃な価格の住宅、地域社会、教育および社会インフラ分野において、1億6,000万ドル超の投資コミットメントを実行しました。

従業員は、当社が事業展開している地域社会を映し出す

アフラックは、事業を展開する地域社会にも配慮し、その多様性を反映し、積極的に体現するよう努めています。当社は、成功は、多くの場合、誰も見ていない時に日々行う行動によって形作られるということを認識しています。それは、すべての人への接し方であり、すべての人に提供する機会であり、多様性を受け入れ、対話とインクルージョンを促進する姿勢のことです。私たちは、さらなる向上に努め、より良い変化を生み出し続けることを約束します。

アフラックのコミットメントは、従業員の構成、給与に関する公平性の方針、そしてすべての人が歓迎され、大切にされていると感じられるよう継続的に行っている各種の取り組みに反映されています。私たちがより強い会社を築いていることに疑いはありませんが、まだできることがあると肝に銘じています。それでも、私たちは正しい道を歩んでいると確信しています。



従業員同士がそれぞれの習慣や食文化、言葉、文化を楽しみ、大切にするダイバーシティ・デーで楽しげな様子のアフラック（米国法人）シニア・バイス・プレジデント、チーフ・カルチャー・オフィサーのジェミー・リー（左）、アフラック・インターナショナル ディレクターのトラメル 直子。

当社の企業文化は、会社のあらゆるレベルにおいてダイバーシティを推進するというコミットメントを反映しています。以下は、2025年末時点の状況を示したものです。

アフラック(日本法人)

女性従業員の割合

55%

指導的立場に占める女性の割合

34%

ライン長ポストに占める女性の割合*

30%

アフラック(米国法人)

女性従業員の割合

65%

指導的立場に占める女性の割合

51%

上級管理職における女性の割合

35%

有色人種の従業員の割合

47%

指導的立場に占める有色人種の割合

31%

上級管理職における有色人種の割合

24%



* アフラック生命保険株式会社におけるライン長ポストに占める女性の割合を対象としており、子会社は含みません。

米国の従業員の新規採用 (2025年)

68%
女性

55%
有色人種

アフラック・インコーポレーテッドでは、投資家の皆様からのご要望にお応えし、透明性を確保するため、アフラック（米国法人）の最新の EEO-1 レポートを公開いたします。最新のレポートは、[こちらをクリック](#)してください。

公平な報酬

アフラックは、グローバルな給与の公平性に取り組んでおり、性別や年齢、人種・民族に関係なく公平な給与を確保するため、継続的な分析を行っています。今後も、給与の公平性に関する評価を継続し、そこで明らかになった格差を縮めていきます。給与の公平性は、性別や人種・民族が異なる従業員が、同一または類似の職務に就いている場合、勤務地や職位在任期間、在職期間、学歴、経験など、給与の違いを説明する正当な事業上の要素を考慮した、平均的な給与格差と定義されます。

- 2025年、アフラック（米国法人）で男女両方が兼務する392の職種が見直され、3,822人の従業員がこの対象となりました。これらの役職における給与比率（男性に対する女性の報酬）は99.6%でした。

アフラック（日本法人）は、管理職を対象に刷新した人財マネジメント制度を、2022 年からは一般社員にも対象を拡大して適用しました。本制度のもとでは、それぞれのポジションの職責に応じて、職務ごとに特定のグレード（職務等級）が適用されます。性別、年齢、人種などがグレードを決定する要因になることはなく、すべての従業員に公平な機会が提供されています。アフラック（日本法人）は、高い目標へのチャレンジや成長への貢献意欲を刺激するために、会社への貢献に報いる「トータルリワード」の考え方で報酬を設計しています。“職務”と“成果”に報いる報酬体系をベースに、職務記述書で明文化された職務の内容・大きさをもとに決定するグレードごとに、日系大手企業をベンチマークに競争力のある水準を実現しています。基本給や賞与だけではなく、一定以上のグレードの社員には中長期インセンティブも付与し、職務や成果・業績に報いる仕組みとしています。アフラック（日本法人）の人財マネジメント制度は、短中長期的な視点で会社への貢献に報いる仕組みとなっています。

また、アフラック（日本法人）の代表取締役社長を委員長として、各部門を統括する部門統括役員により構成される人財マネジメント政策委員会では、人財マネジメント制度が公平・公正に運営されているかどうかを毎年モニタリングし、グレードや報酬水準の一貫性、適切性について評価しています。

日本における人的資本の情報開示

アフラック（日本法人）は、統合報告書や「人的資本データブック」などの公開を通じて人的資本に関する情報を開示しています。この透明性を高める取り組みが評価され、2023 年に人的資本に関する情報開示の国際的なガイドラインである「ISO 30414*」の認証を日本の金融業界で初めて取得しました。



* 国際標準化機構(International Organization for Standardization)が制定するマネジメント規格で、組織が自社の従業員に関する人的資本の情報について、定量化・分析し、開示するための国際的な指標として設けられたガイドライン



人財の育成

アフラック（日本法人）は、「女性の活躍推進プログラム」を通じて、2020年末までに指導的立場（課長代理以上）にある女性の割合を30%にするという目標を、計画より1年前倒しで2019年に達成し、その後もさらなる前進を続けています。2025年末には、ライン長ポストに占める女性割合は30%を超えました。日本政府が女性活躍を推進していることを踏まえ、また、アフラック（日本法人）のコアバリューにもとづき、今後はより上位の女性のパイプライン形成を強化していきます。

アフラック（米国法人）では、すべての従業員の成長を支援することを目的とした、さまざまな能力開発の機会を提供しています。高い潜在能力を持つ上級リーダー層は、各専門分野やより広範なリーダーシップ分野における権威ある育成プログラムに選抜され参加します。さらに、複数の部門において、組織のあらゆる層にわたるリーダーシップ・パイプラインの強化を目的とした育成の取り組みが行われています。



アフラック（日本法人）は、ダイバーシティ推進の重要性を社内外に発信しています。左側の写真はアフラック（日本法人）代表取締役社長古出 眞敏が内閣府「輝く女性の活躍を加速するリーダーの会」の委員長に就任し、民間企業の社長や、大学・研究機関の理事長、自治体の首長等の組織のトップに対し、当社のダイバーシティ推進について講演している様子です。



アフラックの「Leading Ladies」イベントでは、アフラック（米国法人）で活躍する女性たちが、視野や思考を広げ、成功の機会を生み出してくれる人との関係の重要性について見識を共有する機会が提供されました。上部左側の写真左から、クリエイティブスタジオ・ディレクターのエイミー・パーソンズ（左）とカスタマー・ケア・センターのファニータ・ジョンソン。上部右側の写真左、ダイバーシティ&タレント・ディベロップメント担当バイス・プレジデントのケイラ・カブレット・ルイス。



左側の写真は、自組織を超えた多様な価値観に触れる機会を増やすことで、誰もが異なる価値観を受け入れ、互いを活かす行動に繋がられるようにすることを目的に、2025年10月に開催したDiversity Week 2025の様子です。

アフラック・ハートフル・サービス株式会社 (AHS) は、障がい者の雇用を推進するために2009年に設立されたアフラック（日本法人）の特例子会社で、創業から15年が経過しました。AHSでは、ここで働く障がい者に必要な職場環境を整え、専門的な知識を有するスーパーバイザーを置くことで、障がいがあっても安定的に就労することができています。近年では封入・スタンプといったオフィスサポート業務に加え、ノベルティグッズのデザインやオフィス装飾としての絵画の制作など多様な感性をいかしたアート事業や会議室等のオフィス環境を整えるオフィスコンシェルジュ業務も展開しています。また、2024年には創業15周年のイベントとして、期間限定のカフェスタンド事業「あひるカフェ」*を展開しました。2025年11月にはアフラックラーニングセンターのオープンの日にも出店し、AHSの社員が日頃の感謝をこめて接客を行いました。現在、将来のカフェ事業の本格展開に向け、準備を進めています。一人ひとりが得意なことを仕事にいかし、皆いきいきと働いています。

* あひるカフェは AHS が行うグループ内企業へ向けた取り組みの名称です。



アフラック（日本法人）では、AHSの社員が描いた色鮮やかなアート作品を全国の拠点に展示しています。

アフラック（日本法人）では、2019 年から AHS の社員が描いた色鮮やかなアート作品をオフィスに展示しています。2023 年以降、全国にある、56 か所の営業拠点のお客様対応エリアの壁一面に、障がいのある社員がその地域の文化や伝統、歴史的建造物をモチーフに描いたアートを設えています。色鮮やかで人を惹きつける、迫力のあるアートが、そこで働く社員や訪れたお客様との間に新たな会話を生み出しています。また、2025 年からは社員の活躍の場の拡大とダイバーシティの理解促進のため、アートレンタル事業も開始しました。

また、障がいの有無にかかわらず、小児がん経験者の就労支援もおこなっています。これらの雇用の促進や雇用の安定に関する取り組みにより、厚生労働省が主管する「障がい者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定制度」において、2021 年以降、優良中小事業主として認定され続けています。2025 年 12 月 1 日時点で、AHS に在籍する 159 名の従業員のうち、124 名が障がい者手帳保持者で、5 名が小児がん経験者です。AHS は、従業員の個性を尊重し、多様性をいかし、無限の可能性を追求するとともに、一人ひとりの能力を結集し、社会に広く貢献するかけがえのない企業であることを目指しています。



2025年11月、アフラックラーニングセンターのオープンの日「あひるカフェ」を1日だけ臨時出店しました。カフェではAHSの社員が温かいコーヒーと笑顔でおもてなし、オープン記念イベントを彩りました。



快適な職場環境づくりに貢献するオフィスコンシェルジュ業務。アフラック社員から「ありがとうございます」といった感謝の声掛けにより、社員は「働く喜び」「アフラックグループの一員である」ことを実感。障がい者雇用やダイバーシティの理解促進にもつながっています。



社員が描いたハートフルなアートを、オフィスのエントランスや会議室にお届けするアートレンタルサービスを2025年より開始。個性豊かなアートによって、空間を明るく、会話のきっかけや心の安らぎを生み出しています。



小児がん経験者によるアフラック社員、代理店向けに小児がん啓発の講演活動を展開しています。

フィランソロピー

アフラックでは、パーパス（企業の存在意義）に沿ったパートナーシップを信条としており、健康や貧富の格差を解消するために活動している団体やコミュニティを支援しています。当社は、米国と日本における補完医療保険のパイオニアとして、また両国のリーディングカンパニーとして、がんと診断された人々が直面する困難を理解する努力を70年間続けてきました。また、がんの診断が家族全体に影響を与えることも理解しています。そのような思いから、私たちの活動の多くは、がんと向き合う人たちを支援することを目的としています。

企業として、チャリティー寄付、地域社会への投資、現金拠出、現物支給を含む慈善活動の大部分を、がんや鎌状赤血球症を含む血液疾患に焦点を当てた慈善活動に充てています。



アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センター



「すべての子どもに人生を全うする権利があるのです。」

ダグラス・グラハム医学博士

アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センター長兼ウィリアム・G. ウッズ医学委員長

グラハム医師は、患者を治療し生活を向上させることをライフワークとし、世界レベルの治療を探求し続けています。

1995 年の開設以降、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターは、小児がん、血液学、そして血液・骨髄移植に関して、全米で有数の医療機関として知られるようになりました。米国で最大規模の小児血液学にかかる研究・治療を行う医療機関の一つとして、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターは毎年 9,500 人以上の患者を診察しています。

同センターでは、一般的なものから稀少なものまで、あらゆる種類の小児がんと血液疾患を持つ子どもや若者の治療において非常に高い技術と経験を有しています。革新的な研究と最先端の治療法により、1965 年に 20%だった小児がんの 5 年生存率は、現在 80%以上

と劇的に向上しています。アフラック財団、アフラック小児がん基金、アフラック役職員および販売部門など、アフラック・ファミリーはこの価値ある活動を大切にしています。惜しみない寄付金により、研究活動に必要な資金は絶えることなく供給され、現在、アフラックからアフラックがん・血液病センターへの寄付金の累計額は 1 億 9,500 万ドル(2025 年 12 月 31 日時点)を超えています。この寛大な支援は、同センターが研究分野で優れた成果と卓越した実績を上げるうえで大きな役割を果たしており、その結果、同センターは U.S. News and World Report 誌が発表した「全米小児がんトップ医療機関」の一つとして高く評価されています。



アフラックの取り組みは、小児がんの子どもたちだけでなく、鎌状赤血球症など、あまり知られておらず理解されていない希少な血液疾患を抱える子どもたちにも、前向きな影響をもたらしています。

アフラックは、小児医療における格差に関連して、鎌状赤血球症がもたらす課題に取り組んでいます。その中心的な拠点は、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターです。同センターは、公衆衛生情報システムデータによると、全米で最も多くの鎌状赤血球症治療を行っており、毎年2,000人以上の患者が治療を受けています。

1995年の開設以降、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターは、小児がん、血液学、そして血液・骨髄移植に関して、全米で有数の医療機関として知られるようになりました。高い技術と経験を持つチームがザイールくん（上の写真）をはじめ、子どもたちの治療を行っています。

2024 年 9 月、アフラック小児がん・血液病センターは、アトランタに新設された Arthur M. Blank 病院の小児医療センターに移転しました。この最先端の施設は、19 階建て、敷地面積 200 万平方フィート、病床数 446 床、最新の治療法、大きな個室、洗濯機と乾燥機、家族用ラウンジ、簡易キッチン、20 エーカーの緑地などを特徴としています。

アフラック小児がん・血液病センターは、患者収容能力を増やして州内外のより多くの子どもたちを治療できるようになり、病床数を 70% 増やし、現在は 98 床を提供して増加する小児患者のニーズに応えています。このセンターは、国内でがんや血液疾患を持つ子どもたちに対する最大の医療提供者としての役割を果たし続けています。しかし、重要なのは建物の大きさだけでなく、その中で行われる医療活動です。同センターは骨髄移植ユニットを 10 床から 26 床に拡張し、より複雑な手術を行い、患者に対する長期的なケアを提供できるようになりました。また、Good Manufacturing Practices(GMP) ラボも追加されました。これは非常に清潔なラボで、患者から細胞を抽出し、それを操作して治療に役立てることができます。従来は、その細胞を他のセンターに送って処理する必要があり数週間を要していましたが、今では自施設内でその作業を行うことができるようになったため、治療を迅速化し、何よりも生きるチャンスを待つご家族に希望を与えることができます。



My Special Aflac Duck®

アフラック・インコーポレーテッドは、未来の世代のための正しい行いを大切にしています。このことはアフラック・ファミリーのさまざまな取り組みに表れていますが、とりわけ小児がんや血液疾患と闘う子どもたちとそのご家族への献身に最も鮮明に表れます。私たちは、子どもたちががんや血液疾患に向き合うには、医療だけでは十分ではないことを理解しています。それが形になったのが、米国、日本、北アイルランドで無償で贈呈している My Special Aflac Duck® です。この活動は、子どもたちとそのご家族、そして彼らの未来への大切な投資です。



当社、小児がんや血液疾患の治療・研究を支援することに加えて、さらに踏み込んだ取り組みをしたいと考えました。病気と闘う子どもたちが、実際に抱きしめることのできる何かを手にすることができたら、そして、それが子どもたちに喜びをもたらし、病気との闘いの一助となれたら、どんなに素晴らしいことでしょう。こうした想いを形にしたのが、インタラクティブなコミュニケーション技術によって子どもたちの孤独感を和らげる、スマートで安心感のある友達ロボット「My Special Aflac Duck」です。ウェブベースのアプリにより、子どもたちは、自分の治療の模様をこのダックに体験させることができます。このダックは、診察ごっこなどを通して生きているような動きや感情表現で子どもたちを惹きつけ、つらい治療の中でも心が和むように子どもたちに寄り添います。My Special Aflac Duck は、子どもたちが自分一人ではないと実感し治療を前向きに受け止められるよう促すとともに、いつでも、どこでも、誰にでも、病気や治療によるストレスや不安に対処するための手段やサポートを提供します。



がんや鎌状赤血球症の治療を受けている子どもたちに安らぎを感じてもらうため、アフラックはMy Special Aflac Duckを提供しています。My Special Aflac Duckは、子どもたちとそのご家族に喜びと安らぎをもたらす大切な仲間です。2025年12月31日現在、42,000羽以上のMy Special Aflac Duckが、米国、日本、北アイルランドの子どもたちに贈られました。

アフラックでは、米国で新たにがんや鎌状赤血球症などの血液疾患と診断される3歳以上の子どもたち一人ひとりに、無償で My Special Aflac Duck を贈ることを目標に掲げています。アフラック小児がんキャンペーンやアフラックがん・血液病センター、そして今では My Special Aflac Duck を通じて、当社はがんに向き合う子どもたちを支え、彼らが希望と時間、そしてさまざまなリソースを手に入れられるよう、その使命を果たしていきます。

米国では、アフラックが2018年から500の病院や団体に40,000人以上の子どもたち（2025年12月現在）に My Special Aflac Duck を寄贈し、最近ではご家族にも直接寄贈しています。日本では、アフラック（日本法人）が2019年から96の病院や団体に1,700人以上（2025年12月現在）の子どもたちに My Special Aflac Duck を寄贈しています。アフラックは、2025年までに、米国、日本、北アイルランドで合計42,000人以上の子どもたちに My Special Aflac Duck を贈りました。

My Special Aflac Duck にも、新しい仲間ができました。2022年初頭、アフラック（米国法人）は、数々の受賞歴をもつ My Special Aflac Duck プログラムの対象を、鎌状赤血球症などの血液疾患を持つ子どもたちにも拡大しました。このダックには、鎌状赤血球症などの血液疾患を持つ子どもの治療に特化した新しいアクセサリとして、暖かいブランケット、ポートIVアダプターや無料アプリでの新しいデジタル体験などがカスタム・パッケージに収められています。これまで病院や支援団体を通じてのみ入手可能でしたが、アフラックのパートナーであり、My Special Aflac Duck のクリエイターである Empath Labs を通じて、3歳以上のがんや血液疾患の子どもたちのご家族に直接ダックをお届けすることができるようになりました。2022年以降、新しいプログラム「Direct To Family」によって、がんや鎌状赤血球症と向き合う子どもたちの家庭に1,000羽以上を発送することができました。

My Special Aflac Duck®の 寄贈イベント

アフラックは、がんや鎌状赤血球症に向き合う子どもたちに、文字通り抱きしめることができるもの、彼らに喜びを与え、彼らの闘病生活を支えるものを贈りたいと考えました。そして、双方向のコミュニケーション技術を使い、子どもたちの孤独を和らげるようサポートする、スマートで安心できるパートナー、My Special Aflac Duckを開発しました。一部の病院では、My Special Aflac Duckを受け取った子どもが、自分だけの友達ロボットに会うために、エキサイティングなスカベンジャーハントに参加することもあります。ハントの後、子どもたちとご家族は、ダックの出生証明書やビーズのネックレスを作ったり、塗り絵をしたりと、さまざまな活動を通して新しい友情を祝います。2025年はミシガン州にあるコアウェル・ヘルス小児病院でもMy Special Aflac Duckの寄贈イベントを行いました。

My Special Aflac Duckについての詳細や、団体向け、またはがん・鎌状赤血球症の治療を受けている子どもたちのためのダックのリクエストは、[アフラック小児がんキャンペーン](#)をご覧ください。



一部の病院では、My Special Aflac Duckを受け取った子どもが、自分だけの友達ロボットに会うために、エキサイティングなスカベンジャーハントに参加することもあります。ハントの後、子どもたちとご家族は、ダックの出生証明書やビーズのネックレスを作ったり、塗り絵をしたりと、さまざまな活動を通して新しい友情を祝います。

小児がん・血液疾患と向き合う家族への30年にわたる支援

アフラック・インコーポレーテッドは30年にわたり、小児がんや血液疾患という想像を超える現実と直面する家族に寄り添ってきました。1995年に始まった心からの約束は、子どもたちやそのケアにあたる人々への思いやりと創意工夫、そして揺るぎない支援という確かな歩みへと発展しています。30周年の記念式典では、アフラック会長兼最高経営責任者のダン・エイモス、アフラック財団理事長のキャサリン・エイモスをはじめとするアフラックの経営陣がアトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターで病と闘っている、または病を克服した子どもたちや、医師、スタッフとともに、支援が届いた多くの命、達成した節目、そして使命を推し進める希望など、小児がんと血液疾患への長年の取り組みを振り返りました。

1995年、エイモス会長は大胆な約束をしました。後のアフラックがん・血液病センターとなる施設への資金提供です。この最初の300万ドルの贈り物が慈善活動の礎を築き、以降、小児がん、血液疾患に関する研究、治療、家族支援サービスに対する寄付金は総額2億ドルに達するまでに発展しました。

アフラックがん・血液病センターは今や、米国最大規模の小児血液学とがんの研究・治療機関であり、年間500人を超える新たながん患者、2,100人を超える新たな鎌状赤血球症患者の治療を行っています。200を超える臨床試験を実施し、医師、看護師、研究者などの専任スタッフが集まった多彩なチームを擁する同センターは、小児医療とイノベーションの限界に挑戦し続けています。

こうした基本理念は、過去30年にわたりアフラックの取り組みを導いてきました。エイモス会長をはじめ、アフラックの従業員や代理店にとって、この数十年にわたる支援の真の尺度は、子どもたちの笑顔と保護者の安堵、そしてがんや血液疾患を抱える子どもたちにもたらされた進展にあります。最先端研究への資金提供から、移動、宿泊、心のケアなど家族への支援まで、アフラックがん・血液病センターの包括的な支援モデルは、がんや血液疾患の診断に関わる多面的なニーズに対応しています。

30年の節目について、アフラック・インコーポレーテッド会長兼最高経営責任者のダン・エイモスは、次のように話しています。「がんや



アフラック・インコーポレーテッド会長兼最高経営責任者のダン・エイモス（上：1995年、右：2025年）と、エレナ・シュレッケンバーガーさん。上の写真当時、エレナさんは5歳で、ステージ4の神経芽腫の治療を受けていました。写真はカメラマンがエイモス会長兼最高経営責任者とのかけがえのないひとときを捉えたもので、今年の催しでは（右）その場面が再現されました。

血液疾患と向き合う子どもたちへの支援は、単なる企業としての取り組みではなく、私やキャサリン、当社の販売チーム、そして従業員にとって、どのご家族も決して一人でこの道のりを歩むべきではないという信念に根ざした、極めて個人的な使命なのです。私たちはその道のりの一步一步で、寄り添い、安心と支援、そして希望をお届けできることを光栄に思います。30年というのは大きな節目ですが、同時に、私たちの取り組みが終わりからほど遠いことを思い起こさせるものでもあります。治療法が見つかり、支援の必要がなくなるその日まで、がんや血液疾患に立ち向かう子どもたちに癒やしと希望を届けるために、私たちはできる限りの努力を続けていきます。」

利益や四半期報告が重視されがちなこの世界において、この歩みは、思いやりを道しるべとすれば何が可能になるかを示す証です。これは企業の社会貢献にとどまらず、人と人のつながりの物語であり、どの子どももがんや血液疾患に一人で立ち向かうことのないように、という約束でもあります。



アフラック財団理事長のキャサリン・エイモスは、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センター30周年記念式典に、同センターで病と闘っている、または病を克服した子どもたちや、医師、スタッフとともに参加しました。式典では、アフラックの小児がんと血液疾患への長年の取り組みを振り返るとともに、今後も影響を与え続けるための方策について意見を交わしました。



2025年4月撮影



My Special Aflac Duck®は、2019年から日本にも登場しました。アフラック（日本法人）は、2019年以降、小児がんの治療に取り組む96の病院や団体でがんなどの重い病気と闘う子どもたちに1,700羽以上（2025年12月時点）のMy Special Aflac Duckを寄贈しています。



これらの取り組みが評価され、2025年8月にMy Special Aflac Duckの寄贈を通じた小児がん支援が、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が主催する「第19回キッズデザイン賞」を受賞しました。

アフラックペアレンツハウス

人々から評価され信頼される会社であることは、多くの場合、社会的責任を果たす会社であることも意味しています。アフラック（日本法人）は、社会的責任が私たちのパーパス（企業の存在意義）に欠くことのできない要素であることを認識しています。アフラックの社員・代理店は小児がん支援活動をととても大切にしており、小児がん経験者や AYA 世代（思春期・若年成人世代）の小児がん経験者が笑顔で暮らせる社会を目指し、啓発活動や各種団体への支援を行っています。

子どもが小児がんや難病に罹患すると、専門的な治療を受けるために、自宅を離れ東京や大阪に出向かなければならないこともあり、また、継続的な治療を必要とする子どもたちも少なくありません。こうした困難な状況に置かれた方々のお役に立てるよう、2001 年、最初の「アフラックペアレンツハウス」がアフラック（日本法人）などの寄付によって開設されました。この施設は、小児がんや難病と闘う子どもとそのご家族が、自宅のようにくつろいで宿泊できる場所としてお役立ていただいています。また、「アフラックペアレンツハウス」は小児がんに関する相談やイベント開催など総合支援センターとしてもご利用いただいております。



子どもたちやご家族が安心して館内で過ごせるよう、多くのアフラック（日本法人）・グループ会社の役職員、代理店が衛生用品や日用品の寄付やボランティアなどで「アフラックペアレンツハウス」の運営を支援しています。



日々の運営を担うハウスマネージャーは、「アフラックペアレンツハウス」に滞在する子どもたちやご家族のサポートをしています。

がん啓発活動

アフラック: 15の新しい笑顔の理由

アフラックは、がんや血液疾患に立ち向かう子どもたちとご家族に良い影響をもたらすために、さまざまな取り組みやイベントを通じて努力を続けています。その一環として「アフラック小児がん基金」は、「2025 年子どもの命助成金」の 15 の受給先を発表しました。これらは全国 15 の病院プログラムを支援し、がんや血液疾患の診断を受けた子どもたち、そのきょうだいやご家族に対し、安心、支援、ガイダンスを提供するものです。2018 年以降、同財団は米国内のチャイルドライフ・プログラムに対し、累計 83 件、総額 152,500 ドルの助成を行ってきました。

チャイルドライフ・プログラムは保険の適用外であることが多いため、子どもとご家族のストレス軽減や対処力の向上、医療体験への適応を支える治療的・教育的支援を病院が導入・継続するには、寄付が重要な資金源となります。とりわけ一部の病院では、寄付が不可欠です。



ノースカロライナ州グリーンビルのジェームス&コニー・メイナード小児病院では、セラピー犬のようなさまざまなセラピープログラムが、つらい治療期間中の患者のストレス緩和に役立っています。



今年は以下の団体が助成金を受領しました。

- Children's Health Foundation (オクラホマ州オクラホマシティ) — Nourishing Hope (栄養支援プログラム)
- Children's National (ワシントン D.C.) — Super Sib Day (きょうだい支援デー)
- East Alabama Medical Center、オペリカ (アラバマ州オペリカ) — Sickle Cell education (鎌状赤血球症に関する教育)
- Geisinger Janet Weis Children's Hospital (ペンシルベニア州ダンヴィル) — Head wraps and care packages (ヘッドラップとケアパッケージの提供)
- James and Connie Maynard Children's Hospital (ノースカロライナ州グリーンビル) — Canine Crew (セラピー犬活動)
- アフラックがん・血液病センター (ジョージア州アトランタ) — Coping support resources (コーピング支援リソース)
- Mary Bridge Children's Hospital (ワシントン州タコマ) — Developmental play items (発達支援用遊具)
- New York-Presbyterian Methodist Hospital (ニューヨーク州ブルックリン) — Support group (サポートグループ)
- Nicklaus Children's Hospital (フロリダ州マイアミ) — Memory Making (思い出づくり支援)
- Christus Children's (テキサス州サンアントニオ) — Puppyatrics (セラピー子犬プログラム)
- Phoenix Children's Hospital (アリゾナ州フェニックス) — Sack lunch program (昼食配布プログラム)
- UCSF Benioff Children's Hospital (カリフォルニア州オークランド) — Patient and Sibling Resiliency Initiative (患児・きょうだいレジリエンス強化イニシアチブ)
- UF Health Shands Children's Hospital (フロリダ州ゲインズビル) — Sibling care packages (きょうだい向けケアパッケージ)
- University of Kansas Medical Center (カンザス州カンザスシティ) — Proton therapy patient blankets (陽子線治療患者向けブランケット)
- Wellstar Children's Hospital of Georgia (ジョージア州オーガスタ) — Pup companion (セラピー犬の同行支援)



My Special Aflac Duck[®]はやわらかく抱きしめたい友達ロボットです。子どもたちが治療に向けて心の準備を整え、自分の気持ちを話し、気をそらす方法を練習する相手になってくれます。カンザス大学メディカルセンターで、*My Special Aflac Duck*を大事そうに抱く患者の姿が見られます。

アフラック小児がん基金の使命に、皆様も仲間入りできます。アフラック小児がんキャンペーンに寄せられた寄付はすべて、全米の病院や団体での治療・研究を支援する助成金と通じ、がんや血液疾患と向き合う子どもたちとご家族のために直接役立てられます。

がん経験者支援

アフラック（日本法人）では、がんを経験した方ががんになっても自分らしく生きるために、実践的なアドバイスや情報提供等だけでなく、不安や寂しさなどを受け入れ、精神的にも支える「開かれた相談の場」が社会に必要と考えています。アフラック（日本法人）は「マギーズ東京」や「元ちゃんハウス」*など、「開かれた相談の場」として活動する団体に寄付などを通じて活動を支援しています。



マギーズ東京は、がんを経験された方・家族・友人が、居心地のよい環境でゆっくり過ごしたり、医療者と話をしたりしながら、自分の力を取り戻していけるようなサポートを行っています。



元ちゃんハウスは、石川県金沢市にあり、がんを抱えた方やご家族などが同じ境遇の人や専門職につなげられる場所として活動しています。

がん啓発展示会・がん教育

アフラック（日本法人）は、がん保険のパイオニアとして、またリーディングカンパニーとしての義務と責任を認識しています。お客様は、がん保険のパイオニアである当社とその商品に信頼を寄せてくださっています。私たちは、その信頼にお応えできるよう日々力を尽くしています。例えば、日本の全 47 都道府県と連携し、がん予防の啓発や早期発見の重要性を多くの人々に知ってもらうための活動に積極的に取り組んでいます。具体的には、がんの「早期発見・早期治療」の大切さについて考えるきっかけにしてほしいとの想いで、2004 年にがんに関する展示会「がんを知る展」を開始しました。

アフラック（日本法人）では、がんの経験を持つ社員を含めた当社社員・子会社社員のが、小・中・高等学校、大学でのがん教育を通じて、がんに対する正しい知識、がん患者・経験者への理解および命の大切さを伝える支援を行っています。





自治体と連携して開催された「がんを知る教室」。2025年はがんを知る教室を5会場で開催し、11,000人以上が来場し、地域社会におけるがん啓発活動の一環として、多くの市民が参加しました。



自治体などと連携し、小学校・中学校・高等学校・大学で、がん教育の推進に積極的に取り組んでいます。がんの闘病経験をもつアフラック社員が、自身の経験談のもと、がん検診などを通じたがんの「自分事化」の重要性を伝えるとともに、がんの闘病経験を通じて感じた他者を思いやる気持ちや困難があっても人生を前向きに生きていく力の大切さについて、全国の学校で授業を展開しています。

アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度

アフラック（日本法人）は1995年、「アフラック全国アソシエイツ会」と共同で、がんで親を亡くし、経済的に困難な環境にあるがん遺児を支援するために奨学金制度を設立。その後、2014年には小児がんを経験した高校生にも対象を拡大し、子どもたちの学びを支えています。設立以降、奨学金給付額は22億円を超え、これまでに3,800人以上の子どもたちを応援してきました。（2025年7月時点）



アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度を支える活動として、毎年、がん征圧月間である9月を中心にアフラック全国アソシエイツ会が主体となり、全国各地で街頭募金活動を行っています。アフラック（日本法人）の拠点の一つである調布市では、調布市職員がアフラック社員と一緒に街頭募金活動を行いました。

ゴールドリボン運動

小児がんは、大人のがんに比べて発症する人数が少ないため、治療方法が少なく、情報や支援が十分とはいえません。また、小児がんを取り巻く課題は、心身および経済的な負担が長期間にわたるため、さまざまな支援が必要とされています。アフラック（日本法人）は、小児がんの子どもたちや経験者、家族が笑顔で暮らせる社会の実現に向けた活動に取り組んでいます。ゴールドリボンは小児がんへの支援を表すシンボルマークです。

ゴールドリボンウォーキング

アフラック（日本法人）は、小児がんの子どもたちへの理解と支援の呼びかけを目的として、2007年からウォーキングイベントを開催しています。2025年4月に開催されたゴールドリボンウォーキングには、アフラック（日本法人）の従業員や代理店、提携先関係者、小児がんの子どもたちやそのご家族など約2,900人が参加しました。また、当日は多くのアフラック（日本法人）従業員がボランティアとしてイベントを支援しました。



アフラッククラシックチャリティーコンサート

小児がんに対する正しい理解と認知向上、寄付を通じた支援を行うため、10月に「アフラッククラシックチャリティーコンサート」を開催しました。サブステージでは、小児がんの子どもたちによる絵画展や寄付活動のほか、小児がん経験者によるウエルカムミュージックでのピアノ協奏や、インタビューを行いました。



アフラックデー～小児がんサポートマッチ

アフラック（日本法人）がスポンサーを務める、プロサッカーチームの柏レイソルが、9月23日に「アフラックデー～小児がんサポートマッチ～」を開催しました。試合前には小児がん経験者が選手と共に入場し、キックオフを行いました。また会場では、レモネードの販売による小児がん啓発と売上代金の小児がん支援団体への寄付、小児がん患者と選手との交流会を実施し、サッカーファンに当社の小児がん支援活動を知っていただく良い機会となりました。



株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテインメントとのパートナーシップ契約

アフラック（日本法人）では、日本のプロ野球チームである北海道日本ハムファイターズに所属する、小児脳腫瘍に罹患した経験のある山崎福也投手とともに、小児がんに関するさまざまな啓発活動に取り組んでいます。小児がんの子どもたちの北海道日本ハムファイターズ公式戦への招待、ウォーキングイベントによる寄付活動、山崎福也投手によるアフラックペアレンツハウスや病院の小児病棟訪問など、様々な活動を通じ、小児がんの子どもたちへの支援の輪を拡げています。



日本のプロ野球チームである北海道日本ハムファイターズに所属する、小児脳腫瘍に罹患した経験のある山崎福也投手が、12月に病院とアフラックペアレンツハウスを訪問し、子どもたちと交流しました。

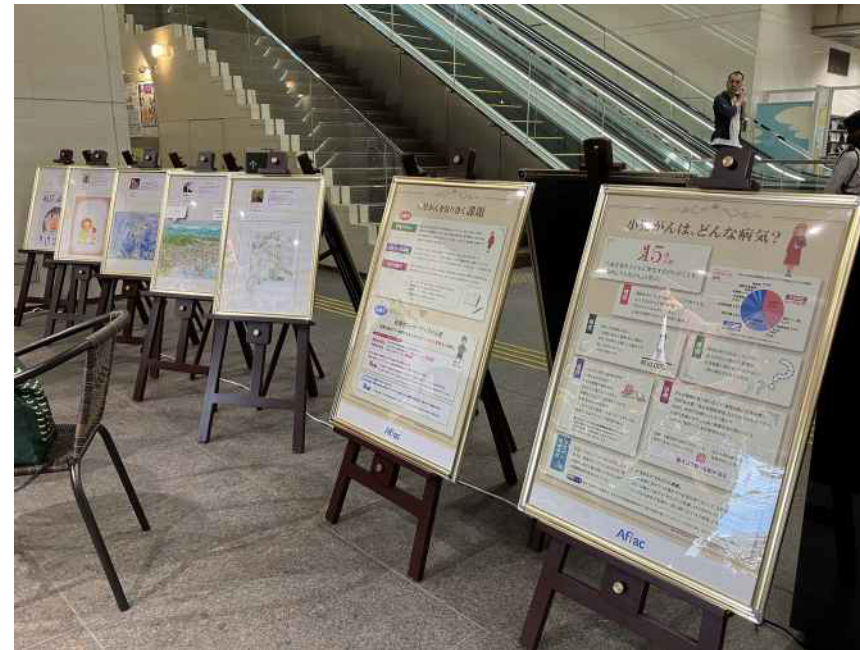


世界小児がん啓発キャンペーン

世界小児がん啓発月間である9月に、アフラック（日本法人）は、拠点の一つである調布市にも協力を要請し、自社ビルと調布市の文化会館をゴールドにライトアップ。調布市が開催した花火大会では、アフラック（日本法人）協賛によるゴールドリボンの形をした花火の打ち上げや応援アナウンスが流れ、調布市の文化会館では小児がん経験者の絵画展も実施しました。



9月、小児がん啓発のために、アフラックスクエアビルと調布市の文化会館をゴールドにライトアップしました。



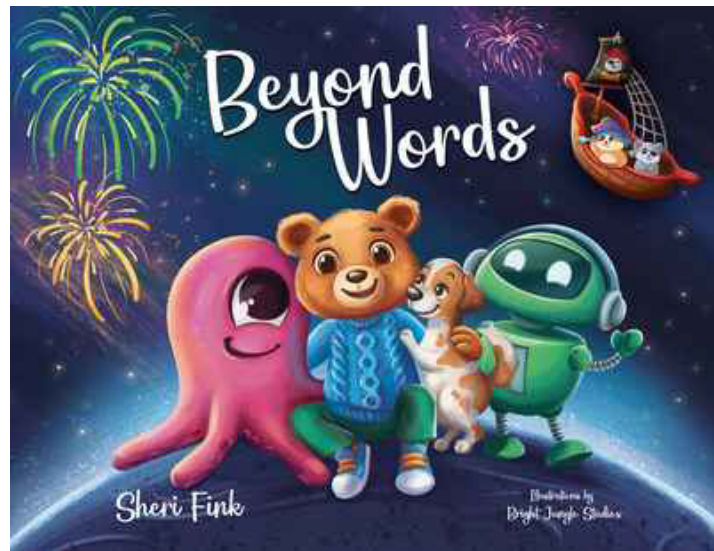
調布市の文化会館で小児がん経験者の絵画展を実施



調布市開催の花火大会に協賛し、ゴールドリボンの形をした花火の打ち上げを行いました。

新刊「Beyond Words」を通じて広がる 子どもたちへの支援

アフラック・インコーポレーテッドは、児童書の人気作家であるシェリ・フィンクさん、研究宇宙飛行士のケリー・ジェラルディさんとのコラボレーションを通じて、とりわけ健康問題を抱える子どもたちなど大切な人々に対する共感、優しさ、思いやりの力をテーマにした新しい児童書を刊行しました。



受賞歴のある作家であるフィンクさんが読者に紹介するのは子ぐまのバディです。バディは入院中の友だちバニーを元気づけたのですが、どんな言葉をかければ良いのか悩んでいました。バディの想像力が羽ばたくと、読者もバディが新しい友だちと繰り広げる銀河間の冒険を追いながら、助けを必要としている誰かにとって本当に大切なのは、ときに言葉ではなく、「言葉を越えた (Beyond Words)」行動なのだ気づきます。

「Beyond Words」は、アフラックが長年大切にしてきた思いやりの文化の延長線上にあります。ヒントになったのは、アフラックのアヒル型ロボット、My Special Aflac Duck[®] でした。2018 年以降、米国と日本、北アイルランドで、4 万 2,000 人を超えるがんや鎌状赤血球症と向き合う子どもたち（3 歳以上）に無償で提供されています（81 ページをご覧ください）。

「Beyond Words」を執筆するにあたり、フィンクさんは 15 冊以上の児童書でベストセラー作家となったこれまでの経験と、子どもたちにひらめきや喜び、学びを届けるという使命を活かしました。フィンクさんは執筆活動の一環として、よく学校を訪れ、優しさや逆境の乗り越え方について子どもたちと語ったり、小児病院で自身の本の読み聞かせの活動を通じて社会に還元しています。

宇宙冒険と惑星間旅行が満載の「Beyond Words」のテーマをもっと輝かせるため、アフラックはマルチミッションの研究宇宙飛行士であり、母親でもあるケリー・ジェラルディさんにこの本のまえがきと、オーディオ版のナレーションを依頼しました。オーディオ版とバディと仲間たちが登場する無料の塗り絵は、書籍の最終ページにある QR コードから入手できます。



アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターで患者に贈呈された「Beyond Words」に著者のシェリ・フィンクさん（左）と、研究宇宙飛行士のケリー・ジェラルディさん（右）がサインしました。

研究宇宙飛行士のケリー・ジェラルディさんの言葉：「アフラックの『Beyond Words』というミッションに参加し、この大切な目的をお手伝いできたことを誇りに思います。娘と一緒に過ごすときも、宇宙へ向けた準備をしているときも、バディは、たとえ完璧な言葉が見つからなくても、大切な人のために行動で寄り添うことの大切さを思い出させてくれます。それは私自身もこれから続けていきたいことです。」



著者のシェリ・フィンクさん

「Beyond Words」の著者、シェリ・フィンクさんの言葉：「児童書を通じて小児がんや血液疾患を抱える子どもたちやその周りの方々を助けるというアフラックの温かな使命は、子どものケアに目に見える違いを生み出そうとするアフラックの姿勢の表れです。『Beyond Words』では、たとえ完璧な言葉が見つからなかったとしても、愛情や友情を表すためのたくさんの方法を分かち合うことができると背中を押されました。バディは私たちに、優しさと思いやりには無限の力があることを思い出させてくれます。」

「Beyond Words」の物語を豊かにしてくれたのは、ストーリー展開や挿絵の方向性を決めるためのフォーカスグループに参加してくれた、ジョージア州コロンバスにあるマッシュズ小学校の子どもたちと、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターで治療を受ける子どもたちの想像力です。かつて同センターで治療を受けていた小児がんサバイバーのメアリー・ウェブさんが、「この本の大切さ」のページの挿絵を描いてくれました。

購入をご希望の方は、Aflac.com/BeyondWordsをご覧ください。収益の全額はアフラック小児がん基金を通じて小児がんおよび血液疾患の研究・治療の支援に役立てられます。

アフラックの思いやりの文化が サウスカロライナのNPOへ

サウスカロライナでのアフラックの慈善活動は、近隣地区の活性化、子どもやご家族のためのプログラムやサービスの充実、コミュニティ資源の強化という形で現れています。

2025 年には、アフラック・グループの従業員がサウスカロライナ州内 72 の NPO の使命推進を支援しました。その一部をご紹介します。

Central South Carolina Habitat for Humanity

Habitat for Humanity Internationalの加盟団体として、サウスカロライナ州リッチランド郡およびレキシントン郡において、個人や団体と協力し、250軒以上の住居を提供。

アフラック・グループは 2025 年、サウスカロライナ州ミッドランズ地域の家族のために新築住宅や子ども用のおもちゃの家（プレイハウス）を建設するなどの顕著な貢献と支援が認められ、Central South Carolina Habitat for Humanity のトップティア財団賞を受賞しました。



左から右：アフラック従業員のジョエル・ミッチェル、アンジェラ・カイザー、アシュリー・ダウンズ（右端）と団体任意保険シニア・バイス・プレジデントのボブ・ラフ。総勢65人が住居建設や子ども用のおもちゃの家（プレイハウス）作りに貢献しました。

Indian Waters Council of Scouting America

サウスカロライナ州 19 郡の青少年とそのご家族を支援するスカウティング・アメリカに属するカウンシル。

アフラックは、がんを抱える若者たちに「Scouting Cares Kit」100 セットを贈呈しました。バックパックには、スカウティング活動に必要な品、『Scout Life』誌、スカウティング・アメリカのブランケットなど、安心して過ごすための品がいっぱいに詰められています。

Mission Lexington Coat Drive

食料、衣類、住居、各種リソース、相談支援など、サウスカロライナ州レキシントン郡における危機対応と生活必需支援の中核的機関。年間約 4 万人の州民にサービスを提供。

アフラックの従業員は、支援を必要とする地域の人々が暖かく、安心して過ごすためのコート 46 着を寄贈しました。



左から右：アフラック従業員のアマンダ・グローバーさんと、アンジェラ・カイザーさん。Mission Lexington向けに従業員から寄せられたコートとともに。

South Carolina Youth Advocate Program

里子ケアや地域密着型サービスを推進するサウスカロライナ州の中心的プログラム。

アフラックは、州内で里子として暮らす 200 人に年齢に応じた学用品を詰めた新しいバックパックを贈呈しました。

SC Thrive

サウスカロライナ州の住民を、食料支援や高齢者向けプログラム、医療アクセス、メンタルヘルスに関するリソースや経済的支援などの必須サービスにつなぐ団体。

アフラックは SC Thrive Youth Service Showcase に資金提供し、サウスカロライナ州内の学生によるボランティアサービスプロジェクトを称えました。同団体は、学生が自分たちのコミュニティで前向きな変化を生み出すためのスキルや知識の習得を支援しています。

Central Carolina Community 財団

アフラックは、Central Carolina Community 財団を通じて、医療アクセス、教育機会、重要な地域サービスの向上に取り組む以下の団体に助成金を拠出しました。

Boys & Girls Clubs of the Midlands | Caring and Sharing of Hemingway, S.C. | Columbia Museum of Art | Columbia Urban League Inc. | Dyslexia Resource Center | Home Works of America, Inc./ Columbia | Hopeful Horizons | Kershaw Area Resource Exchange | Make a Wish Foundation of South Carolina | Meals on Wheels of Summerville, Inc. | NothingPink | Palmetto Place Children and Youth Service | Reading Partners South Carolina | Richland County Public Education Partners | Senior Resources, Inc. | Smith Medical Clinic, Inc. | South Carolina Youth Advocate Program | Special Olympics South Carolina | The Community Kitchen of Myrtle Beach | Boys Farm, Inc. | Bridges of Hope | Camp Cole | Children's Attention Home, Inc. | Communities In Schools of South Carolina | Dickerson Children's Advocacy Center | Doors to Dream | Feonix - Mobility Rising | FIRST South Carolina | Girls on the Run Upstate SC | Good Samaritan Clinic | Greenville Literacy Association | Harvest Hope | IT-oLogy | Leeza's Care Connection | Logan Elementary Foundation | Lowcountry Orphan Relief - Midlands Orphan Relief | Mission Lexington | Once Upon a Room | Public Education Partners | Richland Library Friends and Foundation | Serve & Connect | Sight Savers America | The Free Medical Clinic | The Robinhood Group

私たちの地域社会への配慮

HBCUへの投資

アフラックはおよそ 25 年にわたって、十分に支援が行き届いていないコミュニティを対象にした健康アウトカムの改善、認知の向上、専門的な能力開発機会へのアクセス拡大を目的としたイニシアチブに投資を行ってきました。最新のデータでは、黒人成人の 62%が医療債務に不安を抱え、予期せぬ 500 ドルの医療費に対して 38%が借金をせざるを得ないと回答しており、白人成人の 26%と比べて高いことが示されています。



アフラックのブランド&クリエイティブサービスチームに所属するケンドラ・フリーマンさん、タニシャ・コルバートさん、キンバリー・スコットさん。HBCU All-Stars LLCのCEO兼創設者のトラビス・L. ウィリアムズさんとともに、2025年のHBCUオールスターズゲームにおいて、財団支援のための小切手を贈呈しました。

こうした取り組みに対する当社のコミットメントは、HBCU への長年の投資に表れており、HBCU の学生、ご家族、支援者に影響する体系的な課題に対する意識を高め、解決策を後押ししています。見過ごされ、十分な支援を受けられていない人々への認知向上と資金提供の必要性を踏まえ、アフラックは 2025 年を通じて、キャリア準備の促進、教育機会へのアクセス拡大、大学スポーツのプラットフォームを通じた学生エンゲージメントの向上に注力しました。

この活動の一環として、アフラックは第 4 回 HBCU オールスターゲームに参加し、教育機会へのアクセス拡大に資するスポーツを基盤としたプラットフォームを支援しました。2025 年の大会では、同プログラム初となる女子バスケットボールの試合がダブルヘッダーとして組まれ、NCAA ディビジョン I および II に所属する全米大学体育協会 (NCAA) の 4 つの HBCU から選抜された男女計 24 名の学生アスリートが出演し、節目となりました。男女両プログラムを称えるため、アフラックは前年から拠出額を倍増し、HBCU オールスターズ奨学金基金に 5 万ドルを提供しました。これらの資金は、支援を必要とする現役 HBCU 学生への経済的援助に加え、HBCU での高等教育を目指す高校生への奨学金に充てられます。

アフラックは HBCU でのキャリア発展機会の支援も続けています。2025 年はグランプリング・ステート大学の「Career Clothes Closet」プログラムに寄付を行いました。同プログラムは、面接やネットワーキング、キャリア関連イベントのためのプロフェッショナルな服装やリソースへのアクセスを提供し、学生のキャリア準備を手助けします。アフラックからの 1 万ドルの寄付は、スーツやドレス、仕事の場面にふさわしいアクセサリなど継続的な必需品用の資金に充てられます。



米国ヒスパニック系コミュニティでの活動

2025年、アフラックは、米国におけるヒスパニック系の人々と強固な絆を築くために、引き続き、文化や言語に根ざした有意義な情報をスペイン語で提供しました。小児がんや鎌状赤血球症に直面している人々にMy Special Aflac Duck®をはじめとする安心につながる支援を提供するとともに、健康習慣の重要性や補完医療保険、特に当社がん保険の価値についての啓発に努めました。

4月には、2025年Aflac Wellness Matters Survey®の結果から、米国のヒスパニック系の人々は自分の健康に関して家族の後押しを受けて行動を起こす傾向があり、なかでも母親がその役割を担っていることがわかりました。

10月には、2025~2026年Aflac WorkForces Report®を公表し、米国のヒスパニック系労働者にとって重要な課題、たとえば医療アクセスや、福利厚生パッケージがロイヤルティ、エンゲージメント、メンタルウェルビーイングの促進に果たす役割などを明らかにしました。



全米でのコミュニティ・インパクト

アフラックの「Agents of Care」プログラムは、地域社会への貢献や人々の人生にポジティブな変化をもたらすというアフラックのミッションを実践したアフラックの募集人を表彰するものです。2020 年以降毎年、マーケットディレクターが、職務の枠を超えて、誰かのために時間や労力を注いだ人を推薦してきました。2025 年は 57 名が推薦され、全米で 6 名がその成果を認められて表彰され、その献身に対して 1 万ドルが授与されました。

アフラック・ディストリクト・セールス・コーディネーターのタマラ・キングさんとアフラックの募集人シエラ・メイソンさんが、竜巻による壊滅的な被災後の 5 週間にわたる救援活動を含め、セントルイスの地域社会に対する卓越した貢献によって表彰されました。年間を通じて、タマラさんとシエラさんは被災者に生活必需品を提供するために 1 万ドル以上を集め、社会的弱者へのヘアケア製品のために 1 万ドル以上の資金を集めました。二人はこのほかにも、核実験またはウラン採掘の被害者を支援し、放射線被爆補償法に基づく手続きを案内して補償の需給を支援するなど、地域社会で期待を超える取り組みを行いました。



アフラック米国セールス・ディストリビューション担当シニア・バイス・プレジデントのケン・マイアーとシニア・バイス・プレジデント兼セールスディレクターのネイト・ハリソンが、対象販売エリアでの2025年のAgents of Careアワードの受賞者であるアフラック・ディストリクト・セールス・コーディネーターのタマラ・キングさんとアフラックの募集人、シエラ・メイソンさんに小切手を贈呈。セントルイスの地域社会への貢献が評価されました。

付録



GRI内容インデックス

使用宣言	アフラック・インコーポレーテッドは、GRIスタンダードを参照して、2025年1月1日から2025年12月31日までの期間について、本GRI内容インデックスに引用されている情報を報告する。
使用したGRI 1	GRI 1:基礎2021

開示項目		開示場所
GRI 2: 一般的な開示 2021年		
2-1	組織の詳細	組織の名称：アフラック・インコーポレーテッド（ニューヨーク証券取引所のティッカー・シンボル：AFL） 所有権と法人格：アフラック・インコーポレーテッド（親会社）は、1973 年にジョージア州法に基づき法人化されました。 2025 Form 10-K：項目 1.「事業 - 概要」2 ページ 本社所在地：Aflac Worldwide Headquarters, 1932 Wynnton Road, Columbus, GA, U.S. 事業所所在地：「アフラック（米国法人） およびアフラック（日本法人） について」9 ページ 「アフラック（米国法人） およびアフラック（日本法人） について」9-33 ページ 2025 CDP レポート
2-2	組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	「本レポートについて - 報告範囲と境界」7 ページ 2025 Form 10-K：項目 1.「事業 - 長期的な成長戦略」2- 3 ページ 2025 CDP レポート
2-3	報告期間、報告頻度、連絡先	報告期間：2025 年 1 月 1 日から 2025 年 12 月 31 日 報告サイクル：年次 報告書の発行日：2026 年 3 月 報告書に関するお問い合わせ窓口：aflacir@aflac.com
2-4	情報の修正	該当なし
2-5	外部保証	「本レポートについて- 基準と枠組み」7 ページ、「環境 - スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量」57 ページ、「付録 - アフラックの温室効果ガス排出量に関する声明」103 ページ 2025 TCFD レポート 2025 CDP レポート

開示項目		開示場所
2-6	活動内容、バリューチェーン、その他の取引関係	「アフラック・インコーポレーテッドについて」1 ページ、「アフラック（米国法人） およびアフラック（日本法人） について」9- 33 ページ 2025 Form 10-K：項目 1.「事業 - 概要」2 ページ、「収益を生み出す活動」2 ページ、「アフラック（日本法人） について」3- 5 ページ、「アフラック（米国法人） について」5- 9 ページ、「全社（アフラック（日本法人） およびアフラック（米国法人） を除く） およびその他」9- 10 ページ 2026 年株主総会招集通知：「アフラック・インコーポレーテッドについて」表紙内側 2025 TCFD レポート 2025 CDP レポート アフラック・サプライヤー情報
2-7	従業員	「アフラック（米国法人） およびアフラック（日本法人） について - 高品質の補完保険商品を提供するリーディング・カンパニー」9 ページ 2025 Form 10-K：項目 1.「事業 - 人財」9- 12 ページ 2025 CDP レポート
2-8	従業員以外の労働者	アフラックはこの情報を開示していません。
2-9	ガバナンス構造と構成	「ガバナンス - 取締役会による監督」43 ページ 2026 年株主総会招集通知：「投票ロードマップ - 取締役候補の概要」7- 9 ページ、「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役会の構成 - 取締役候補」11- 16 ページ、「取締役の独立性」16 ページ、「取締役候補のスキル、経験、独立性」17 ページ、「取締役会のサクセッション・プランニングと更改プロセス」16 ページ、「当社の取締役会と委員会 - 委員会構成」21- 25 ページ ガイドライン 2025 TCFD レポート 2025 CDP レポート

開示項目		開示場所
2-10	最高ガバナンス機関における指名と選出	2026 年株主総会招集通知 ：「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役会の構成 - 取締役指名プロセス」18- 19 ページ
		ガイドライン
2-11	最高ガバナンス機関の議長	ダニエル・P. エイモス氏は 2001 年から取締役会議長を、1990 年から最高経営責任者を務めています。
		2026 年株主総会招集通知 ：「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 当社の取締役会と委員会 - 取締役会のリーダーシップ構造」20 ページ
2-12	インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	「ガバナンス - 取締役会の監督」43 ページ
		2026 年株主総会招集通知 ：「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 当社の取締役会と委員会 - 委員会構成」21- 25 ページ、「取締役会の責任 - 企業の社会的責任とサステナビリティへのコミットメント」29 ページ
		2025 TCFD レポート
		2025 CDP レポート
2-13	インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	「ガバナンス - 取締役会による監督」43 ページ
		2026 年株主総会招集通知 ：「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 当社の取締役会と委員会 - 委員会構成」21- 25 ページ、「取締役会の責任 - 企業の社会的責任とサステナビリティへのコミットメント」29 ページ
		2025 TCFD レポート
		2025 CDP レポート
2-14	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	「ガバナンス - 取締役会による監督」43 ページ
		2026 年株主総会招集通知 ：「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 当社の取締役会と委員会 - 委員会構成」21- 25 ページ、「取締役会の責任 - 企業の社会的責任とサステナビリティへのコミットメント」29 ページ
		2025 CDP レポート

開示項目		開示場所
2-15	利益相反	2026 年株主総会招集通知 ：「監査事項 - 関連者取引」75- 76 ページ
2-16	重大な懸念事項の伝達	2026 年株主総会招集通知 ：「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役会の責任 - 株主とのエンゲージメント - 取締役とのコミュニケーション」31 ページ
2-17	最高ガバナンス機関の集合知見	ガイドライン
2-18	最高ガバナンス機関のパフォーマンス評価	2026 年株主総会招集通知 ：「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役会の構成 - 取締役会の自己評価」19 ページ
		評価の頻度：年次 ガイドライン
2-19	報酬方針	2026 年株主総会招集通知 ：「投票ロードマップ - 役員報酬ハイライト」7 ページ、「2025 年役員報酬」9 ページ、「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役報酬」32- 33 ページ、「CD&A At- A- Glance」34 ページ、「役員報酬 - 概要 - 業績報酬の考え方」37 ページ、「2025 年役員報酬」47- 54 ページ、「追加の役員報酬計画の実践と手順」56- 58 ページ
		2025 TCFD レポート
		2025 CDP レポート
2-20	報酬の決定プロセス	2026 年株主総会招集通知 ：「投票ロードマップ - 最近の Say- On- Pay 投票」9 ページ、「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役報酬」32-33 ページ、「役員報酬 - 概要 - 2025 年 Say- On- Pay 投票の結果」41 ページ、「報酬の設計と思想 - 役員報酬の設定プロセス」42-43 ページ
		ガイドライン
		アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
2-21	年間総報酬総額の比率	2026 年株主総会招集通知 ：「役員報酬 - CEO 給与比率」70 ページ
2-22	持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	「アフラック・インコーポレーテッド会長兼最高経営責任者ダニエル・P. エイモスからのメッセージ」5- 6 ページ

開示項目		開示場所
2-23	方針声明	「ガバナンス」42 ページ、「倫理とコンプライアンス」46 ページ
		2026 年株主総会招集通知 ：「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役会の責任 - ガバナンス文書 - 行動倫理憲章」31 ページ
		行動倫理憲章
		サプライヤー行動憲章
		サプライヤー情報 - 倫理
		アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
2-24	方針声明の実践	「ガバナンス - 倫理とコンプライアンス」46 ページ アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
2-25	マイナスインパクトの是正プロセス	アフラックはこの情報を開示していません。
2-26	助言を求める制度 および懸念を提起する 制度	「ガバナンス - 倫理とコンプライアンス」46 ページ
		行動倫理憲章
		サプライヤー行動憲章
		サプライヤー情報 - 倫理
		アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
2-27	法令遵守	アフラックはこの情報を開示していません。
2-28	会員資格を持つ団体	「アフラック(日本法人) について - アフラック(日本法人) の受賞」21 ページ、「アフラック(米 国法人) について - アフラック・インコーポレーテッドの受賞、表彰、エンゲージメントお よびメンバーシップ」33 ページ
		2025 CDP レポート
		サプライヤー情報 - サプライヤーの多様性
		サプライヤー情報 - 持続可能な調達
2-29	ステークホルダー・ エンゲージメントへの アプローチ	「ガバナンス - 取締役会による監督 - リスク管理プロセス」45 ページ
		2026 年株主総会招集通知 ：「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役会の責任 - 株主とのエンゲージメント」30 ページ
		2025 CDP レポート

開示項目		開示場所
GRI 3: マテリアルな項目 2021		
3-1	マテリアルな項目の決定プロセス	「ガバナンス - 取締役会による監督 - リスク管理プロセス」45 ページ
3-2	マテリアルな項目のリスト	「ガバナンス - 取締役会による監督 - リスク管理プロセス」45 ページ
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	「サステナビリティ・ハイライト」38- 41 ページ、「ガバナンス」42- 46 ページ、「サイバーセキュリティによるお客様とデータの保護」47- 49 ページ、「政治活動報告」50 ページ、「資産運用」51- 53 ページ、「環境」54- 60 ページ、「人財」61- 78 ページ、「フィランソロピー」79- 96 ページ
		行動倫理憲章
		サプライヤー行動憲章
		サプライヤー情報 - 倫理
		アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
		2025年アフラック政治活動報告
		2025 TCFD レポート
		2025 CDP レポート
GRI 201: 経済パフォーマンス 2016		
201-1	創出、分配した直接的経済価値	収益:189億ドル 「アフラック（米国法人） およびアフラック（日本法人） について - 高品質の補完保険商品を提供するリーディング・カンパニー」9 ページ、「2025 年アフラック（日本法人） 財務ハイライト」11 ページ、「2025 年アフラック・インコーポレーテッド財務ハイライト - アフラック・インコーポレーテッド投資家情報」34- 35 ページ、「財務諸表からの抜粋」36- 37 ページ、「サステナビリティ・ハイライト - 責任投資」39 ページ、「フィランソロピー」40 ページ、「地域社会への投資」40 ページ、「コミュニティ投資とフィランソロピー」41 ページ、「資産運用」51- 53 ページ、「フィランソロピー」79- 96 ページ 2025 Form 10-K: 項目1.「事業 - 人財」9- 12ページ、項目 7.「経営陣による財務状況および経営成績の検討と分析 - エグゼクティブ・サマリー - 業績ハイライト」32ページ 2026年株主総会招集通知: 「2025年ビジネスハイライト」5ページ、「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - CD&A At- A Glance」34ページ、「役員報酬 - 概要- 2025年の事業概要」38ページ アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements 「資産運用 - サステナビリティ・ボンド」51ページ、「サステナビリティ・ボンドの枠組み概要」 2025 CDP レポート

開示項目		開示場所
201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	2025 Form 10-K ：項目 1A.「リスク要因 - 一般的リスク要因」25- 27 ページ
		2025 TCFD レポート
		2025 CDP レポート
201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	2025 Form 10-K ：項目 8.「財務諸表および補足資料 - 13. ベネフィット・プラン」178- 184 ページ
		2026 年株主総会招集通知 ：「役員報酬 - 2025 年役員報酬 - その他の報酬 - 確定給付年金」55 ページ、「役員報酬表 - 年金給付」65 ページ
201-4	政府から受けた資金援助	該当なし
GRI 204: 調達慣行 2016		
204-1	地元サプライヤーへの支出の割合	2025 CDP レポート
GRI 205: 腐敗防止 2016		
205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	「サステナビリティ・ハイライト - 責任ある行動を促すためのポリシー」40 ページ、「ガバナンス - 倫理とコンプライアンス」46 ページ
GRI 207: TAX 2019		
207-1	税金へのアプローチ	アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
207-2	税務ガバナンス、管理およびリスクマネジメント	アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
GRI 302: エネルギー 2016		
302-1	組織内のエネルギー消費量	付録 - 「アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明」103 ページ
		2025 TCFD レポート
		2025 CDP レポート

開示項目		開示場所
GRI 305: 大気への排出 2016		
305-1	直接的な GHG 排出 (スコープ 1)	「環境 - 温室効果ガス削減の進捗」 55 ページ、「スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量」 57 ページ、付録 - 「アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明」 103 ページ
		2025 TCFD レポート
		2025 CDP レポート
305-2	間接的な GHG 排出 (スコープ 2)	「環境 - 温室効果ガス削減の進捗」 55 ページ、「スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量」 57 ページ、付録 - 「アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明」 103 ページ
		2025 TCFD レポート
		2025 CDP レポート
305-3	その他の間接的な GHG 排出 (スコープ 3)	「環境 - スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量」 57 ページ、付録 - 「アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明」 103 ページ
		2025 TCFD レポート
		2025 CDP レポート
305-4	温室効果ガス (GHG) 排出原単位	2025 CDP レポート
305-5	温室効果ガス (GHG) 排出量の削減	「サステナビリティ・ハイライト - 環境」 39 ページ、「環境 - 温室効果ガス排出量の進捗」 55 ページ
		2026 年株主総会招集通知 : 「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役会の責任 - 企業の社会的責任とサステナビリティのハイライト - 環境」 29 ページ
		2025 TCFD レポート
		2025 CDP レポート
GRI 306: 廃棄物 2020		
306-4	処分されなかった 廃棄物	「環境 - 廃棄物の削減」 58 ページ

開示項目		開示場所
GRI 401: 雇用 2016		
401-1	従業員の新規雇用と離職	「人財 - 従業員の多様性 - 従業員は、当社が事業展開している地域社会を映し出す - 米国の従業員の新規採用」 75 ページ 2025 Form 10-K : 項目 1.「事業 - 人財 - 従業員の構成」 10 ページ
401-2	フルタイム従業員には支給され、有期雇用の従業員やパートタイム従業員には支給されない手当	「人財 - 従業員の健康推進とワーク・ライフ・バランス」 62 ページ 2025 Form 10-K : 項目 8.「財務諸表および補足資料 -13. ベネフィット・プラン」 178-184 ページ 2026 年株主総会招集通知 : 「役員報酬 - 2025 年役員報酬 - その他の報酬 - 401(k) 貯蓄および利益分配制度」 55 ページ、「その他のベネフィット」 55 ページ アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
401-3	育児休暇	「人財 - 人財開発 - 日本の Work SMART」 71 ページ
GRI 404: 研修と教育 2016		
404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	「人財 - 人財開発」 69 ページ 2025 Form 10-K : 項目 1.「事業 - 人財 - タレント」 10 ページ アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
GRI 405: ダイバーシティと機会均等 2016		
405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	「サステナビリティ・ハイライト - 従業員の構成」 41 ページ、「人財」 72 ページ、「ガバナンス - 取締役会による監督」 43 ページ、「従業員は、当社が事業展開している地域社会を映し出す」 74- 75 ページ 2025 Form 10-K : 項目 1.「事業 - 人財 - 従業員の構成」 10 ページ 2026 年株主総会招集通知 : 「投票ロードマップ - 取締役候補の概要」 7- 8 ページ、「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役会の構成 - 取締役会のサクセッション・プランニングと更改プロセス」 16 ページ、「取締役候補のスキル、経験および独立性」 17 ページ EEO-1 レポート

開示項目		開示場所
405-2	基本給と報酬の男女比	「人財 - 従業員の多様性 - 従業員は、当社が事業展開している地域社会を映し出す - 公平な報酬」 75 ページ
GRI 415: 公共政策 2016		
415-1	政治献金	「ガバナンス - 政治活動報告」 50 ページ 2025 年アフラック政治活動報告
GRI 417: マーケティングとラベリング 2016		
417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	該当なし 「アフラック（米国法人） およびアフラック（日本法人） について - アフラック（米国法人）のマーケティング戦略」 28 ページ
GRI 418: 顧客プライバシー 2016		
418-1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	該当なし 「サイバーセキュリティによるお客様とデータの保護」 47- 49 ページ

独立監査人によるレビューレポート アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明

独立監査人によるレビューレポートおよびアフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明については、[こちら](#)（英語のみ）をご覧ください。

オペレーショナル指標 用語集

当社は、この文書に含まれる業務指標を以下のように定義している。

- **オペレーティング・レシオ**は、当社の財務状況と収益性を評価するために用いる。例として以下が含まれる。(1)調整後収益合計に対する比率、すなわち収益合計に占める事業費の割合、(2)保険金給付金比率を含む保険料合計に対する比率。オペレーティング・レシオには以下が含まれる：保険金給付金比率、事業費率。
- **新契約年換算保険料**は、新契約または販売と呼ばれることもある。当社の財務諸表には反映されない経営指標である。通常、新契約年換算保険料は、当社が販売した保険契約および特約の年換算保険料、並びに保険契約の転換による増加分を指し、当該保険契約が当該12か月間を通じて有効であるとの仮定のもとに徴収される金額をいう。アフラック（日本法人）において、新契約年換算保険料は、報告期間中に提出された契約申込によって決定される。アフラック（米国法人）において、新契約年換算保険料は、報告期間中に成立した契約申込によって決定される。契約の転換による増加分とは、保険契約が当該報告期間中に拡充された場合の、年換算保険料の正の差額と定義される。当社は、この指標が当社の将来の収益源を示す重要な指標であると考えている。
- **保有契約年換算保険料**は、保険契約者が保障を維持するために1年間に支払う必要のある保険料総額である。保険料収入（純額）の伸びは、有効契約の保険料の変動および加重平均の円／ドル為替レートの変動の双方の影響を直接的に受ける。当社は、収益源を示す重要な指標として活用している。
- **契約継続率**は、一定期間（通常は1年間）の期末時点における有効な保険契約の割合を指し、過去12か月の平均で示される。例えば、契約継続率95%とは、期首に有効だった保険契約の95%が、期末時点でも継続していることを意味する。この指標は、保有契約の水準を測る重要な要因であり、当社の事業規模と将来の収益源を示すことから、当社は、これを重要な指標と考えている。
- **トータル・シェアホルダー・リターン（TSR）**は、一定期間における当社普通株式1株当たりの総合的なリターン（株価上昇および受取配当を含む）をパーセンテージで示す財務パフォーマンス指標である。当社は、TSRをアフラック株主にとっての長期的な投資価値を測る有効な指標であると考えている。

取締役

ダニエル P. エイモス

アフラック・インコーポレーテッド
会長兼最高経営責任者

W. ポール バウワース

ジョージア・パワー・カンパニーの
元会長兼最高経営責任者

アーサー R. コリンズ

ザ・グループ創業者兼会長

マイケル フォレスター

コッパー・ロック・キャピタル・パートナーズの
元最高経営責任者

細田 満和子

星槎大学教授

トーマス J. ケニー

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント
グローバル・フィクスト・インカムの
元パートナー兼共同代表

ジョー・ジェット D. カイザー

ザ・カーライル・グループの
元マネージング・ディレクター兼
チーフ・インフォメーション・オフィサー

キャロル F. ロイド

公認会計士
アーンスト・アンド・ヤング LLP の
元監査パートナー

森 信親

株式会社日本金融経済リサーチ
代表取締役

ジョセフ L. モスコウィッツ

プライメリカ・インクの
元エグゼクティブ・バイス・プレジデント

キャサリン T. ローラー

プリンストン大学名誉副学部長

経営陣

ダニエル P. エイモス

アフラック・インコーポレーテッド
会長兼最高経営責任者

ヴァージル R. ミラー

アフラック・インコーポレーテッド社長
アフラック（米国法人）社長

マックス K. ブローデン

アフラック・インコーポレーテッド
シニア・エグゼクティブ・バイス・プレジデント
チーフ・フィナンシャル・オフィサー

オードリー ブーン ティルマン

アフラック・インコーポレーテッド
シニア・エグゼクティブ・バイス・プレジデント
最高法律顧問

チャールズ D. レイク二世

アフラック・インターナショナル社長
アフラック生命保険株式会社
代表取締役会長

古出 眞敏

アフラック生命保険株式会社
代表取締役社長

スティーブン K. ビーバー

アフラック生命保険株式会社
取締役専務執行役員
チーフ・フィナンシャル・オフィサー

ブラッドリー E. ディスリン

アフラック・インコーポレーテッド
エグゼクティブ・バイス・プレジデント
グローバル・チーフ・インベストメント・オフィサー
アフラック・グローバル・インベストメンツ社長

フレデリック J. シマード

アフラック（米国法人）副社長

ロビン L. ブラックモン

アフラック・インコーポレーテッド
フィナンシャル・サービス担当
シニア・バイス・プレジデント
チーフ・アカウンティング・オフィサー

アフラック・インコーポレーテッド

(ニューヨーク証券取引所のティッカー・シンボル：AFL)

当社および Form10-K を含む米国証券取引委員会 (SEC) 提出書類、本レポートに関する詳細は、下記までお問い合わせください。(英語のみ)

インターネット:

investors.aflac.com または
investors.aflac.com/Sustainability

電話:

+1.800.235.2667 または +1.706.596.3264

Eメール:

aflacir@aflac.com

シェアホルダー・サービス

個別株式記録、配当金再投資、配当金支払、配当金納税申告書、または配当金の口座振込に関する情報やサポートについては、下記までお問い合わせください。(英語のみ)

インターネット:

<https://shareholder.broadridge.com/aflac>

電話:

+1.800.227.4756 または +1.706.596.3581

Eメール:

shareholder@broadridge.com または shareholder@aflac.com

© 2026 アフラック・インコーポレーテッド 無断複写・転載を禁じます。

アフラック・インコーポレーテッド

1932 Wynnton Road
Columbus, GA 31999
+1.706.323.3431

